

長池キタノハシ遺跡

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書II

2000

石川県野々市町教育委員会
野々市町御経塚第二土地区画整理組合

長池キタノハシ遺跡

野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係る

埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2000

石川県野々市町教育委員会
野々市町御経塚第二土地区画整理組合

例　　言

- 1 本書は石川県石川郡野々市町長池町に所在する長池キタノハシ遺跡の発掘調査報告書である。遺跡名は発見時に字地名の聞き取りにより長池キタバシ遺跡としたが、「皇國地誌」では北橋（キタノハシ）と記され、今後は長池キタノハシ遺跡と呼称するものである。
- 2 調査原因は野々市町御経塚第二土地区画整理事業に係るもので、野々市町御経塚第二土地区画整理組合の委託を受け、野々市町教育委員会が平成2年度（第1次）、平成3年度（第2次）にわたり発掘調査を実施した。第1次調査は平成2年5月17日から12月13日にかけて実施した。第2次調査は平成3年10月29日から12月16日にかけて実施した。調査面積は4420m²である。発掘調査は吉田淳（野々市町教育委員会）が担当し、横山貴広（野々市町教育委員会）・田村昌宏（現石川県埋蔵文化財センター）の補佐を受けた。
- 3 発掘調査にあたっては御経塚第二土地区画整理組合理事長　塙崎吉信、副理事長　杉林敏信、塙崎昭夫をはじめ組合員各位、長池町各位、野々市町都市計画課の協力を得た。
- 4 発掘調査の現地作業は次の方に参加して頂いた。
伊藤忠行、猪又邦子、大村尊子、尾崎義雄、北和子、倉由樹子、小松義一、小柳幹男、三納友吉、高出マチ子、谷口珠江、塙本千代子、塙本友枝、塙本房子、塙本美和子、遠塙一豊、長田外美子、橋本富代子、長谷川啓子、浜野光嶽、早崎長三、半村美紀子、東猛、本田喜代美、本田典子、宮野渡　山口恵子、吉田邦一
- 5 本書の執筆編集は吉田が担当し、遺物の写真撮影を永野勝章（野々市町教育委員会）が行った。遺構の検討は布尾和史（現野々市町教育委員会）の補佐を受けた。出土品の整理作業は次の方に参加して頂いた。
市村美知栄、大杉　幸江、長谷川啓子
- 6 発掘調査及び本書の執筆にあたっては下記の方々から御教示・指導を得た。記して感謝申し上げたい。
垣内光次郎、木越隆三、出越茂和、橋本澄夫、藤田邦雄、増山　仁、南　久和、山本直人、湯尻修平（敬称略）
- 7 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。
 - (1) 本書での遺構・地図等の方位はすべて真北を表示する。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、(m)で表示する。
 - (3) 各図の縮尺は以下のとおりである。
遺構 1/250、1/200、1/120、1/80、1/60
土器 1/3、石器その他1/2、1/3、1/5
 - (4) 出土遺物実測図中の番号は、遺構図出土位置及び遺物一覧表並びに及び写真図版中の番号に対応する。
 - (5) 遺構名の略号は以下のとおりである。
竪穴建物（S I）、掘立柱建物（S B）、柵列（S A）、井戸（S E）、竪穴状遺構（S X）、土坑（S K）溝（S D）、ピット（S P）、道（S S）、橋（S G）
- 8 本遺跡の出土遺物、記録資料は野々市町教育委員会が一括保管している。

目 次

第1章 位置と環境	1
第1節 地理的環境と遺跡の位置	1
第2節 周辺の遺跡	1
第2章 調査の経緯と経過	2
第3章 遺構と遺物	9
第1節 概要と土層	10
第2節 古代以前の遺構と遺物	10
1 竪穴建物	10
2 遺物	11
第3節 中世以降の遺構と遺物	14
1 地区の設定	15
2 N 2 区	15
3 N 1 区	29
4 S 1 区	55
5 S 2 区	67
6 S 3 区	100
7 耕作区	111
遺物一覧表	116
第4章 まとめ	120
第1節 出土陶磁器類の組成	120
第2節 土師質土器の分類	121
第3節 中世後期における遺構変遷と集落構造	121
写真図版	

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境と遺跡の位置

古来より墨れ川として知られる手取川は鶴来町で流路を北より急激に西に向きを変え日本海にそそぐが、氾濫のたびに流れを南遷し現在にいたっている。この手取川によって形成された扇状地は鶴来町を扇頂として扇径約12km、展開度約110度の規模をもち勾配は扇央1/170、扇端1/200を測る。東側では富樺山地の低い急崖と接し、北東端では同山地からの伏見川の形成する泉野扇状地と重なり不鮮明となる。

石川県石川郡野々市町はこの手取川扇状地北東部の扇央から扇端部にかけて南北、6.7km東西4.5km、面積13.56km²の町域を有している。石川県のほぼ中央に位置し、北及び東は金沢市、西は松任市、南は鶴来町に接する。

都市近郊の農業地帯として経済基盤を確かなものとしてきたこの地域は、1970年代後半に田園を市街化する目的で地区画整理事業の開始とともに、農村と新興住宅街が混在する地域と移り変わっていた。しかも近年の人口集中と農業衰退が加わり都市開発は急速に進行を速め、旧來の景観を失い商業地、住宅地へと一変した。

長池キタノハシ遺跡は野々市町北西部の長池町に所在する。JR野々市駅の西北西200mに位置し、郷用水分流の大塚川と安原川に挟まれる海拔13mの微高地上に立地する。扇状地の端部は河川や小支流があり組み起伏の複雑な地形であるが、現在は近世及び明治大正期の耕地整理にいたる開発を経て平坦な地形となっている。周辺の調査では東西にほぼ100m前後の距離をおき河道跡や低湿地を確認しており、遺跡の多くはこの低地間南北方向の微高地上に展開している。

第2節 周辺の遺跡

本遺跡の所在する手取川扇状地北端部周辺は遺跡の密集する地域として知られ、縄文時代から中近世にわたり注目する遺跡も多い。多岐にわたる開発に伴う遺跡の発見が相次いでいる地域である。

古代以前 縄文時代前期末より中期初頭の土器が出土した上安原遺跡(01047)がもっとも古い時期であり、中期中葉の古府ヒビタ遺跡(01078)、後葉の北塙遺跡(01088)、後期前葉の押野大塚遺跡(16038)が存在する。後期中葉以降遺跡は増加し、馬替遺跡(01400)、米泉遺跡(01125)、御経塚遺跡(16027)、新保本町チカモリ遺跡(01064)、中屋遺跡(01050)、中屋サワ遺跡(01052)、長竹遺跡(08044)、乾町遺跡(08045)など標識遺跡をはじめ注目される遺跡が集中する生活基盤の安定した地域である。

弥生時代では扇部の八山中遺跡(08128)、御経塚遺跡、扇穴部では前述の乾町遺跡で最古の弥生土器が出土している。中期になるとⅡ様式の良好な資料が出土したハネジフリ遺跡(01059)が北方に位置するが散発的な様相である。後期には安定した幅作を背景とする人口の増加とともに集落の形成が活発化し遺跡は急激に増加する。横江古屋敷遺跡(08142)、御経塚シンデン遺跡(16030)、御経塚遺跡(ソカダ・ゾト地区)、二日市インバチ遺跡(16024)、長池ニシタンボ遺跡(16026)が近在し、東方では押野タチナカ遺跡(16036)、押野ウマワタリ遺跡(16037)などが形成される。

古墳時代にはいると遺跡は減少し、前期の集落では上荒屋遺跡(01053)、旭遺跡群の宮水遺跡(08121)、旭小学校遺跡(08123)が見られ、一塚墳墓・古墳群(08126)、御経塚シンデン古墳群(16031)、横江古屋敷遺跡では地域統合を物語る初期の前方後方墳を含む古墳群が出現する。しかし、これ以降集落の拡散により遺跡は減少しその後の嘗みは7世紀以降を待たなければならない。

奈良・平安時代には扇穴部で政治勢力を背景とした開発が着手される。一定の権力を有する首長の存在を象徴する白鳳の大寺院末松庵寺(16013)をはじめ、三浦遺跡(08034)や近年調査された上林新庄遺跡など大規模な基幹遺跡が増加し、8世紀には扇部で初期社園の横江莊遺跡(08135)と上荒屋遺跡が出現する。

中世以降 律令制の崩壊とともに手取川扇状地の再開発に取り組んだ在地領主の林・富樺氏は、藤原利仁の末裔と称する加賀斎藤氏の有力な武士団である。両氏とも「和名類聚抄」に載る石川郡の郷名を名字の地とし、林氏は野々市町南部から鶴来町にかけての押野郷、富樺氏は高橋川流域の富樺郷をこの地とする。承久の乱で朝廷側につき没落した林氏に対し、幕府側についた富樺氏は守護北条一門の下で勢力を発展させ在地領主の棟梁としての地位を確かなものとし



第1図 野々市町位置図

ていった。建武2年(1335)足利尊氏が富権高家を加賀守護に補任した後富権氏は守護所を野市に置いたとされ、14～15世紀には野市が加賀の政治・経済の中心となる。しかし、長寧2年(1488)富権政親が加賀一向一揆の攻撃により滅亡し、天文15年(1546)の金沢御堂建立以後は中心を金沢に明渡すことになった。この守護所とされる富権邸跡(16039)が野々市町本町・住吉町地内に所在し築城掘りの塙が確認されている。野々市町押野町には富権氏庶流押野氏の居館である押野館跡(16035)が所在し、館を巡る掘跡、掘立柱建物などの検出や14～15世紀代の遺物が出土している。

中世後期を主体とする本遺跡の南300mには14世紀後半頃の散居村の景観を有する二日市イシバチ遺跡(16024)、北北東400mには14～15世紀の御経塚遺跡デ地区、西500mの松任市横江町には林氏系横江氏が居を構えたとされる14世紀後半～16世紀頃の横江邸跡(08137)が存在する。またJR北陸本線南側の野々市町二日市・三日市地内では野々市町北西部土地区画整理事業開始に伴う分布調査において大規模な中世の遺跡が確認されている。

旧長池村の村名は小幡家文書の慶長4年(1599)前田利家宛行状に見られ、高免付給人帳では寛文年間(1661～1672)の家高数4、百姓数4とされている。『皇国地誌』には家数5・人数27とあり町村制施行後は石川郡郷村に所属した。

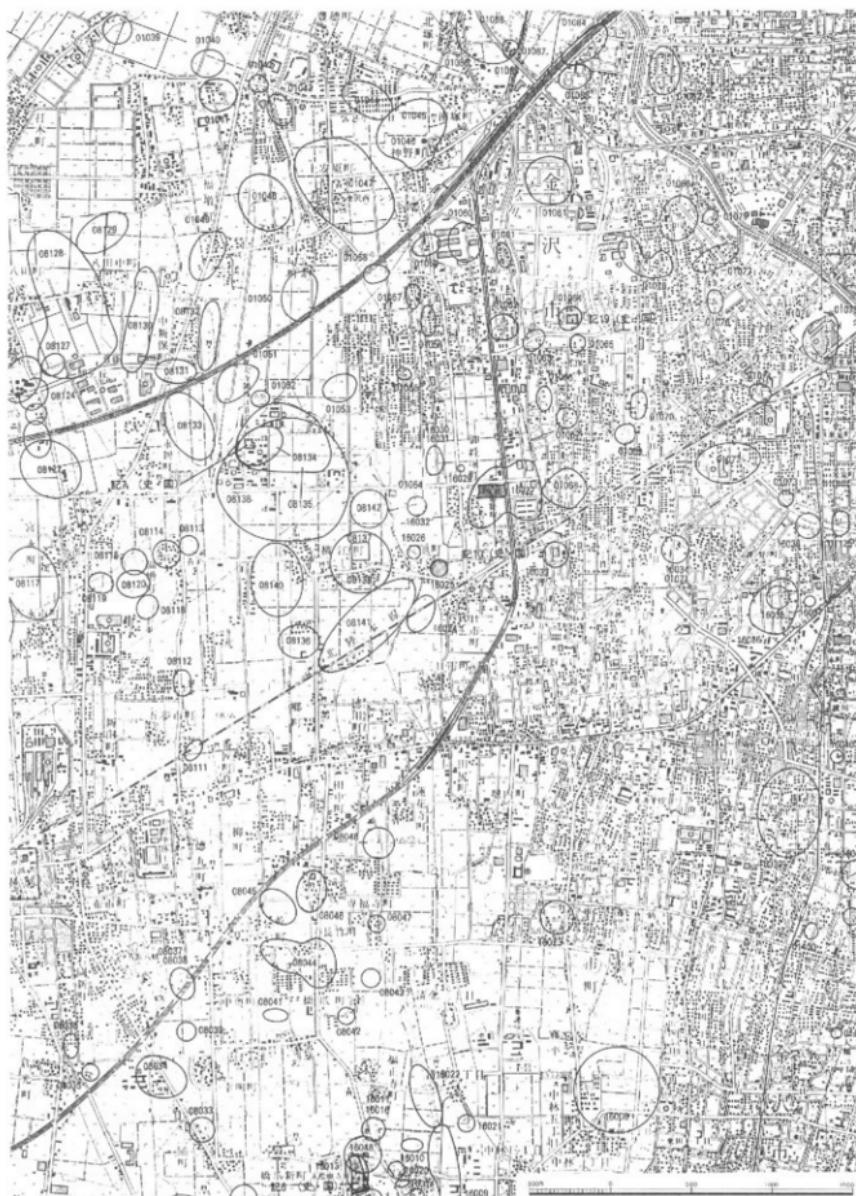
参考文献 『石川県の地名』 平凡社 1991年

『押野村史』 石川郡利野村史編集委員会 1956年

第2章 調査の経緯と経過

御経塚町周辺の野々市町北部一帯は国道8号線の開通後、昭和50年代には徐々に開発が進み金沢市近郊地域における道路の整備や住宅地の供給を目的とした土地区画整理事業が相次いで着工している。また8号線東側における御経塚第一土地区画整理事業完成後の昭和57年には御経塚町全域と長池町、二日市町の一部を含むJR北陸本線北側の地域について十地区画整理事業施行の機運が高まり地元では準備委員会が発足した。昭和59年(1984年)には土地区画整理事業認可が決定的な状況となり、この事業区域には周知の御経塚遺跡、御経塚塚の分布と新たな埋蔵文化財の存在が想定されることから、土地区画整理事業委員会、野々市町都市整備課、野々市町教育委員会の三者により事前協議を行い事業施行予定全域について埋蔵文化財の分布確認調査実施を確認した。昭和59年(1984年)11月30日付で60.1haにおよぶ面積が市街化区域に編入されている(第3図)。分布調査では新たに御経塚シンデン遺跡、御経塚オッソ遺跡、長池キタノハシ遺跡、長池ニシタンボ遺跡、二日市イシバチ遺跡が発見された。この後の協議で埋蔵文化財は記録保存を目的とする発掘調査とし、住宅及び店舗等が建設必至の街区内についても調査の対象範囲に含め野々市町教育委員会が受託事業として実施することになった。

長池キタノハシ遺跡の発掘調査は長池地区の工事計画に基づき平成2年度(1990年)に調査完了予定であったが、調査区内の街路予定部分に存在する農業用ハウス敷地については次年度の調査となった。平成2年度の第1次調査は5月17日に調査区の設定を行い翌日から重機による表土除去作業を開始した。造構検出作業は5月25日より作業員を導入してA10号街路から作業を開始し、耕作溝群を検出したA12号街路へ移動した。次に農業用ハウス北側の街区内地内調査に入った。調査は南から北へ順に進めたが、造構の密度は比較的高く当初の調査区を拡張している。中世後期の井戸群や豊穴状造構など、深い造構や大型の造構が多く検出に時間を費やした。この年の夏は猛暑にみまわれ、風の通りぬ井戸の検出は作業員への大きな負担となった。秋口には長雨が続き排水作業に明け暮れ、また井戸への転落事故防止の注意に務めたことが印象として残っている。10月12日からハウス南側の調査を開始し、10月19日から22日にかけて耕作地と考えられた東側調査区に再度入り東西トレレンチを数本設け造構の状況を確認した。調査区の拡張や調査の内容など事前の分布確認調査に問題の残った調査と言え反省する次第であるが、12月13日に面積4000m²の調査を終了した。A12号街路の築造が迫った平成3年度の第2次調査は10月29日に調査区を設定し同日から表土除去作業を開始した。11月1日より造構検出作業に入り造構密度が高く期限までの調査終了が危惧されたが、11月後半以降天候に恵まれ12月16日に面積420m²の調査を終えた。出土品の整理作業は平成9～10年度に実施した。

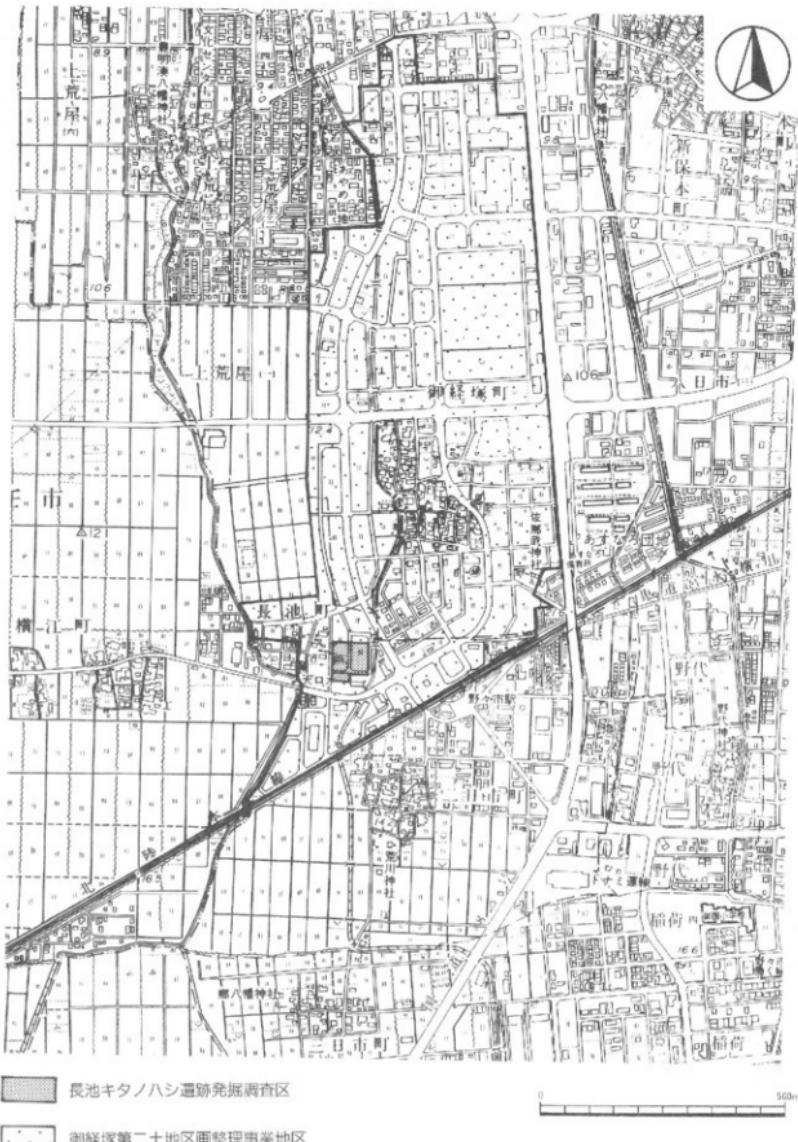


第2図 周辺の遺跡 (1/30000)「石川県遺跡地図」1992より

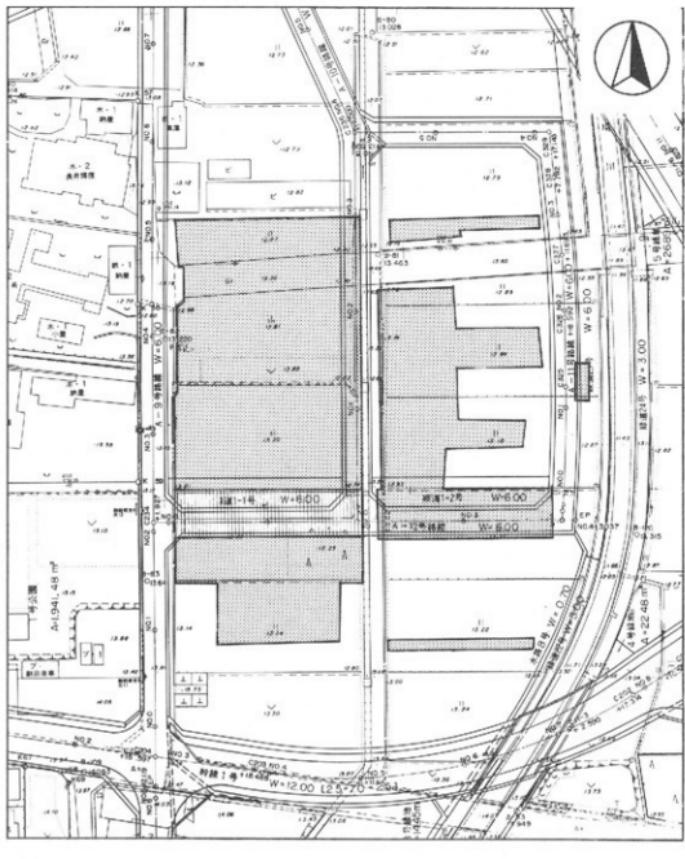
遺跡地図凡例

「石川県遺跡地図」石川県教育委員会1992より

野々市町			
16006 下新庄アラチ遺跡(奈)	01050 中星遺跡(繩)	08036 倉光船跡(繩)	
16008 萩田遺跡(繩・奈・平)	01051 下福培遺跡(繩～古)	08037 幸明経塚(安)	
16009 末松A遺跡(繩・平)	01052 中星サワ遺跡(繩・中)	08038 西方寺跡(安)	
16010 末松B遺跡(弥)	01053 上荒屋遺跡(繩～平)	08039 幸明遺跡(奈・平)	
16011 末松福正寺遺跡(古・平)	01055 上荒屋住宅遺跡(弥)	08041 橋爪ガノアナ遺跡(奈・平)	
16012 太松古墳(古)	01056 矢木マツノキダ遺跡(弥・古)	08042 橋爪松の木遺跡(中)	
16013 末松廃寺(奈・平)	01057 矢木ヒガシウラ遺跡(弥・古)	08043 橋爪遺跡(繩・弥・中・近)	
16014 末松C遺跡(奈・平)	01058 上安原陸橋遺跡(弥・古)	08044 長竹遺跡(繩～古・中)	
16016 福正寺跡(平)	01059 矢木ジフリ遺跡(弥・古)	08045 乾町遺跡(繩～近)	
16018 末松ダイカコ遺跡(奈～中)	01060 森戸バイパス遺跡(古)	08046 専福寺遺跡(中)	
16020 古元堂跡(?)	01061 森戸本町遺跡(繩)	08047 高田遺跡(繩・平)	
16021 末松柄鏡遺跡(中)	01062 森戸住宅遺跡(繩)	08048 田中ノダ遺跡(弥・古)	
16022 清金アガトワ遺跡(平～中)	01063 新保本町西遺跡(弥・古)	08111 五歩市遺跡(?)	
16023 三林鉢塚(安)	01064 新保本町カモリ遺跡(繩)	08112 あさひ佐遺跡(奈・平)	
16024 二日市イバナチ遺跡(繩・弥・中・近)	01065 新保本町東遺跡(繩・古)	08113 福増遺跡(繩・弥)	
16025 長池キタノハシ遺跡(繩・弥・中・近)	01066 新保本町ツカダ遺跡(弥)	08114 寝上市左工門館跡(室)	
16026 長池ニシタンボ遺跡(繩・弥・中・近)	01067 新保本町南遺跡(?)	08115 福澤東川遺跡(?)	
16027 御経塚遺跡(繩・弥・古・奈・中・近)	01068 八日市B遺跡(繩・奈・平)	08117 坊の森遺跡(弥・古・中)	
16029 御経塚御経塚(?)	01069 八日市サカイマツ遺跡(繩・奈・平)	08118 宮永市境田遺跡(奈・平)	
16030 御経塚シンデン遺跡(繩・弥・古・中)	01070 八日市ヤスマル遺跡(弥・奈・平)	08119 宮永雁塚遺跡(繩)	
16031 御経塚シンデン古墳群(古)	01072 押野西遺跡(繩・弥・奈・平)	08121 宮永遺跡(古)	
16032 御経塚オツソ遺跡(繩・弥・中)	01073 押野大塚古墳(古)	08122 宮永B遺跡(繩・古・中)	
16033 野代遺跡(繩)	01074 西金沢新町遺跡(古)	08123 旭小学校遺跡(弥・古)	
16034 上宮寺跡(奈)	01075 日本たばこ金沢工場遺跡(奈・平)	08124 一塚才オミナクチ遺跡(弥)	
16035 押野船跡(室)	01076 保古町遺跡(奈・平)	08125 一塚遺跡(繩・弥・中)	
16036 押野タチナカ遺跡(繩・弥)	01077 黒田B遺跡(平)	08126 一塚墳墓(古墳群)(弥・古)	
16037 押野ウマワツリ遺跡(弥)	01078 古府遺跡(繩)	08127 八田小船遺跡(弥)	
16038 押野大塚遺跡(繩・弥)	01079 黒田町三角点遺跡(古)	08128 八田中遺跡(繩～古)	
16039 富樺館跡(中)	01080 黒田町遺跡(平)	08129 八田中中村遺跡(近)	
16040 高橋ウバガタ遺跡(弥)	01081 松島ナカオサ遺跡(平～中)	08130 八田中七工モンダ遺跡(繩・弥)	
16043 扇が丘ハイゴイケ遺跡(繩～中)	01082 高畠遺跡(弥・古)	08131 八田中アレチ遺跡(繩・弥)	
金沢市			
01039 下安原遺跡(興・古・中・近)	01084 古府クリブ遺跡(弥～平)	08132 中新保遺跡(?)	
01040 安原工業団地B遺跡(弥～平)	01085 おまる塙古墳(古)	08133 下福培遺跡(繩・弥・奈・平)	
01041 安原工業団地A遺跡(弥・平)	01086 宇佐神社古墳(?)	08134 横江荘々家跡(平)	
01042 緑園地下水処理場遺跡(弥)	01087 北塙古墳群(古)	08135 横江荘遺跡(奈・平)	
01043 緑園団地公園遺跡(古・平)	01088 北塙遺跡(繩・弥・平・中)	08136 横江ゴクラク寺遺跡(繩・中)	
01044 上安原緑団地遺跡(弥・古)	01120 大類キヨウデン遺跡(?)	08137 横江館跡(中)	
01045 南塙遺跡(繩・古)	01121 扇台遺跡(繩・平)	08138 横江A遺跡(繩・弥)	
01046 びわ塙古墳(古)	01125 末泉遺跡(繩・弥・平)	08139 横江B遺跡(平)	
01047 上安原遺跡(古～平)	01400 馬替遺跡(繩)	08140 横江C遺跡(古)	
01048 中屋ヒシタ遺跡(奈～中)	08033 三浦常在光寺跡(繩)	08141 横江D遺跡(?)	
01049 福増遺跡(?)	08034 三浦遺跡(古・奈～中)	08142 横江古屋敷遺跡(弥)	
	08035 若林長門館跡(室・安)		



第3図 遺跡周辺及び調査区位置図 (1/10,000)



■ 平成2年(1990年)調査区

□ 平成3年(1991年)調査区

0 50m

第4図 長池キタノハシ遺跡調査区図 (1/1,000)



第3章 遺構と遺物

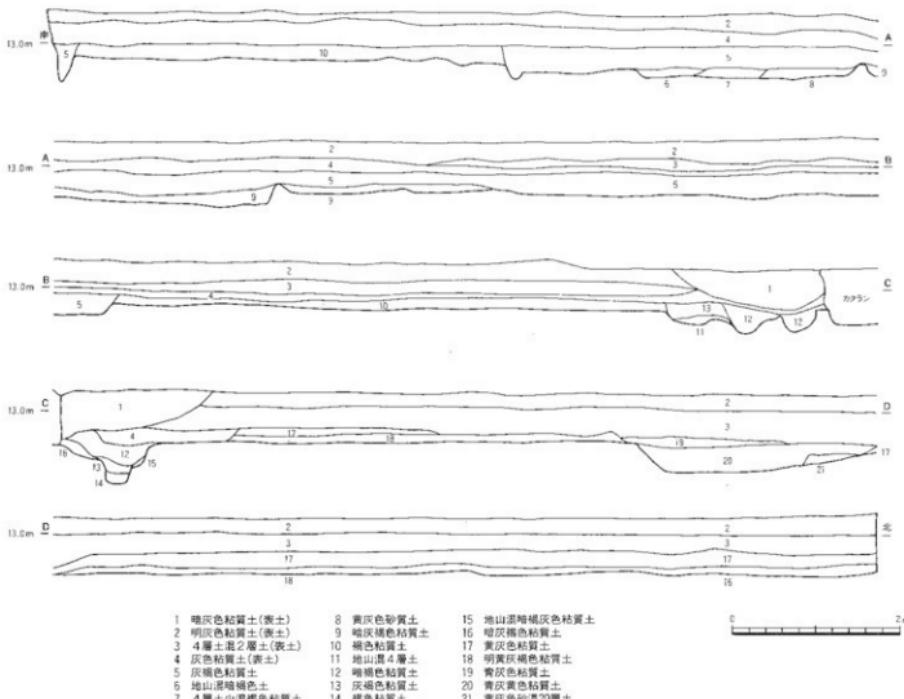
第1節 概要と土層

調査において検出した遺構は、竪穴建物(SJ) 3棟、掘立柱建物(SB)53棟、櫛列(SA) 5基、井戸(SE)49基、竪穴状遺構(SK)56基、土坑(SK)57基、溝(SD)29条、道(SS) 1条、ビット多数などである。ほとんどの遺構は、14世紀後半から16世紀前半の室町時代に所属する。他の時代では、弥生時代後期に属する竪穴建物1棟の検出と、江戸～明治期の遺物が出土する遺構を確認しているが、後者は調査の時間的制約があったため完掘したものはない。

遺物の主体期も遺構同様室町時代であり、生活に密着する陶磁器・石臼・石鉢・行火・開炉裏跡石などがおもに井戸及び竪穴状遺構から出土している。縄文時代から弥生時代の土器・石器は少量であるが出土し、江戸時代～明治期の陶磁器類なども一定量みられる。

各遺構は西調査区にそれぞれ群を構成して濃密に集中し、遺構の希薄な東調査区の状況とは明らかに異なる。西調査区は村落の集落区域、東調査区は耕作区域と考えられ幾つかの地区割りが可能であり詳細は後述したい。

調査区の基本土層として東調査区西壁の土層觀察図を図示した(第6図)。2～4層土が耕作土にあたり調査区全般に拡がる。中世期以前の遺構は5層土の下面から掘り込まれ、4層土は拵りの状況から近世期の水田整地土の可能性が高い。觀察図の6～9・11～16は中世期遺構の覆土、19～21は明治時代末頃から大正期にかけて実施された耕地整理以前の用水溝の覆土である。地山の標高は観察図南端で12.84m、北端では12.56mを測る。



第6図 東調査区 西壁土層断面図 (1/60)

第2節 古代以前の遺構と遺物

古代以前の遺構は弥生時代後期竪穴建物S 101を検出したにとどまり、他の時期については不明である。遺物についても量的に少なく、打製石斧の一定量が目立つにすぎない。

1 竪穴建物

S 101 (第7・8図)

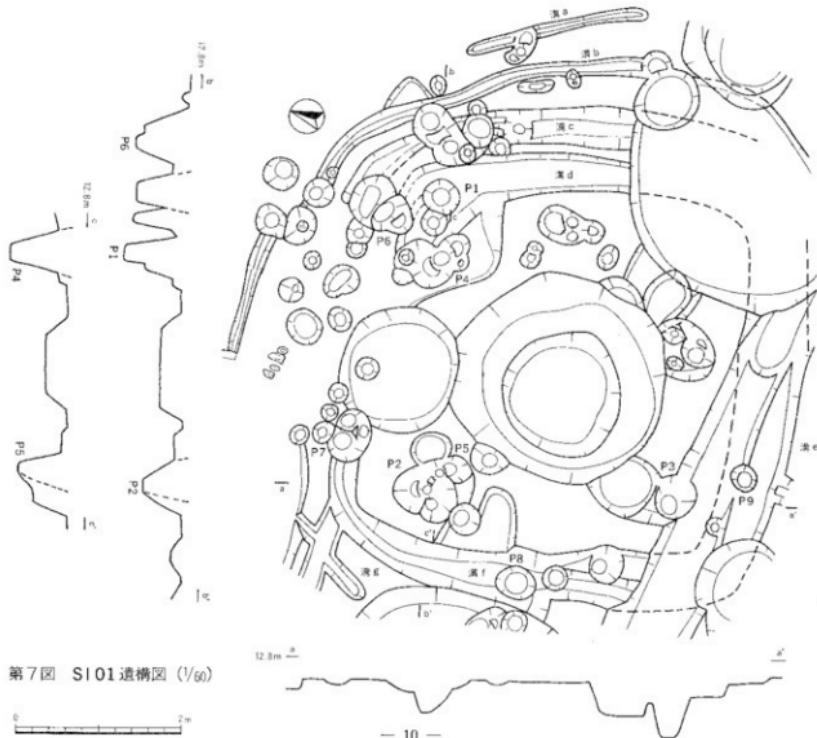
調査区南東部中央に位置するが、中世期の掘立柱建物や井戸、溝と複合し遺構の残存は悪い。隅丸方形状に廻ると考えられる溝d・e・f(以下S 101a)、溝c・e・f(以下S 101b)、平面六角形状に廻ると考えられる溝b・g(以下S 101c)を竪穴建物の壁溝と認識している。溝b・fは幅18~26cm、深さ4~6cm、溝cは幅40~62cm、深さほぼ15cm、溝dは幅36~60cm、深さ15~20cm、溝eは幅不明、深さほぼ25cm、溝fは幅33~40cm、深さ15~19cmを測る。竪穴建物は同心円上に建て替えを図っているが、新旧関係や転跡など他の施設は不明である。

S 101aの規模は東西5.5mを測り、南北も同規模と推定する。推定床面積は約28m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P4・P5を検出しており、構造は主柱方形4本となる。P4~P5の柱穴間は2.7mである。

S 101bの規模は東西6.0mを測り、南北も同規模と推定する。推定床面積は約33m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P1・P2・P3を検出しており、構造は主柱方形4本となる。柱穴間はP1~P2が3.6m、P2~P3は3.0mである。

S 101cは平面六角形形状で径約7.4m前後の規模をもち、主柱円形6本構造の竪穴建物と推定している。推定床面積は約40m²で中型の竪穴建物である。主柱穴P6・P7・P8・P9を検出している。柱穴間はP6~P7が2.8m、P7~P8、P8~P9は3.0mである。

遺物は5・6が溝fから出土した。また7~9はS 101と複合する中世期遺構に混入した遺物を図示した。時期は弥生時代後期後半の法仏式期新段階である。



第7図 S 101 遺構図 (1/60)

2 遺物 (第8・9図)

縄文時代の土器が数点出土しているが、3点を図示した。1は条線文が施される。2は口縁部小片であり、やや幅広の沈線文をもち、LR縦文で充填される。時期は後期中葉段階である。3は粗製の深鉢で、LR縦文。4は弥生時代前期柴山出村式期の浅鉢である。内外面とも角度で調整され、かつ赤彩される。ピットからの出土である。

弥生時代後期の遺物は、S 101付近で中世期の遺構への混入が目立ったものの、全体の量は少なく小片が調査区全般に散見していた状況である。10・11の器台は包含層からの出土である。古代の遺物では須恵器片3点出土した。図示した12は瓶で沈線間に櫛状具の刺突を施す。石器では打製石斧が21点出土し、このうち16点を図示した(13~28)。この内の21・27・28は刃部幅が10cmを越え、基部に対し幅広の形態をもつものである。また、磨製石斧(29)、石礫(30)は各1点の出土である。

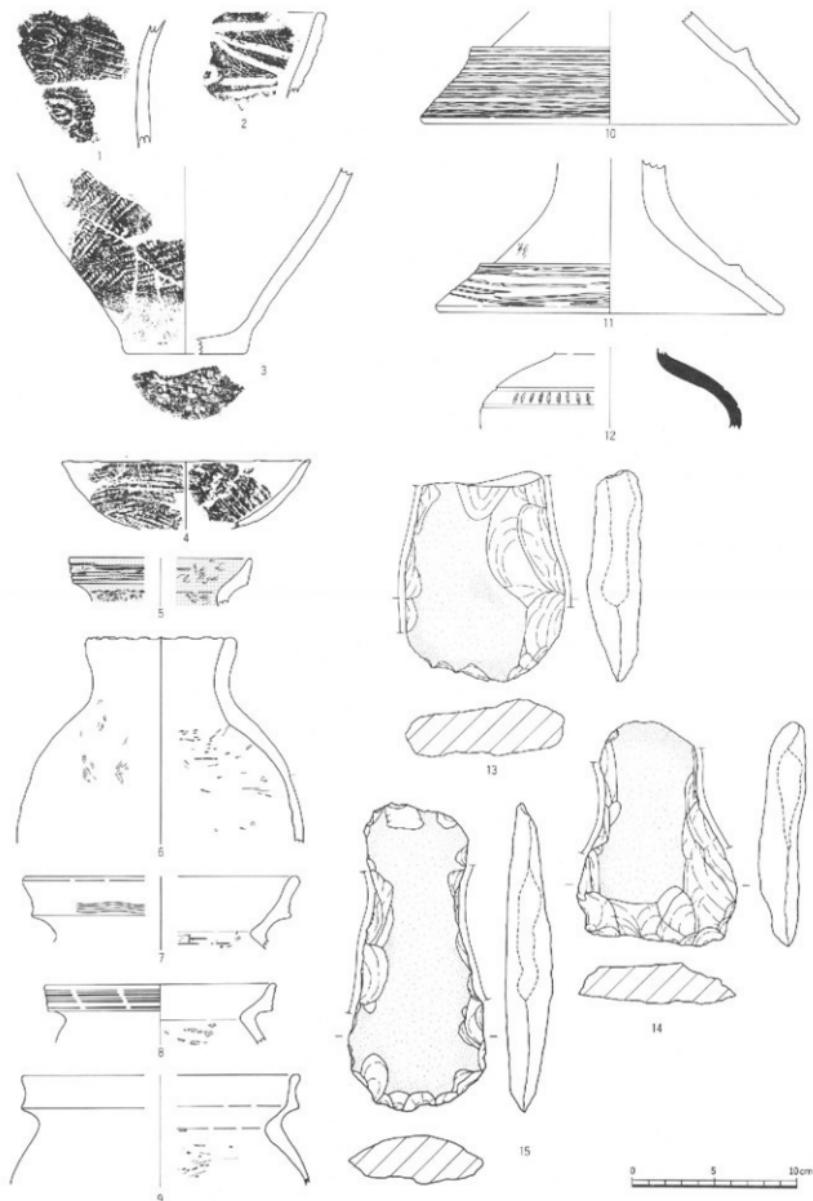
表1 古代以前の遺物一覧表

土 器

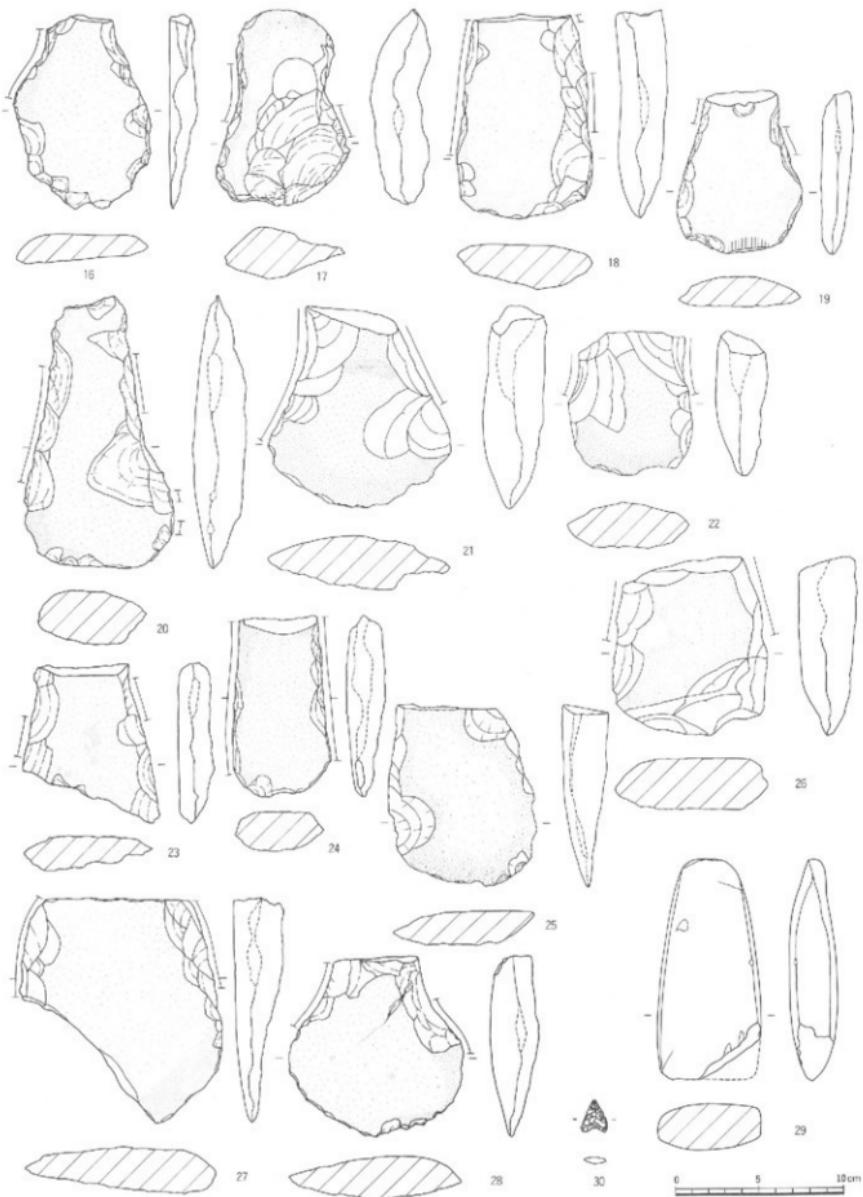
遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ()は推定	遺存	色調 外/内	備考
1	S D 0 8 a	深鉢		小片	暗褐色	縄文土器・後期中葉
2	S I 区	深鉢		小片	暗褐色	縄文土器・後期中葉
3	耕作区	底鉢		小片	暗褐色	縄文土器・LR縦文
4	N I 区	鉢	口径(205)	1/2	茶褐色	弥生土器
					内外赤彩	前期柴山出村式
5	S I 0 1	壺	口径(108)	1/8	淡黄褐色	内外赤彩
6	S I 0 1	壺	口径 90	1/4	淡橙褐色	
7	S E 4 3	甕	口径(166)	1/8	淡茶褐色	
8	S D 1 6 a	甕	口径 140	1/5	淡橙褐色	
9	S E 4 4	甕	口径(167)	1/8	暗褐色/褐色	
10	S 2 区	器台	底径 230	1/4	淡橙褐色	
11	S 2 区	器台	底径 210	1/5	淡橙褐色	
12	S E 0 2	瓶	胴径 160	1/5	青灰色	須恵器・9世紀第2四半期

石 器

遺物番号	出土地点	器種	法量(mm) ()は欠部				石質等備考
			長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
13	S D 0 4	打製石斧	(129)	97	33	(570)	安山岩
14	S X 0 1	打製石斧	138	98	25	(420)	火山礫凝灰岩
15	S E 1 1	打製石斧	189	84	29	560	火山礫凝灰岩
16	S D 0 8 a	打製石斧	(118)	83	16	(200)	火山礫凝灰岩
17	S D 1 0 a	打製石斧	119	81	32	360	綠色凝灰岩
18	S D 1 0 a	打製石斧	(125)	82	27	(480)	火山礫凝灰岩
19	S D 1 1	打製石斧	(100)	75	18	(200)	凝灰岩
20	S D 1 1	打製石斧	167	90	32	550	火山礫凝灰岩
21	S E 2 4	打製石斧	(123)	112	36	(505)	火山礫凝灰岩
22	S P 1 0	打製石斧	(89)	77	31	(242)	火山礫凝灰岩
23	S E 4 4	打製石斧	(96)	(78)	24	(185)	安山岩
24	S E 4 4	打製石斧	(111)	60	24	(238)	綠色凝灰岩
25	S E 4 1	打製石斧	(112)	85	20	(330)	安山岩
26	S X 3 6	打製石斧	(110)	93	31	(470)	火山礫凝灰岩
27	S E 4 6	打製石斧	(137)	118	31	(540)	火山礫凝灰岩
28	耕 土	打製石斧	(111)	107	29	(370)	安山岩
29	S D 1 0 a	磨製石斧	(135)	63	28	(440)	蛇紋岩
30	S K 4 8	石礫	20.0	15.0	3.5	0.9	輝石安山岩



第8図 繩文土器・弥生土器・SI01(5・6)・須恵器・石器 (1/3)



第9図 石器 (1/3) (30-1/2)



第10図 区域設定図 (1/500)

第3節 中世以降の遺構と遺物

1 地区の設定（第10図・第5図参照）

調査区域の様相については第1節の概要で若干述べたが、中世期がほとんどを占める遺構の分布状況には土地の用途と関連して一定の制約が加わっているものと想定される。このため、ここでは地区割の設定を行いたい。まず西調査区東端部の南北溝SD01・SD02・SD09を結ぶ南北ライン付近を境界とし、この西側を集落区（集住区、定住区、ムラ）に、東側を耕作区（ノラ）と設定した。耕作区には掘立柱建物SB52・53と付属する井戸SE49が存在するが、SE49はSD20に切られており、一時的なものと考えたい。また、両区域とも東西方向のSD08とS01によって南北に区画され、それぞれ北部、南部とした。

集落区、耕作区を南北に分け4地区に地区割を行ったが、集落区については掘立柱建物の群状分布と遺構の粗密をもとに、南北に区画する小地区を5区設けた。北部は溝SD05及びSD04の東西ラインによりN1区とN2区に分け、南部は方形区画溝SD10の南端ラインと掘立柱建物の分布状況からS1区、S2区、S3区に分けた。さらに、掘立柱建物が複合して構成する一つの群を基本単位として小区の設定を試み、N2区・N1区・S1区はそれぞれ二つの小区、S2区は四つの小区に分割した。このように地区を設定したが、便宜的なものもある。小地区的東西区画長は不明であるが、南北の区画長はN1区、S1区、S2区ともに約23m前後となった。

以下この地区割に従い中世期の遺構を主に報告する。各地区にまたがる溝は、断面作図位置の地区において報告した。なお、掘立柱建物について現場で認識できたものは少なく、図上の検討作業により積極的に掘立柱建物とした。全体に柱列の通りは良くなく、柱間寸法もばらつき平面形も歪むものが多い。規模については、矩形を基本としたため、柱間の合計長が一致しない場合もある。作業小屋の性格が強いとされる竪穴状遺構と土坑については、規模が長軸3m以上のものを竪穴状遺構とし区別した。井戸についても土坑との識別が曖昧な部分もある。各遺構の認定など疑問が生じるものや見落としあることを了承していただきたい。また、遺物については節末の表2中世以降の遺物一覧表、主要遺構の時期は第4章まとめの表4を参照していただきたい。



第11図 集落区-N2区 (1/200)

2 N2区（第11図）

集落区最北部に位置し、掘立柱建物3棟（SB01～03）、井戸8基（SE01～08）、竪穴状遺構7基（SX01～07）、土坑4基などを検出している。東半部の①区では掘立柱建物3棟と井戸3基が複合して一つの群を構成しているが、西半部の②区は竪穴状遺構と井戸により構成される。

(1) 堀立柱建物

S B01 (第12図)

①区に位置し、S B02・03と複合する。S B02・S E01・S K03を切る。梁行1間3.1m、桁行2間4.9m、床面積約15m²、主軸(N 10°E)を測る南北棟の側柱建物である。柱間寸法は西側柱穴P1～P2間3.1m、P2～P3間1.8m、東側柱穴P4～P5間2.9m、P5～P6間2.0mを測る。柱穴は円形でばらつきが見られるが、径60～95cm内に収まる。深さはP4が80cmと深く、他は50～55cmを測る。

S B02 (第12図)

①区に位置する。梁行1間2.6m、桁行1間4.0m、床面積約10m²、主軸(N 85°W)の東西棟である。柱穴は円形で、径50～68cm内に収まる。深さはP2が70cmと深く、他は45～55cmを測る。

S B03 (第12・18図)

①区中央部に位置する。S B01・02との切り合いは不明。梁行1間4.2m、桁行2間5.5m、床面積約23m²、主軸(N 3°E)を測る南北棟の側柱建物である。柱間寸法は西側柱穴P1～P2間2.6m、P2～P3間2.9m、東側柱穴P4～P5間2.9m、P5～P6間2.6mを測る。柱穴は円形と楕円形があり、大きさはばらつく。円形の柱穴はP4が径75cmと大きく、他は径32～38cmである。楕円形柱穴の大きさはP1が50×58cm、P2が40×62cmである。深さは14～38cmを測る。

(2) 檜列

S A01 (第13図)

①区S B群の東に位置する。P1～P6が東西に並び、これにP7～P10・P4列とP11～P12・P5列が南北に直交して二列並び、T字型となる。P1～P6間は1.4m・1.6m・1.45m・1.15mの計6.7m、P7～P10・P4間は2.3m・1.8m・2.2m・2.3mの計8.6m、P11～P14・P5間は2.1m・1.85m・2.65m・1.9mの計8.5mとなる。南北列の方位は(N 0°E)である。柱穴は円形で大きさは径20～50cm、深さも10～45cmとばらつく。

(3) 井戸

S E01 (第14・18図)

①区北に位置する。平面形は楕円形で長軸2.15m、短軸1.75m、底面径80cm、深さ2.0m、底面標高10.50mを測る。地山のシルト層は検出面から70cmの深さで砂の混ざる疊層となる。

S E02 (第14・18図)

①区S E01の西1.2mに位置する。平面形は楕円形で長軸1.6m、短軸1.45m、底面径80cm、深さ2.15m、底面標高10.40mを測る。

S E03 (第14・19図)

①区S E01の西1.2mに位置する。平面形は略円形で径1.0～1.15mである。深さ1.4mで検出を断念した。

S E04 (第14図)

②区北東に位置し、S X02と複合する。平面形は略円形で径1.1～1.2m。底面径95cm、深さ1.5m、底面標高10.81mを測る。

S E05 (第14・20図)

②区北東に位置し、S X02と複合する。平面形は円形で径1.4m、底面径1.15m、深さ0.9m、底面標高11.42mを測る。他の井戸より浅く土坑の可能性がある。

S E06 (第14・20図)

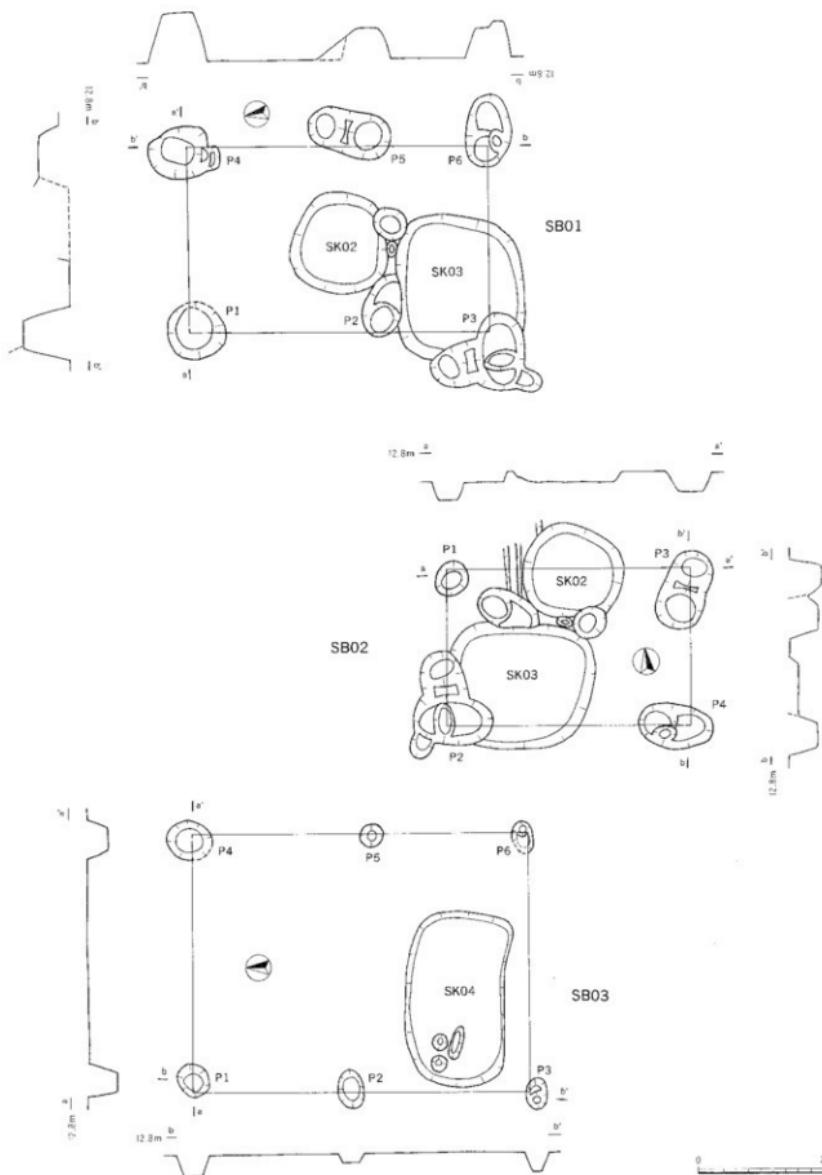
②区北東に位置し、S X04と複合する。平面形は楕円形で長軸2.2m、短軸1.85m、底面径85cm、深さ1.45m、底面標高10.88mを測る。

S E07 (第14図)

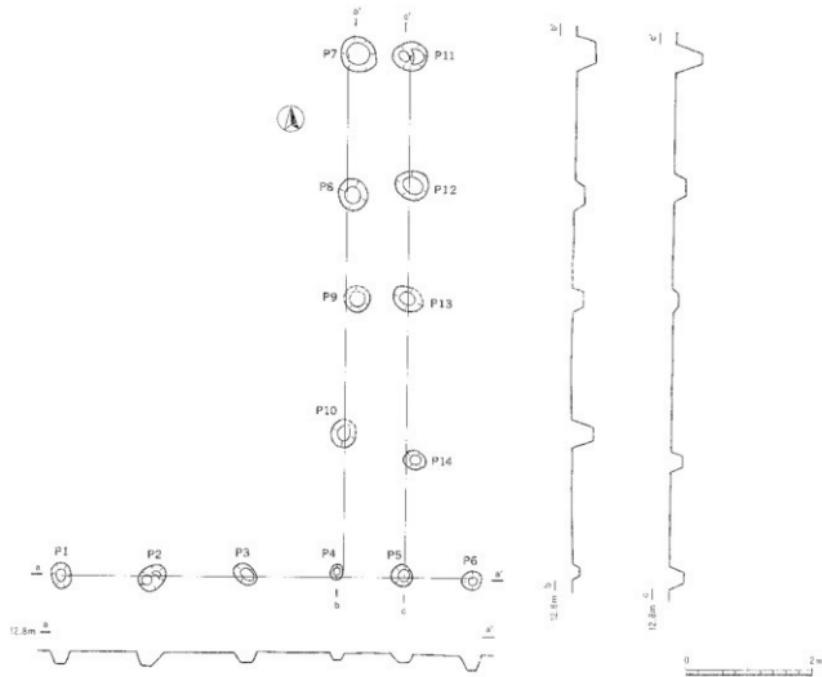
②区北東に位置し、S X05と複合する。平面形は略円形で径1.10～1.15mである。深さ1.1mで検出を断念している。

S E08 (第14・20図)

②区北西に位置する。平面形は略円形で径1.1～1.2m。底面径70～90cm、深さ1.1m、底面標高11.16mを測る。



第12図 N2区 SB01～SB03 構造 (1/90)



第13図 N2区 SA01 遺構図

(4) 竪穴状遺構

S X 01 (第15・20図)

①区に位置し、S X 03を切る。平面形はやや楕の張る隅丸方形で、長軸6.8m以上、短軸5.3m、深さ25cmを測る。面積は33m²以上である。西側の一地点に自然礫がまとまってみられた。

S X 02 (第15・21・22図)

②区北東に位置し、S X 03と複合するが切り合いは不明。平面形は不整な長方形状を呈するものと考えられ、短軸4.3m、長軸は6.8m以上か。深さ28cm、底面には自然礫がまとまってみられた。

S X 03 (第15・22図)

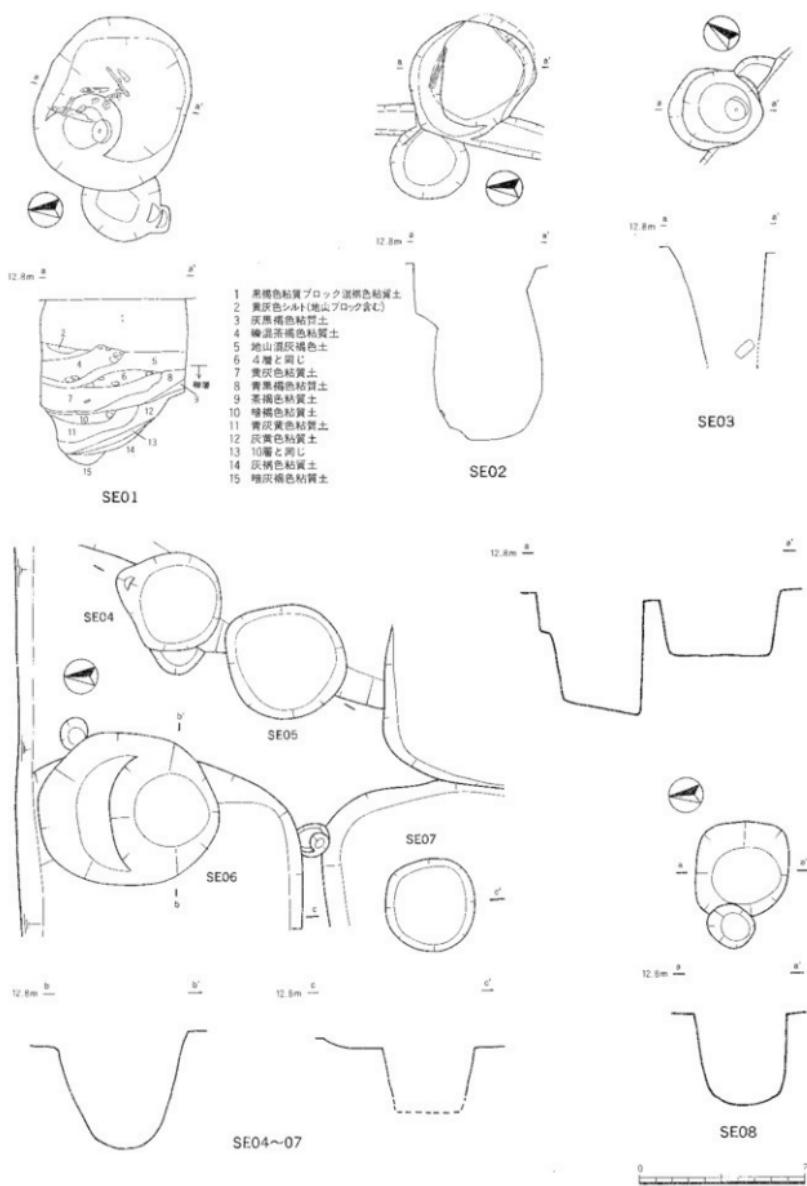
③区東に位置し、S X 02・05と複合し S X 05を切る。平面形は隅丸方形で、長軸5.2m、推定短軸2.7m、推定面積14m²、深さ28cmを測る。S X 02同様、底面には自然礫がみられた。

S X 04 (第16・23図)

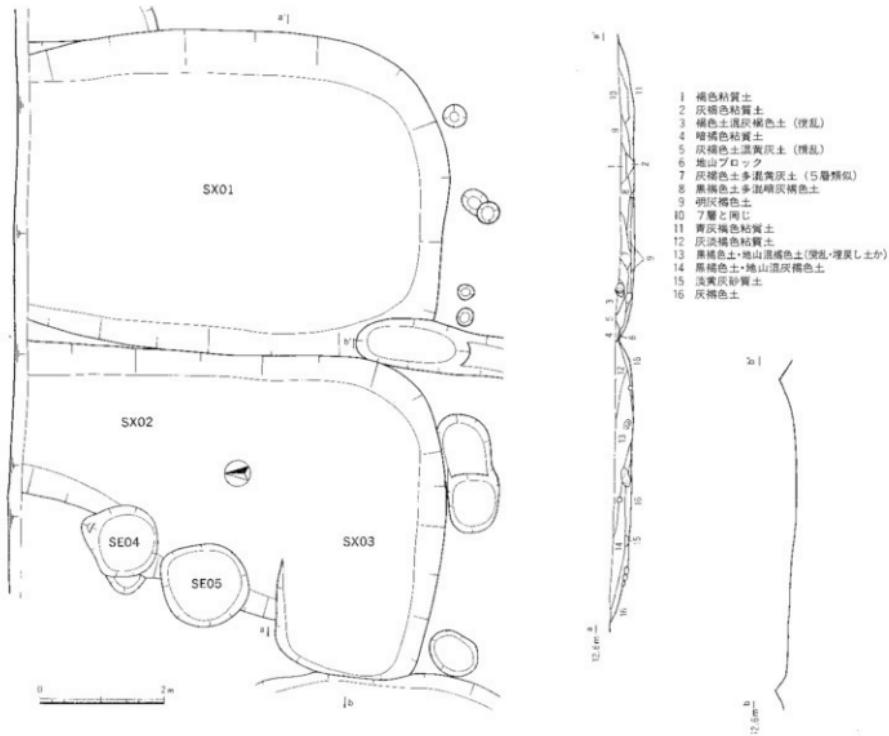
④区北に位置し S E 06と複合する。平面形は隅丸方形と考えられ、推定長軸3.5m、短軸3.3m、推定面積11m²、深さ28cmを測る。

S X 05 (第16・23図)

⑤区中央に位置し、複合する S X 03・06に切られる。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸4.6m、短軸は不明。深さ24cmを測る。



第14図 N2区 SE01～08 透構図 (1/60)



第15図 N2区 SX01～03 造構図 (1/80)

SX06 (第16・23図)

②区中央に位置し、複合するSX05を切りSX07に切られる。平面形は隅丸方形で、長軸5.2m、短軸4.9m、面積約23m²、深さ34cmを測る。

SX07 (第16・23図)

②区中央に位置し、複合するSX06を切る。平面形は隅丸方形で、長軸6.0m、短軸3.25m、面積17m²、深さ24cmを測る。平面形がSX06と重なる東辺と南辺には自然礫が1段または2段に並べられている。これは、SX06が若干埋まつた段階で予定するSX07の平面形に礫を並べたもので、上留めの用途と考えられる。

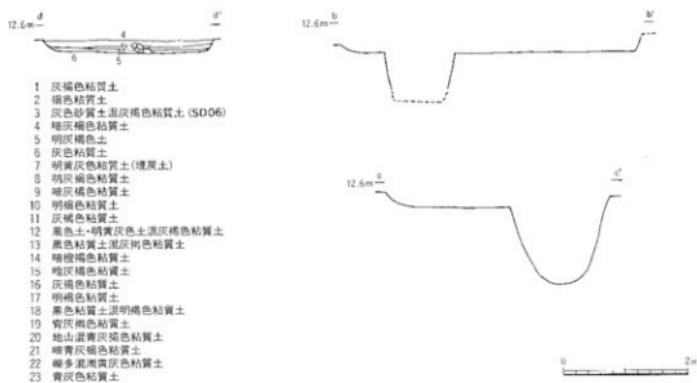
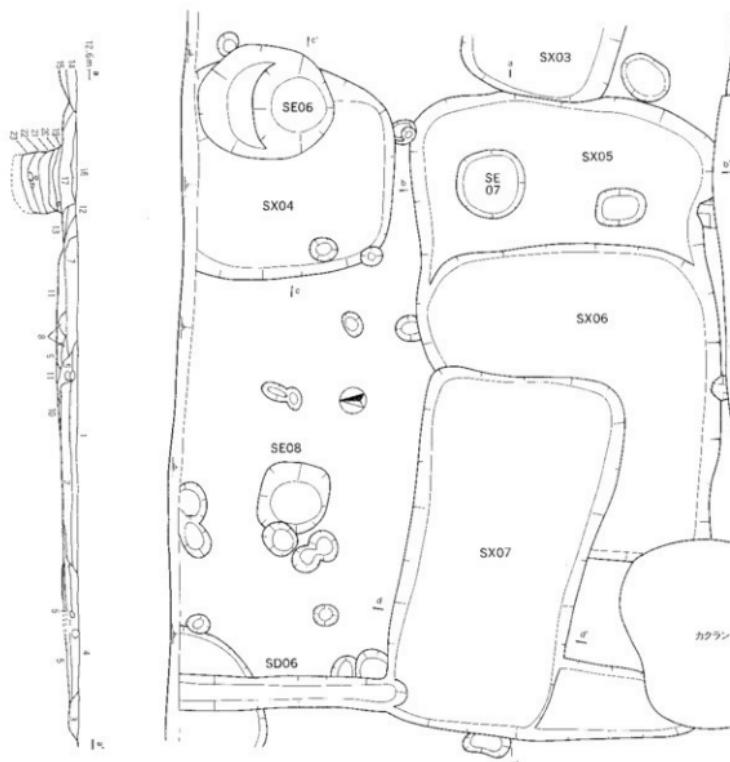
(5) 土坑

SK01 (第17・23図)

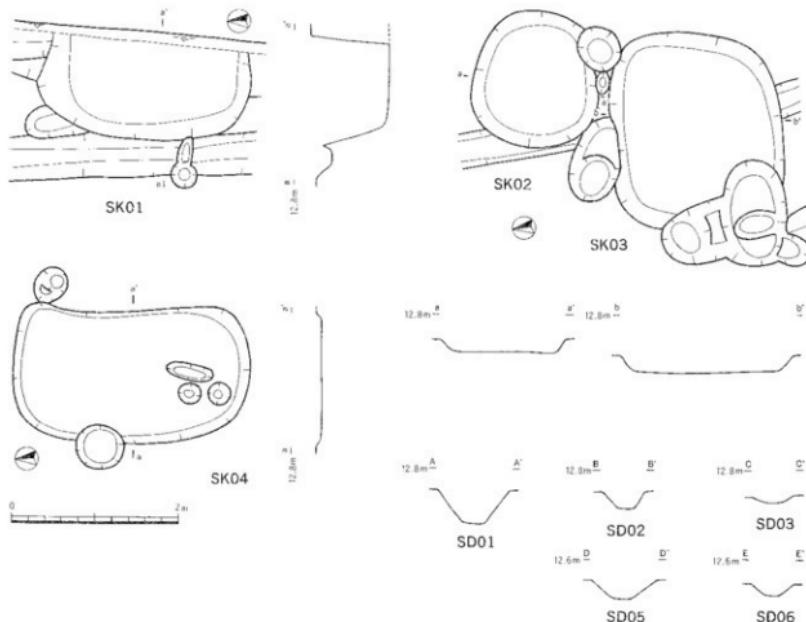
①区南東に位置し、複合するSD02を切り、SD01に切られる。約1/2の検出である。平面形は隅丸方形で、長軸2.6m、短軸は不明。深さ93cmと深い。

SK02 (第17図)

①区中央に位置し、複合するSB03のピットに切られる。平面形は隅丸方形で、長軸1.65m、短軸1.55m、深さ16cmを測る。



第16図 N2区 SX04～07 造構図



第17図 N2区 SK01～03 造構図・SD01～03・05・06 断面図 ($\frac{1}{60}$) (SD断面図は第11図)

SK03 (第17・23図)

①区中央に位置し、複合するS B01のピットに切られる。平面形は楕円方形で、長軸2.4m、短軸2.1m、深さ20cmを測る。

(6) 溝

SD01 (第11・23図)

東半部の①区東端に位置する南北溝である。複合するSK01を切ることから、SD02より新期の溝である。幅0.8～1.0m、深さ40cmを測る。

SD02 (第5図)

N2区・N1区の東半部に位置する南北溝であり、複合するSK01・SX08に切られる。幅50～60cm、深さ17～23cmを測り、耕作区のSD20とは17mの距離を置き並行する。

SD03 (第5・23図)

N2区・N1区の東半部に位置する南北溝であり、複合するSK02・SD04に切られる。幅30～50cm、深さ8～14cmを測る。

SD04 (第11・23図)

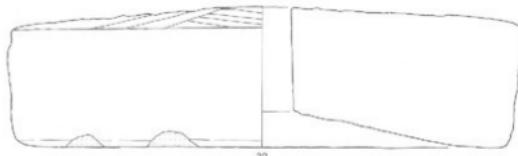
東半部の①区南端に位置する東西溝であり、複合するSD03を切る。幅42～60cm、深さ10～14cmを測る。

SD05 (第11図)

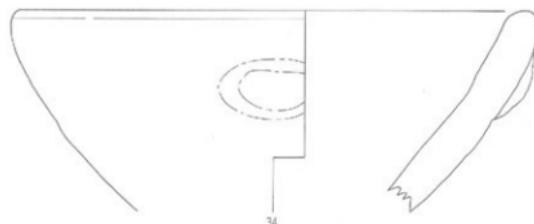
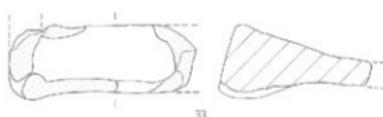
西半部の②区南端に位置する東西溝である。N2区中央部においてL字状に北へ向きを変え複合するSX01を切る。幅0.7～1.1m、深さ13～43cmを測る。

SD06 (第11図)

西半部の②区に位置する南北溝であり、複合するSX07を切る。幅50～60cm、深さ15～17cmを測る。

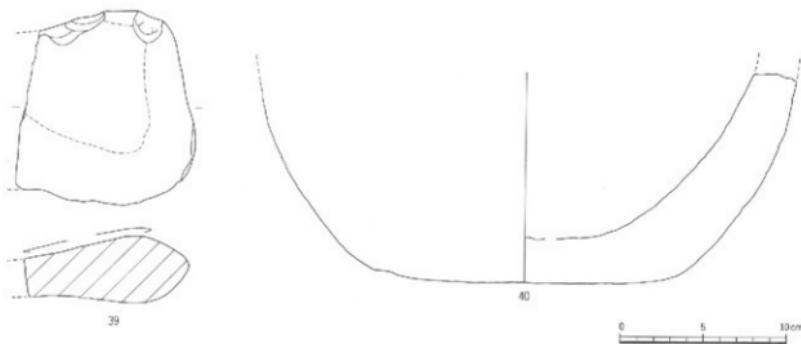
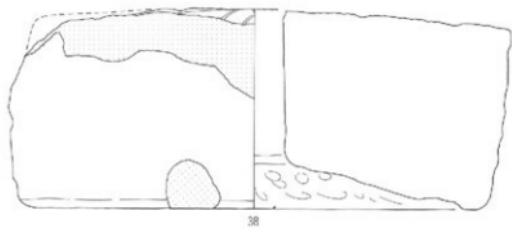
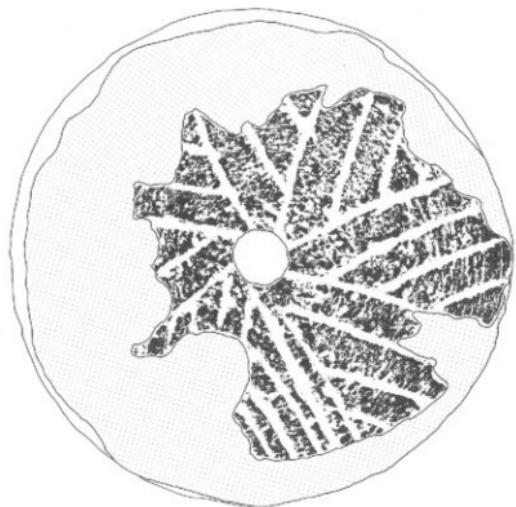
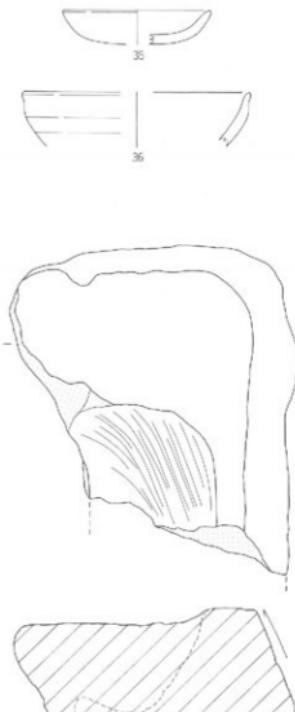


32

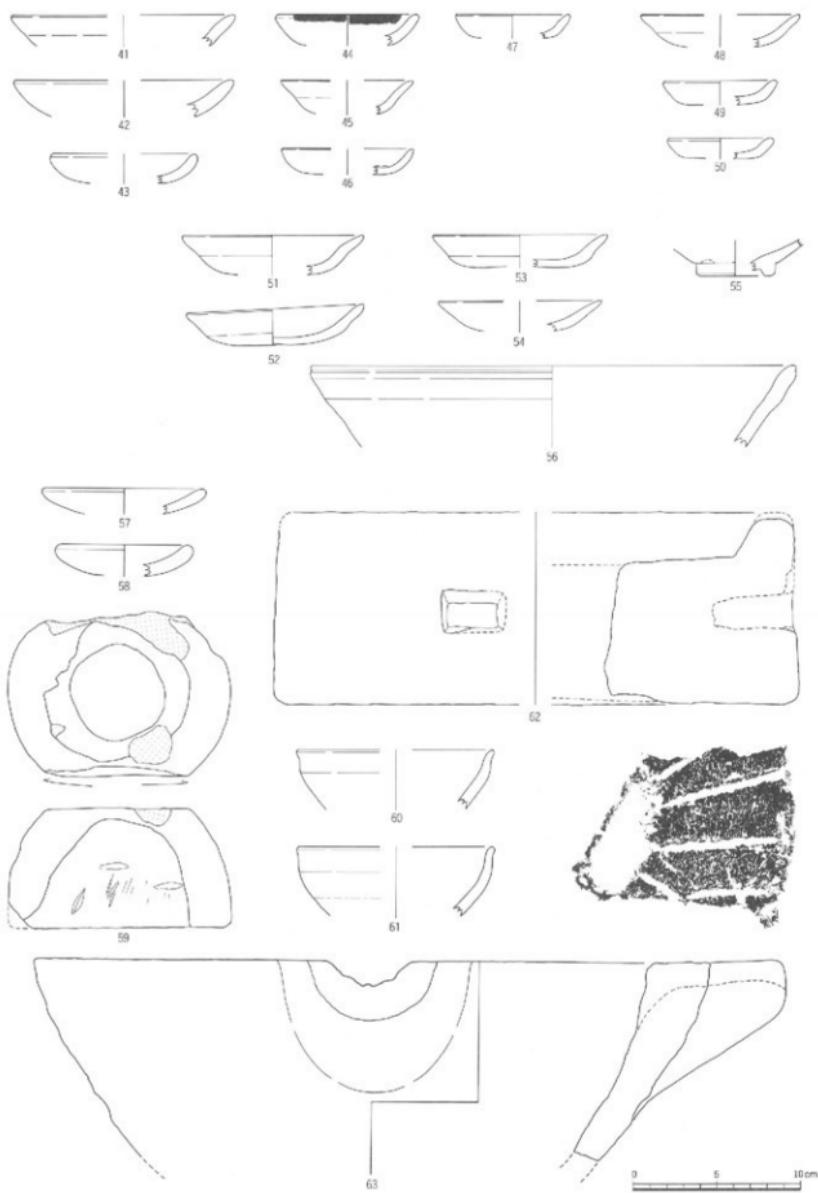


0 5 10cm

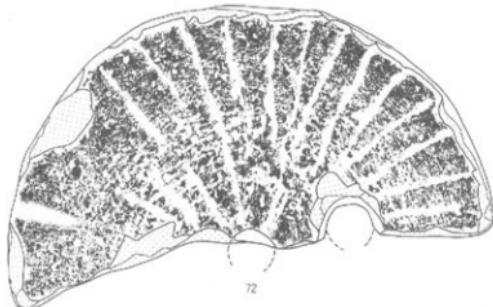
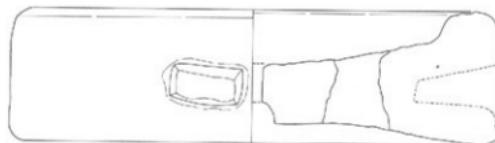
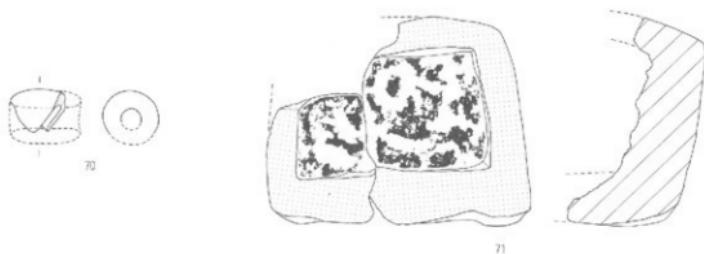
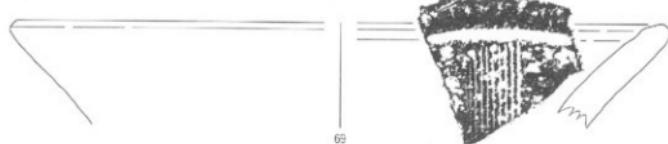
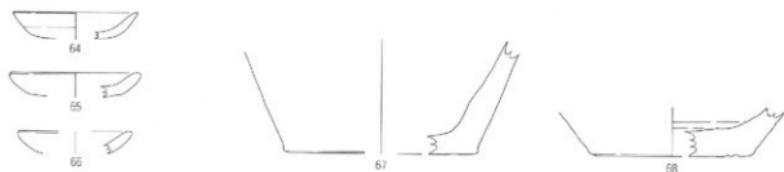
第18図 SB03-P5(31)・SE01(32)・SE02(33-34) 出土遺物 (1/3)



第19圖 SEO3(35~40) 出土遺物 (1/3)

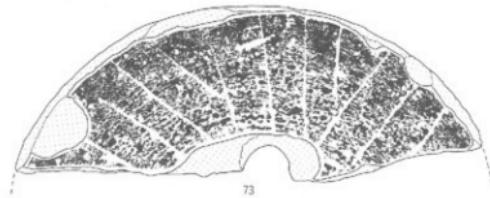
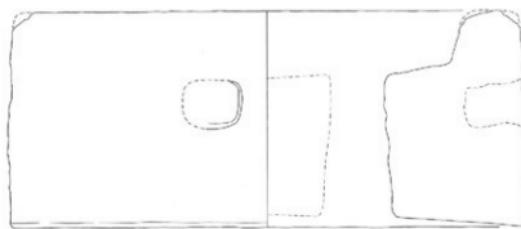


第20図 SE05(41~47)・SE06(48~50)・SE08(51~56)・SX01(57~63) 出土遺物 (1/3)

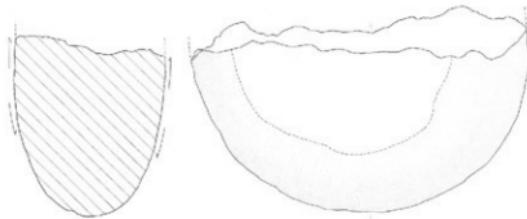


0 5 10cm

第21図 SX02 出土遺物 (1/3)



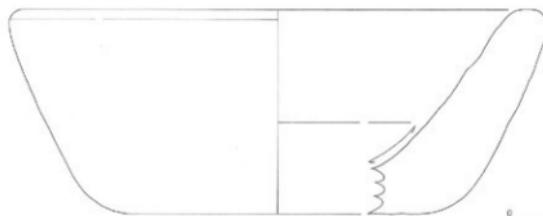
73



0 10cm



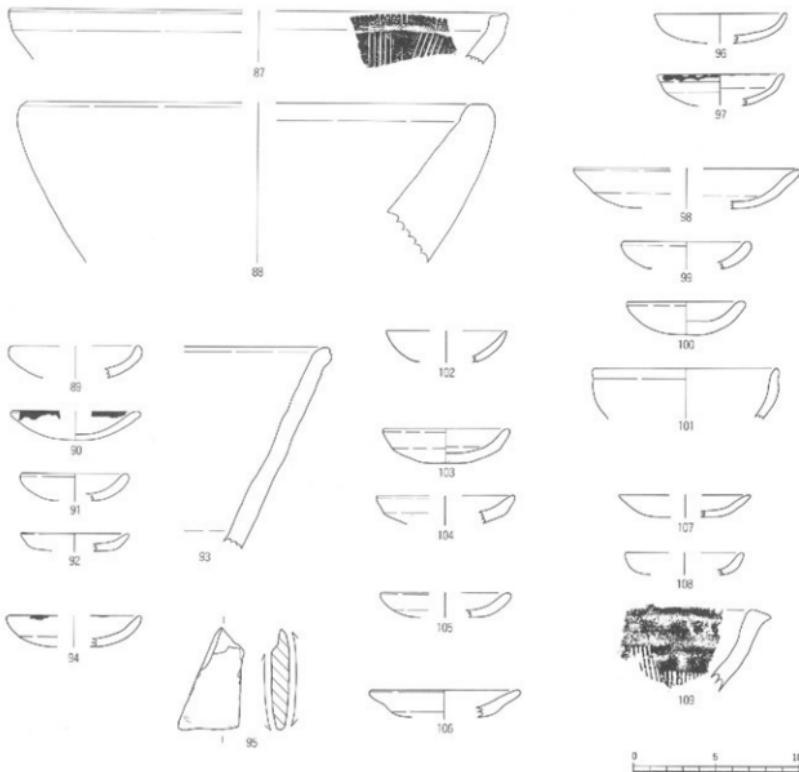
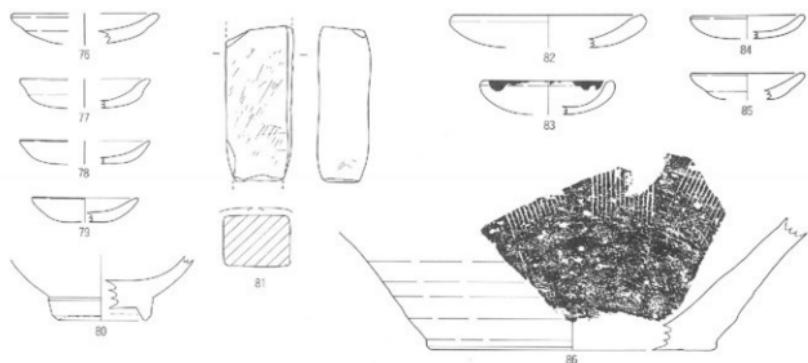
74



75

0 5 10cm

第22図 SX02(73-74)・SX03(75) 出土遺物 (1/3)・(74-1/5)



第23図 SX04(76~81)・SX05(82~86)・SX06(87~88)・SX07(89~93)・SK01(94~95)・
SK03(96~97)・SD01(98~101)・SD03(102)・SD04(103~104)・SP01(105)・SP02(106)・
落ち込み(107~109) 出土遺物 (1/3)



第24図 集落区-N1区 (1/200)

3 N1区（第24図）

集落区中央部S S01の北側に位置する。掘立柱建物群が3群存在し、これを基本に東から①区、②区、③区の小区を設定した。①区はSB04～06群が北側に存在するが、南側は近世～近代期の大土坑により中世期の状況は不明である。②区はSB07～14群とSX09～15群、SE15～18などで構成される。③区はSB15～21群とSX16～20群、SE19～22などで構成される。②・③区では南西側に掘立柱建物、北東側に竪穴状遺構と井戸が配置されている。

(1) 掘立柱建物

S B04（第25図）

①区北に位置し、SB05・06と複合するが切り合い関係は不明。梁行1間3.5m、桁行3間4.4m、床面積約15m²、主軸(N87°W)を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は、1.6m、1.75m、0.95m、南側桁行P5～P8間は1.45m、1.85m、1.1mを測る。柱穴は略円形で径40～60cm、深さ14～54cmを測る。

S B05（第25図）

①区北に位置する。梁行1間3.8m、桁行3間5.2m、床面積約20m²、主軸(N91°W)を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は、1.8m、1.7m、1.5m、南側桁行P5～P8間は1.8m、1.6m、1.8mを測る。柱穴は略円形で径32～74cm、深さ23～52cmを測る。

S B06（第25図）

①区北に位置し、SK05を切る。梁行1間3.0m、桁行2間4.6m、床面積約14m²、主軸(N4°E)を測る南北棟の

側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.6m、2.6mである。柱穴は略円形で径45～55cm、深さ38～65cmを測る。

SB07（第25図）

②区南東に位置し、S X 12を切る。梁行1間3.3m、桁行2間5.5m、床面積約18m²、主軸（N 9° E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.6m、2.5m、東側桁行P4～P6間は2.6m、3.0mである。柱穴は略円形で径25～53cm、深さ37～74cmを測る。

SB08（第26図）

①区南東に位置する。梁行1間2.2m、桁行1間3.5m、床面積は約8m²、主軸（N 6° E）を測る南北棟である。柱穴は略円形で径55～72cm、深さ48～65cmを測る。平面内のSK09とはセット関係か。

SB09（第26図）

②区南西に位置する。SB10～14と複合するが切り合い関係は不明である。梁行2間5.2m、桁行4間12.9m、床面積約72m²、主軸（N 3° E）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行P1～P5間の柱間寸法は2.8m、2.85m、3.4m、3.6m、東側桁行P11～P15間は2.8m、3.5m、3.0m、3.7mを測り、南側1間が広くなる。北側梁行P1～P6～P11間は2.45m、2.25m、南側梁行P5～P10～P15間は2.6m、2.9mである。柱穴は略円形で径40～60cm、深さ35～71cmを測る。

SB10（第27図）

②区南西に位置する。梁行2間4.9m、桁行3間6.4m、床面積約31m²、主軸（N 2° E）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.45m、1.9m、2.05m、東側桁行P9～P12間は2.0m、2.3m、2.1mを測り、北側梁行P1～P5～P9間は1.9m、2.8m、南側梁行P4～P8～P12間は2.1m、2.8mである。柱穴は略円形で径20～60cm、深さ10～50cmを測る。

SB11（第27図）

②区南東に位置する。梁行1間3.5m、桁行2間7.0m、床面積約24m²、主軸（N 2° E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.4m、3.6m、東側桁行P4～P6間は3.4m、3.4mである。柱穴は略円形で径40～74cm、深さ35～66cmを測る。

SB12（第27図）

②区南東に位置する。梁行1間3.2m、桁行2間7.2m、床面積約23m²、主軸（N 4° E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.8m、3.5m、東側桁行P4～P6間は3.4m、3.7mである。柱穴は略円形で径30～58cm、深さ30～58cmを測る。

SB13（第27図）

②区南東に位置する。梁行1間3.0m、桁行2間5.1m、床面積約15m²、主軸（N 6° E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.6m、2.7m、東側桁行P4～P6間は2.6m、2.4mである。柱穴は略円形で径30～90cmとばらつき、深さ46～60cmを測る。

SB14（第28図）

②区南東にする。梁行1間3.0m、桁行3間5.4m、床面積約16m²、主軸（N 6° E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は1.8m、1.6m、2.0m、P3に対応する東側桁行の柱穴は存在しない。柱穴は略円形で径40～70cm、深さ32～66cmを測る。

SB15（第28図）

③区南に位置する。SB16～19と複合するが切り合い関係は不明。梁行2間4.7m、桁行2間5.5m、床面積約25m²、主軸（N 6° E）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.2m、2.2m、東側桁行P7～P9間は3.7m、1.7m、を測り、南側の1間は狭くなる。北側梁行P1～P4～P7間は2.4m、2.3m、南側梁行P3～P6～P9間は2.0m、2.8mである。柱穴は略円形で径35～57cm、深さ27～52cmを測る。南側1間分は下屋の可能性がある。

SB16（第28図）

③区南に位置する。梁行1間3.7m、桁行3間7.0m、床面積約26m²、主軸（N 3° E）を測る南北棟の側柱建物であり、柱穴二つは不明。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は4.55m、23m、東側桁行P4～P6間は5.0m、2.1mである。柱穴は略円形で径30～60cm、深さ30～60cmを測る。

SB17 (第28図)

③区南に位置する。梁行1間2.9m、桁行2間4.9m、床面積約14m²、主軸(N84°W)を測る東西棟の側柱建物である。北側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.7m、2.2m、東側桁行P4～P6間は2.6m、2.3mである。柱穴は略円形で径32～60cm、深さ44～62cmを測る。

SB18 (第29図)

③区西南に位置する。梁行1間3.0m、桁行2間5.6m、床面積約17m²、主軸(N1°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.05m、2.55m、東側桁行P4～P6間は2.8m、2.6mである。柱穴は略円形で径30～54cm、深さ36～46cmを測る。

SB19 (第29図)

③区南西に位置する。梁行2間4.3m、桁行3間7.0m、床面積約30m²、主軸(N4°E)を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.3m、2.2m、2.5m、東側桁行P9～P12間は2.1m、2.5m、2.4mである。北側梁行P1～P5～P9間は2.7m、1.6m、南側梁行P4～P8～P12間は2.2m、2.0mである。隅丸方形と略円形の柱穴は径40～80cm、深さ33～50cmを測る。

SB20 (第29図)

③区南西に位置する。南北3間の柱列を二列確認した。主軸は(N4°E)である。西側柱列P1～P4間の柱間寸法は2.7m、3.05m、2.25mの計8.0m、東側柱列P5～P8間は2.9m、2.4m、2.5mの計7.8mとなる。柱穴は略円形で径35～58cm、深さ20～45cmを測る。2間×3間の総柱建物か。

SB21 (第29図)

③区南西に位置する。南北3間の柱列を一列確認した。主軸は(N1°E)である。柱列P1～P4間の柱間寸法は2.3m、2.6m、2.4mの計7.3m。柱穴は略円形で径30～45cm、深さ28～44cmを測る。

(2) 井戸

SE09 (第30・36図)

③区中央東に位置し、S X10に切られる。平面形は橢円形で長軸2.75m、短軸2.15mである。

SE10 (第30・36図)

③区中央東に位置する。平面形は略円形で長軸1.6m、短軸1.42m、底面径1.0～1.2m、深さ2.35m、底面標高10.24mを測る。

SE11 (第30・36図)

③区中央東に位置し、複合するS X12に切られる。平面形は不整円形で径2.5～2.62mである。内部に段を有し、底面径1.05～1.35、深さ1.42m、底面標高10.98mを測る。

SE12 (第30図)

③区中央に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.35m。底面径0.9m～1.05m、深さ1.46m、底面標高11.02mを測る。

SE13 (第30・37図)

③区中央に位置する。平面形は略円形で径1.2～1.38m、底面径0.8～0.9m、深さ1.54m、底面標高10.91mを測る。

SE14 (第30図)

①区中央東端に位置し、近世～近代期の遺構に切られ1/2の検出である。平面形は略円形で径は1.65m程か。深さ1.4m、底面標高11.09mを測る。

SE15 (第30・37図)

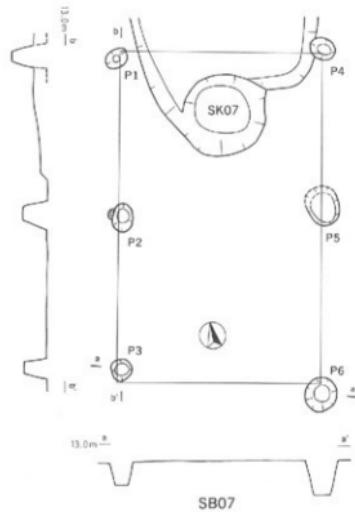
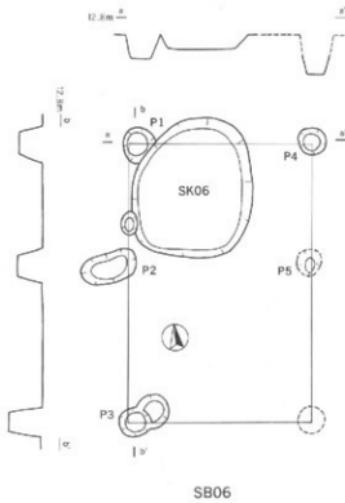
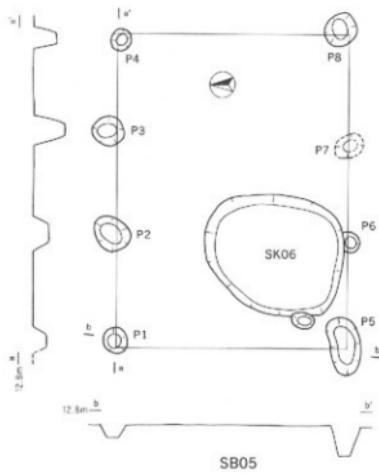
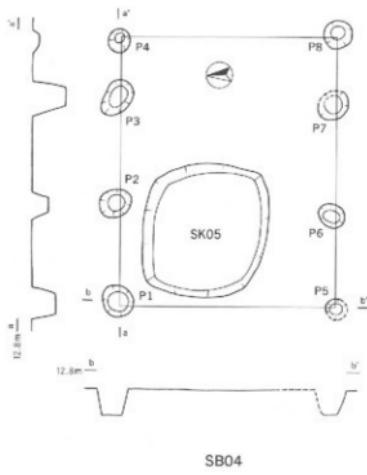
③区南東に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.5m、底面径65cm、深さ1.86m、底面標高10.84mを測る。

SE16 (第30・37図)

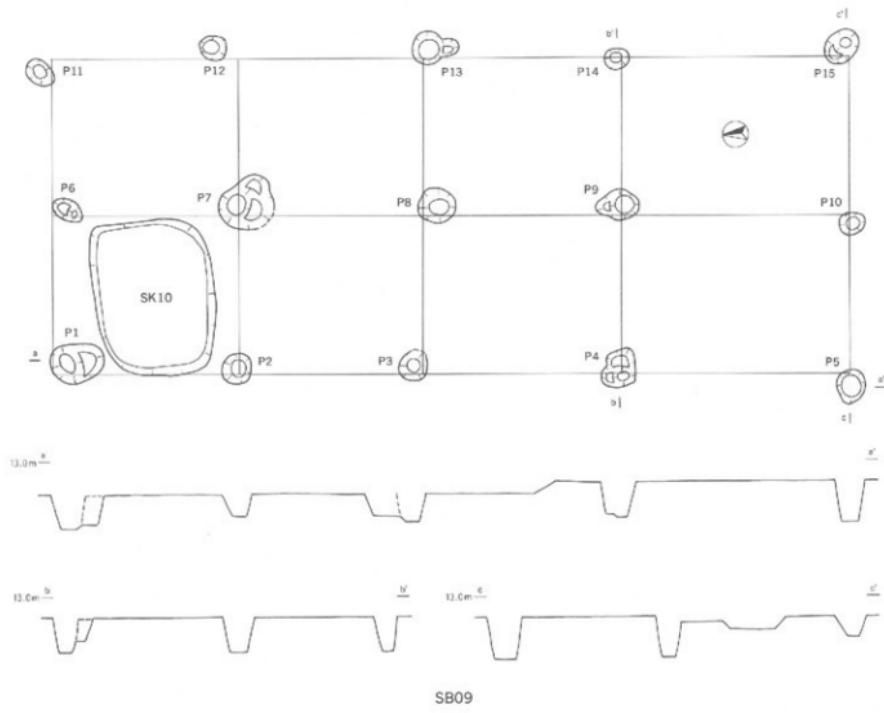
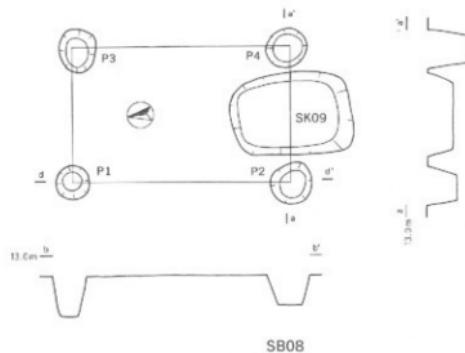
③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で85×87cm、底面65×70cm、深さ1.42m、底面標高11.28mを測る。

SE17 (第30図)

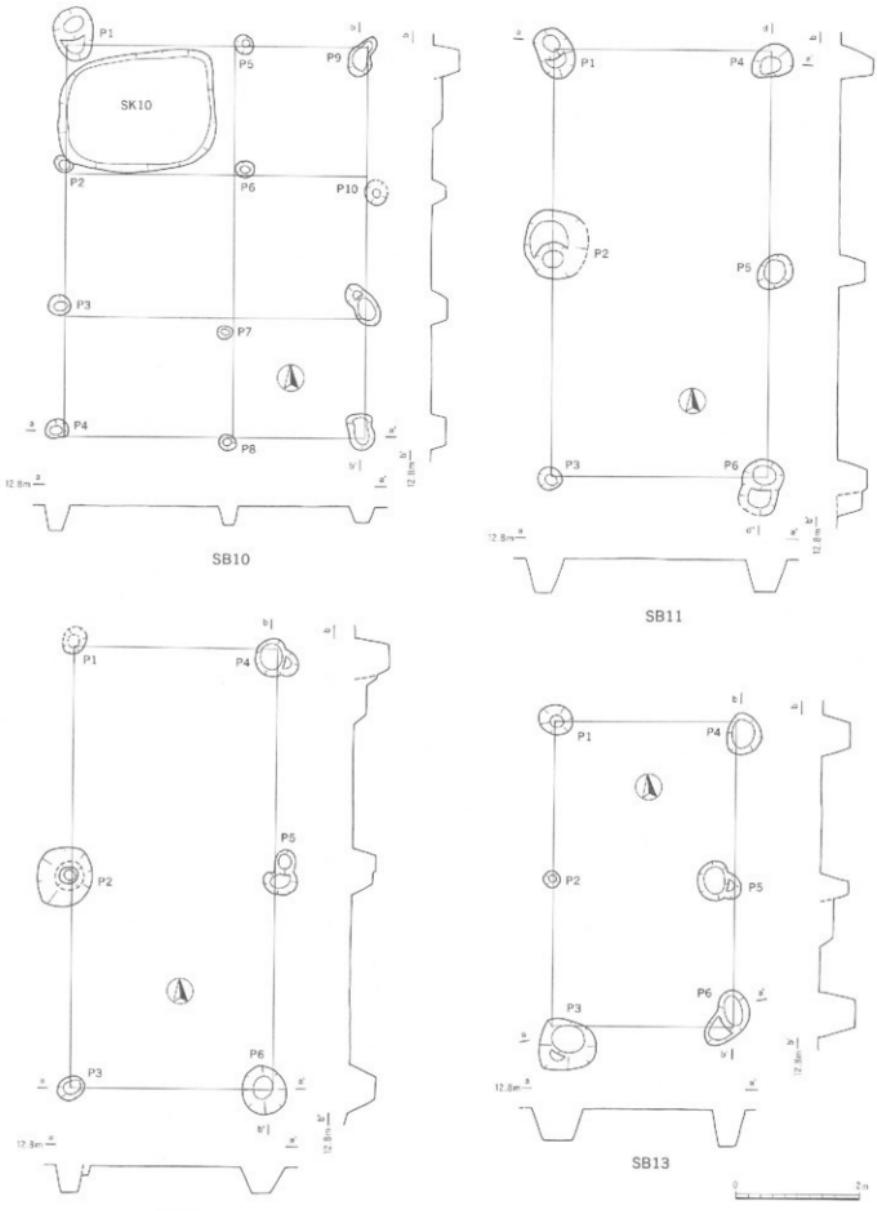
③区南東に位置する。平面形は略円形で径1.24～1.5m、底面径65cm、深さ1.42m、底面標高11.29mを測る。



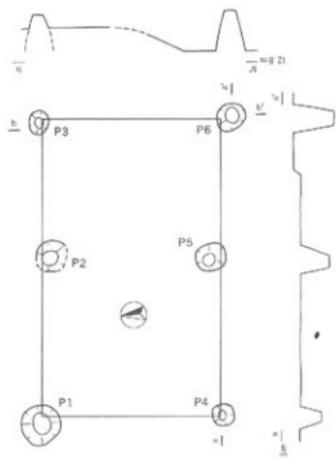
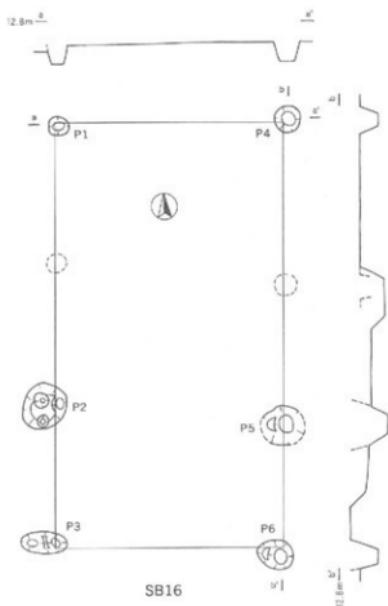
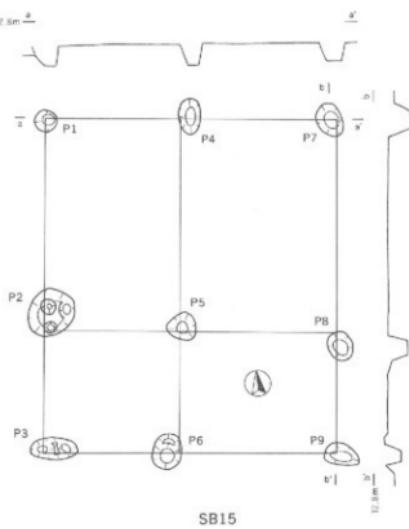
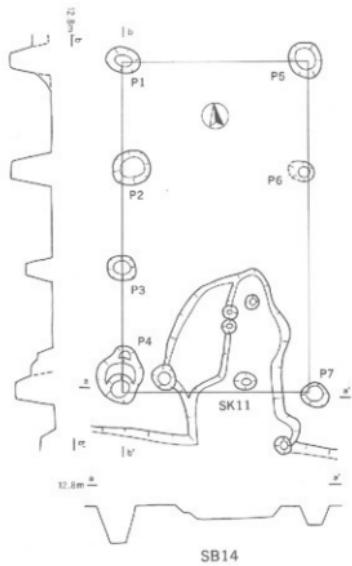
第25図 N1区 SB04～07 遺構図 (1/80)



第26図 N1区 SB08・09 遺構図 (1/80)

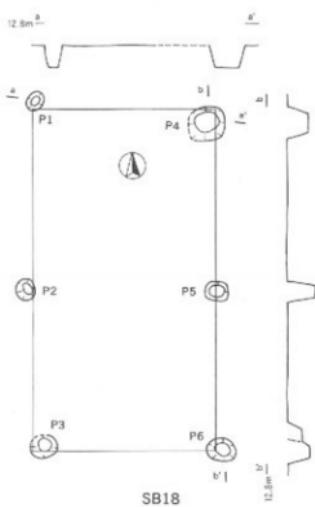


第27図 N1区 SB10~13 遺構図 (1/80)

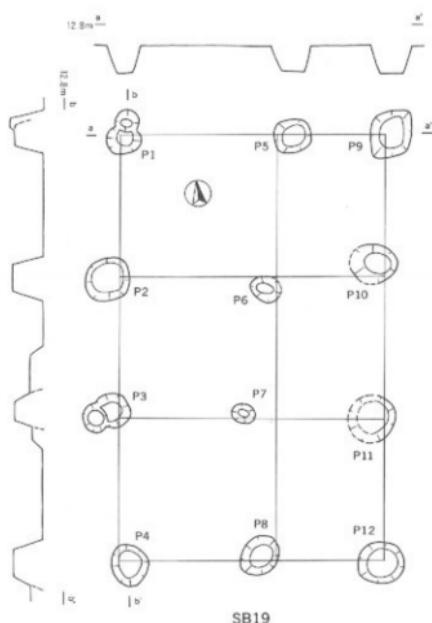


0 12.5m 2m

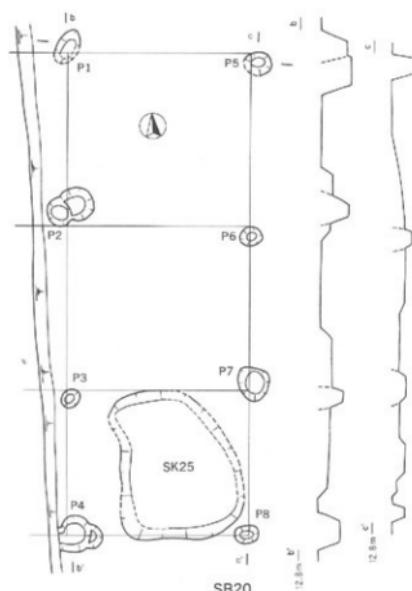
第28図 N1区 SB14～17 遺構図 (1/80)



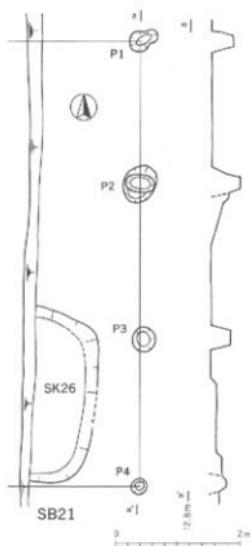
SB18



SB19

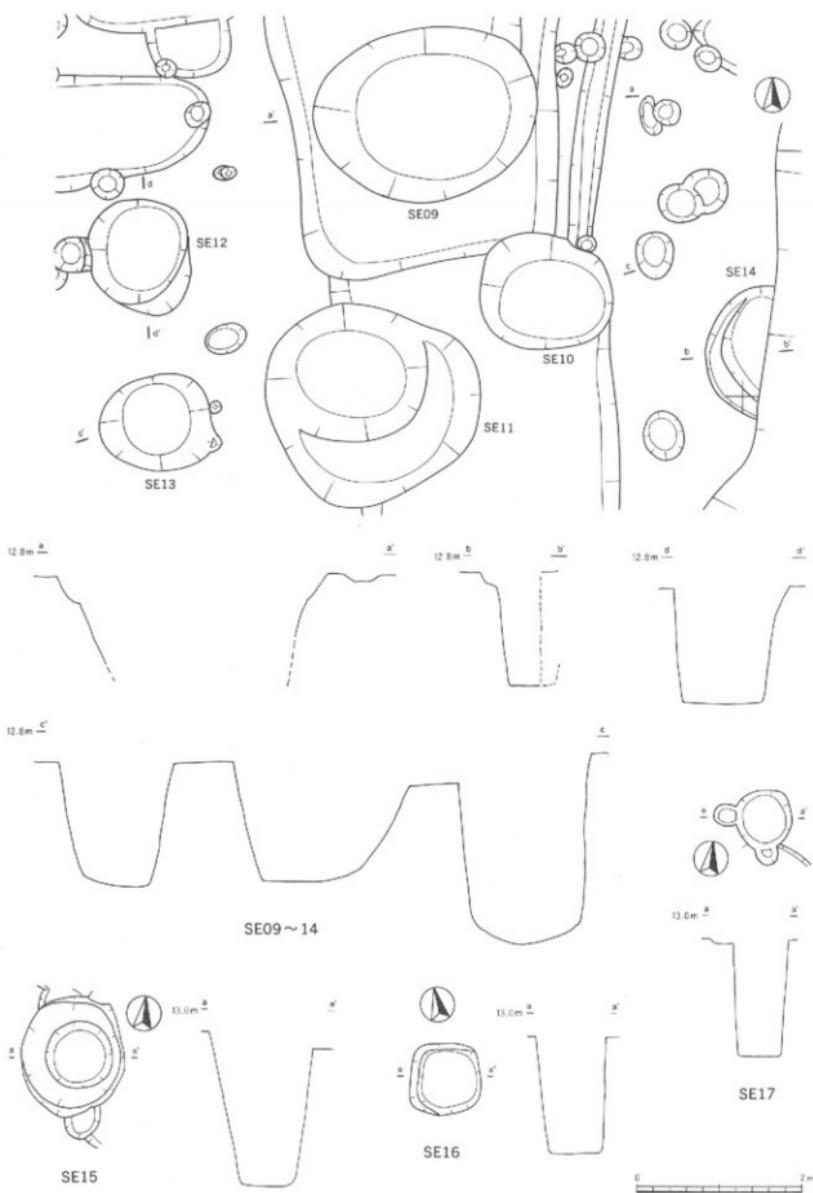


SB20

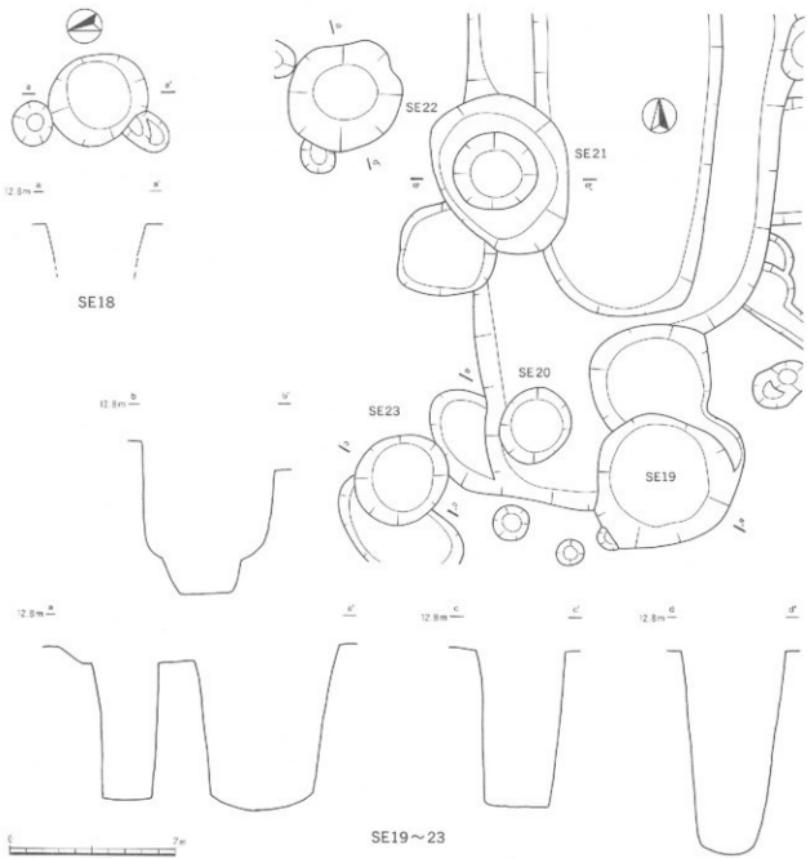


SB21

第29図 N1区 SB18~21 遺構図 (1/60)



第30図 N1区 SE09~17 造構図 (1/60)



第31図 N1区 SE18~23 造構図 (1/60)

SE18 (第31・37図)

③区中央西に位置する。平面形は略円形で径1.15~1.2m、底面径0.8mである。

SE19 (第31・38図)

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.6~1.7m、底面径1.2~1.25m、深さ2.05m、底面標高10.38mを測る。

SE20 (第31・38図)

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径82~95cm、底面径65cm、深さ1.90m、底面標高10.52mを測る。

SE21 (第31・39図)

③区中央東に位置する。平面形は楕円形で1.6×2.04m、内部に段を有し底面は略円形となり径0.95~1.0m、深さ1.90m、底面標高10.49mを測る。

S E 22 (第31・39図)

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.3~1.4m、底面径70~80cm、深さ25m、底面標高9.92mを測る。

S E 23 (第31・39~41図)

③区中央東に位置する。平面形は略円形で径1.05~1.2m、底面径70~80cm、深さ1.95m、底面標高10.52mを測る。

(3) 穴状遺構

S X 08 (第32・42図)

①区中央東端に位置し、S D 02を切る。平面形は隅丸方形で1/2程の検出か。長軸6.5m、深さ40cmを測る。

S X 09 (第32図)

②区北東に位置し、複合するS X 10に切られる。平面形は不整な隅丸台形状で、長軸4.0m、短軸3.5m、面積約11m²、深さ25cmを測る。

S X 10 (第32・42図)

②区北東に位置し、複合するS X 09・13・S E 09を切る。平面形は不整な隅丸方形で、推定長軸8.6m、短軸3.1m、推定面積25m²、深さ38cmを測る。

S X 11 (第32図)

②区北東に位置しS X 10と複合し、深さ28cmを測るが詳細は不明。

S X 12 (第32図)

②区中央東に位置し、複合するS E 11を切る。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸5m以上、短軸3.14m、深さ40cmを測る。面積は15m²以上か。

S X 13 (第32図)

②区北東に位置し、複合するS X 10に切られる。平面形は隅丸方形で、長軸3.7m、推定短軸3.1m、推定面積約10m²、深さ18cmを測る。

S X 14 (第33・42図)

②区北西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.7m、短軸3.9m、面積約16m²、深さ33cmを測る。

S X 15 (第33図)

②区北西端に位置する。平面形は楕円形と考えられ深さ13cmを測るが詳細は不明。

S X 16 (第33・43図)

③区北東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸6.0m、短軸4.15m、面積約22m²の規模と考えられる。深さは37cmである。

S X 17 (第33図)

③区北東に位置し、複合するS X 18・20を切る。平面形は隅丸方形で、長軸4.8m、短軸2.3m、面積約10m²、深さ40cmを測る。

S X 18 (第33図)

③区北東に位置する。詳細は不明であるが、平面形は隅丸方形で、長軸4.6m程の規模か。深さ28cmを測る。

S X 19 (第33図)

③区北東に位置する。詳細は不明であるが、平面形は隅丸方形と考えられ、短軸2.8m、深さ24cmを測る。

S X 20 (第33図)

③区北東に位置する。深さ22cm、詳細は不明。

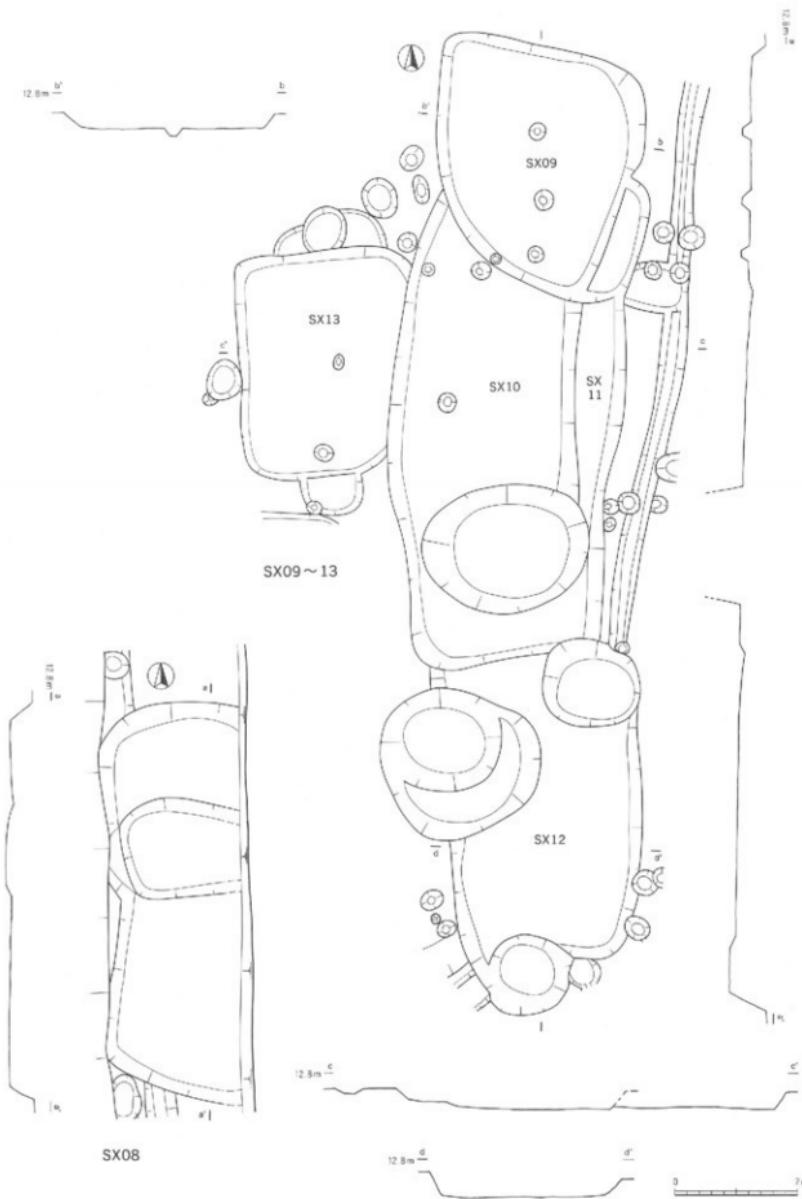
(4) 土坑

S K 05 (第34・44図)

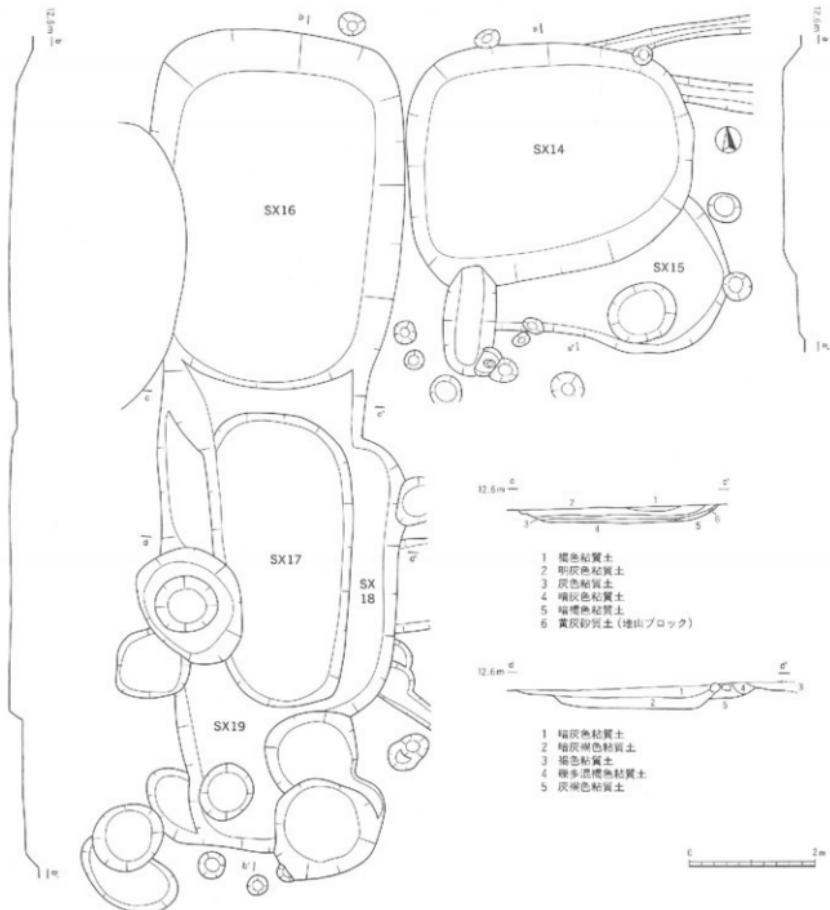
①区北西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸2.0m、深さ40cmを測る。

S K 06 (第34図)

①区北西に位置し、複合するS B 06のピットに切られる。平面形は楕円形で、長軸2.25m、短軸1.95m、深さ20cmを測る。



第32図 N1区 SX08～13 造構図 (1/80)



第33図 N1区 SX14～20 遺構図 (1/80)

SK07 (第34図)

②区南東に位置する。平面形は略円形で、径1.35m、60cmを測る。

SK08 (第34・44図)

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸1.5m、深さ13cmを測る。

SK09 (第34図)

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.95m、短軸1.35m、深さ36cmを測る。

SK10 (第34図)

②区中央西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.55m、短軸1.95m、深さ20cmを測る。

SK11 (第34・44図)

②区南西に位置し、複合するSD08に切られる。平面形は不整な梢円形で、長軸不明、短軸1.95m、深さ15cmを測る。土層の切り合いから土坑が2基複合したものか。

SK12 (第34図)

③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.55m、短軸0.77m、深さ28cmを測る。

SK13 (第34・44図)

③区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸1.9m、深さ13cmを測る。

SK14 (第34図)

③区南東に位置する。平面形は梢円形で、長軸1.75m、短軸1.2m、深さ32cmを測る。

SK15 (第34図)

③区南東に位置する。平面形は梢円形で、長軸1.22m、短軸0.9m、深さ42cmを測る。

SK16 (第34図)

③区南東に位置する。平面形は不整な梢円形で土坑2基が複合したものか。長軸2.9m、短軸1.8m、深さ22cmを測る。

SK17 (第34図)

③区南東に位置する。詳細は不明だが、平面形は梢円形か。長軸2.4m、深さ16cmを測る。

SK18 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は梢円形で、径1.6m、深さ22cmを測る。

SK19 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は梢円形か。長軸不明、短軸1.5m、深さ16cmを測る。

SK20 (第35図)

③区南西に位置する。SK21を切る。平面形は梢円形で、長軸2.3m、短軸1.45m、深さ40cmを測る。

SK21 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は梢円形で、長軸2.9m、短軸2.5m、深さ23cmを測る。

SK22 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は梢円形で、長軸1.95m、短軸1.55m、深さ28cmを測る。

SK23 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は隅丸方形で、一辺1.25m、深さ25cmを測る。

SK24 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は梢円形で、長軸1.52m、短軸1.2m、深さ23cmを測る。

SK25 (第35図)

③区南西に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.4m、短軸2.0m、深さ20cmを測る。

SK26 (第35・44図)

③区南西に位置する。平面形は隅丸方形か。詳細は不明であり一辺1.25m、深さ25cmを測る。

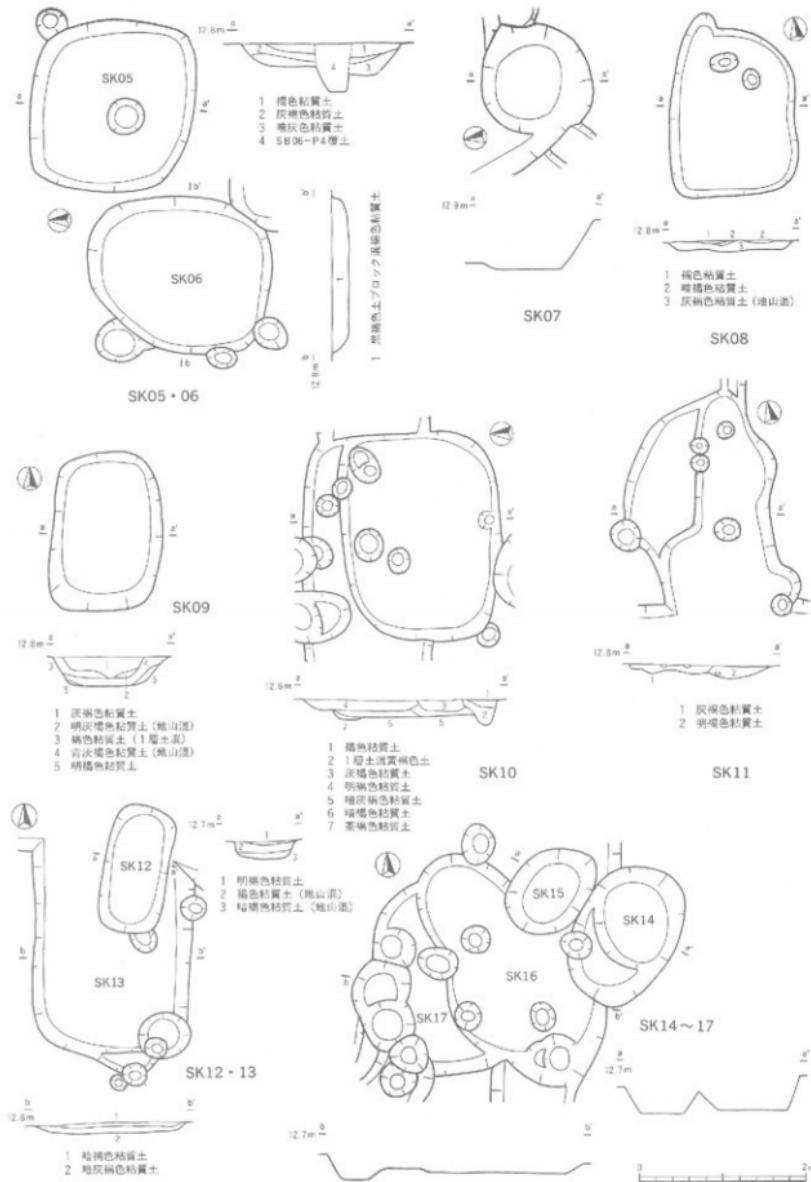
(5) 溝

SD07 (第24・44図)

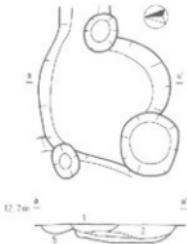
②区中央に位置する東西溝である。複合するSK01を切ることから、SD02より新期の溝である。幅0.8~1.0m、深さ40cmを測る。

SD08 (第5・21・52・44図)

N1区南端に位置する。集落区と耕作区を南北に区画し、流方向は東の東西溝である。流方向は東である。集落区では第52図の土層断面図によると最低3回の掘り直しが見られる。南側の深い部分をSD08aとし、幅0.6~0.9m、深さ40~50cmを測る。北側の1段浅い部分をSD08bとし、深さは23cm程度であるが、上面幅は不明である。

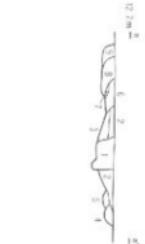


第34図 N1区 SK05～17 遺構図 (1/50)

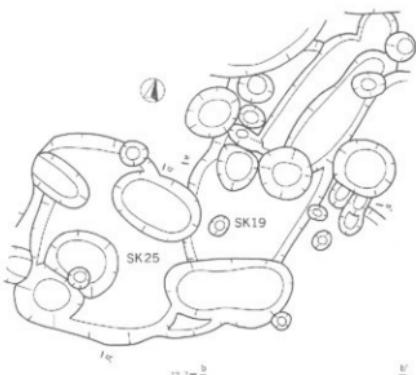


1. 暗褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土淡褐色粘質土
3. 棕褐色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 青灰褐色粘質土
6. 雾灰褐色粘質土
7. 明褐色粘質土
8. 黄褐色粘質土
9. 黑褐色粘質土

SK18



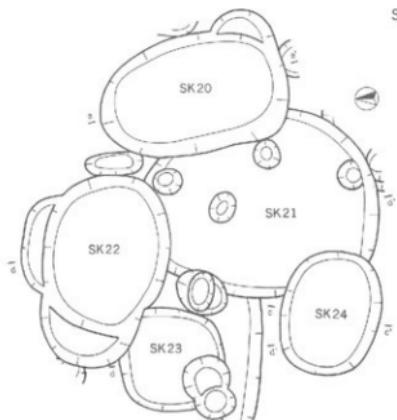
1. 暗褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土
3. 棕褐色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 明灰褐色粘質土
6. 地山深胡灰色粘質土
7. 喇叭状灰土
8. 明褐色粘質土
9. 黄褐色粘質土



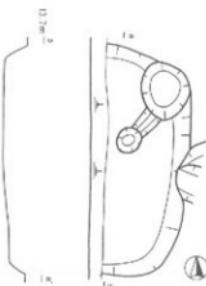
SK19 + 25



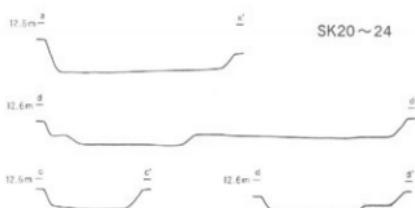
1. 棕色粘質土
2. 淡褐色粘質土
3. 棕灰褐色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 地山深胡灰色粘質土
6. 明褐色粘質土
7. 喇叭状灰土
8. 黄褐色粘質土
9. 合掌土深胡灰色粘質土
10. 深灰褐色粘質土



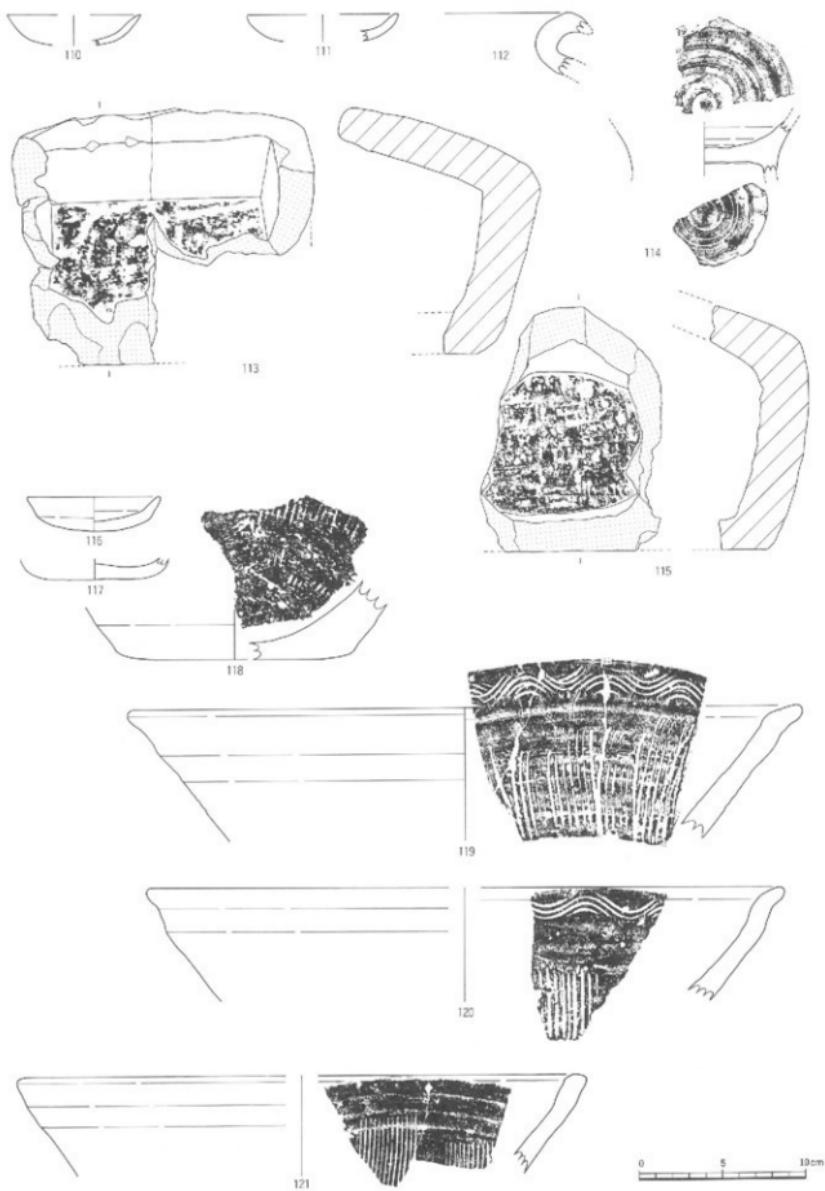
SK20~24



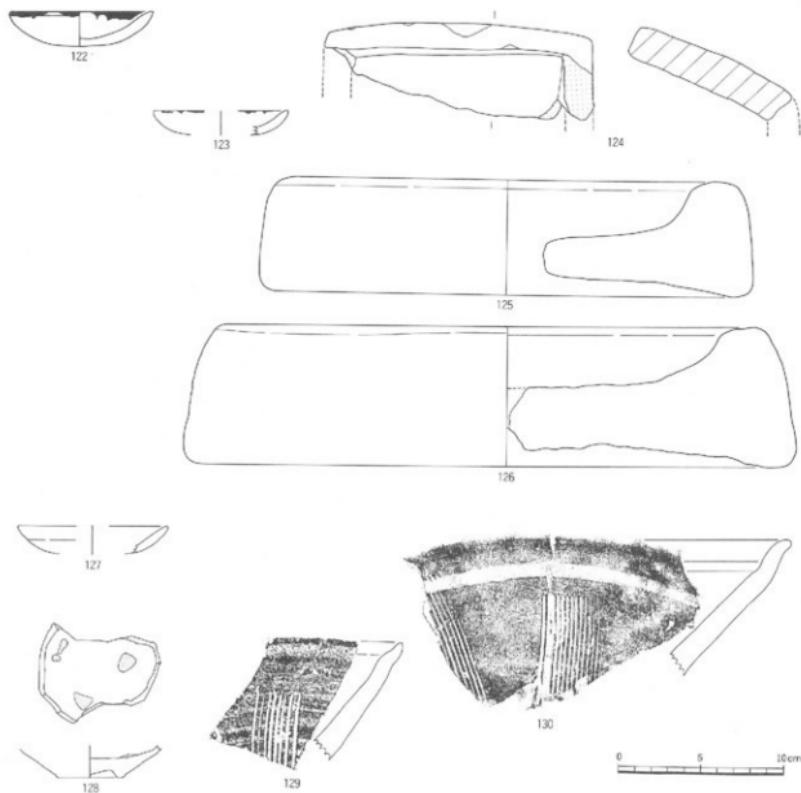
SK26



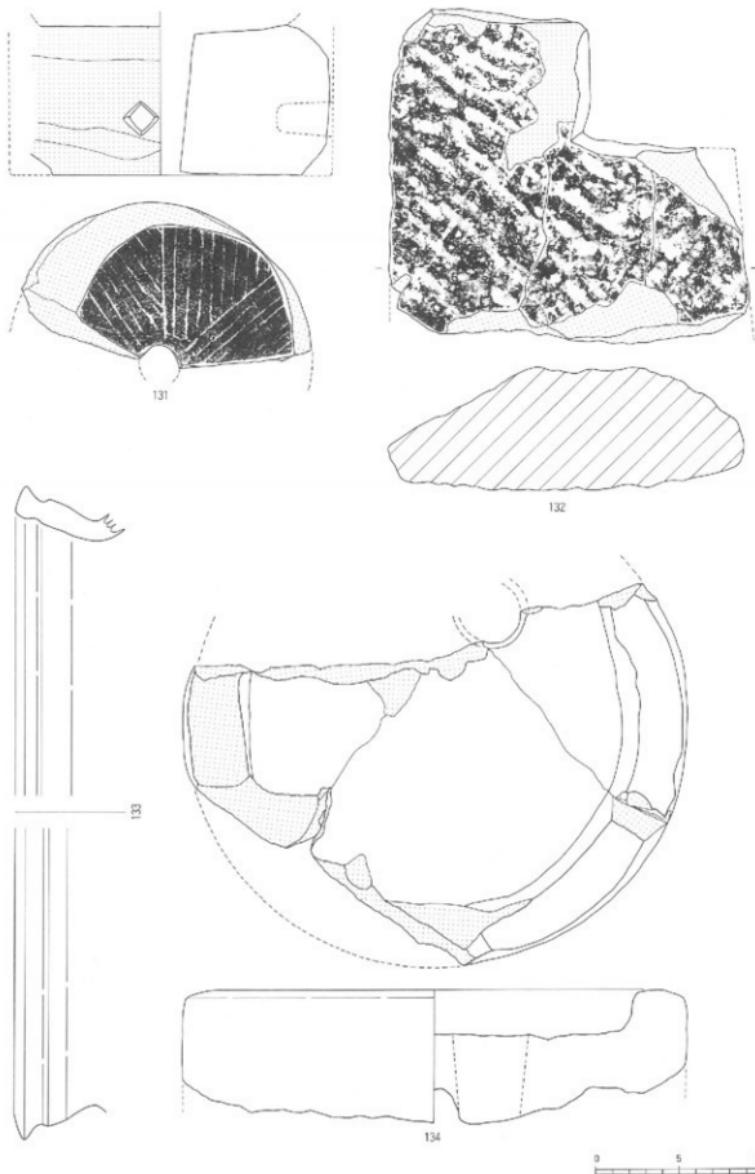
第35図 N1区 SK18~26 遺構図 (1/60)



第36図 SE09(110)・SE10(111～115)・SE11(116～121) 出土遺物 (1/3)

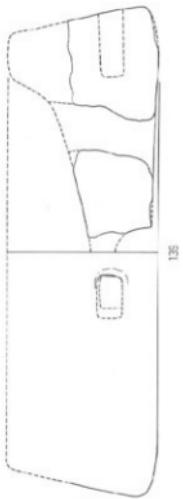


第37図 SE13(122)・SE15(123～126)・SE16(127)・SE18(128～130) 出土遺物 (1/3)



第38図 SE19(131・132)・SE20(133・134) 出土遺物 (1/3)

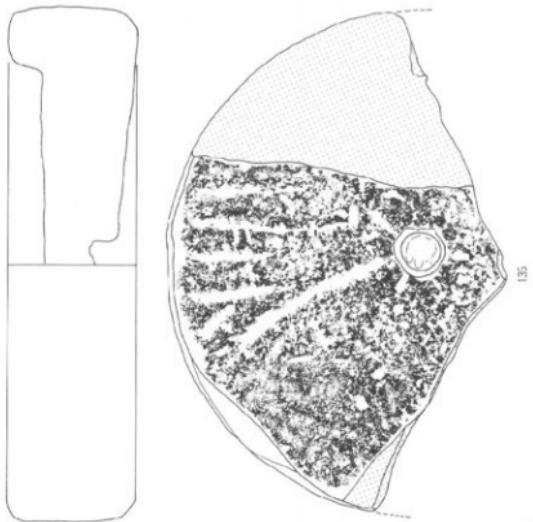
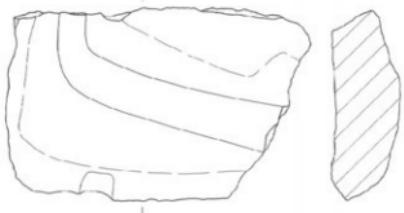
第39図 SE21(135)・SE22(136)・SE23(137~139) 出土遺物 (1/3)



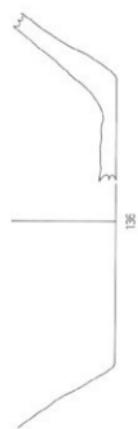
138



137

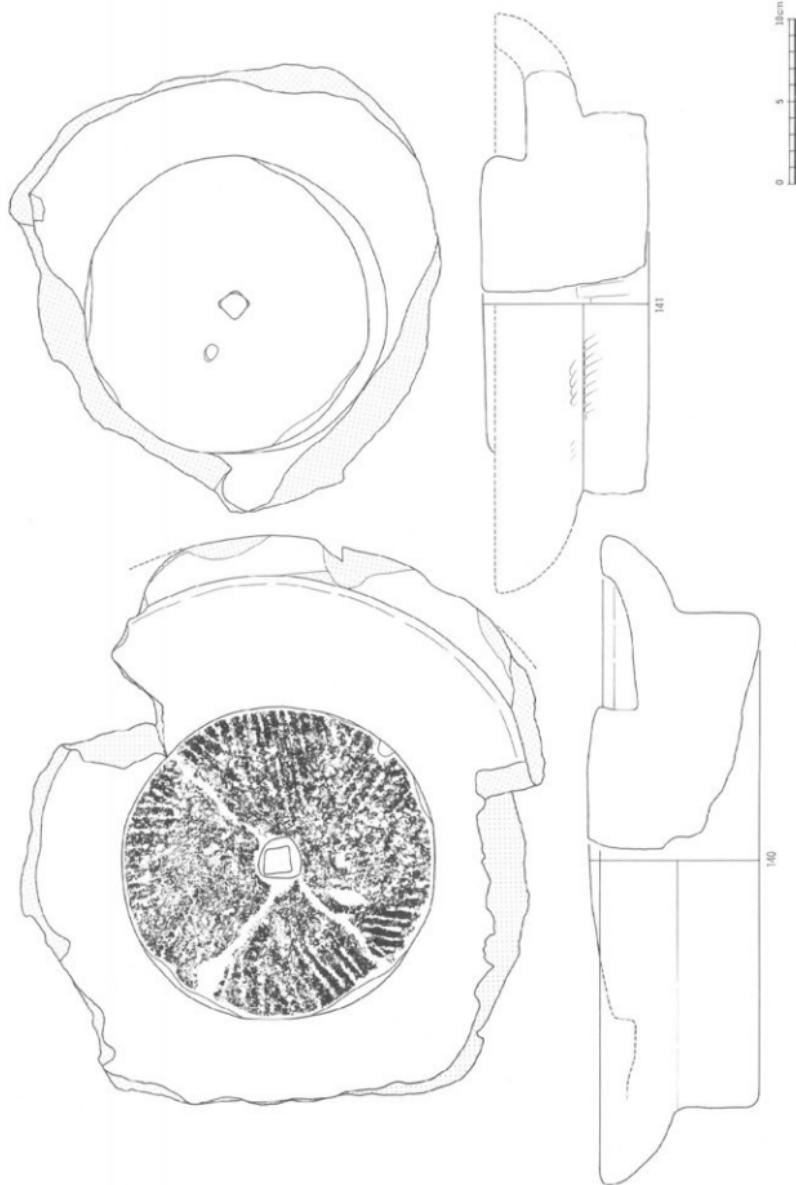


135

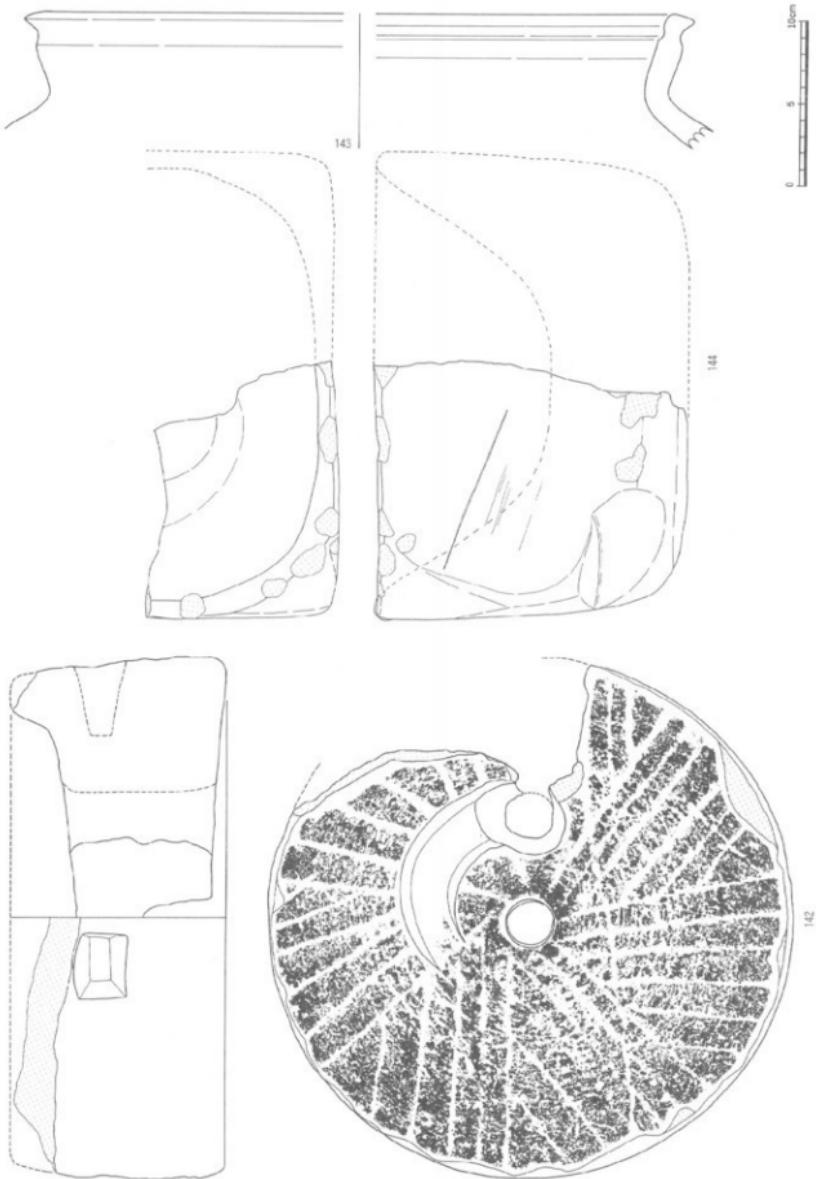


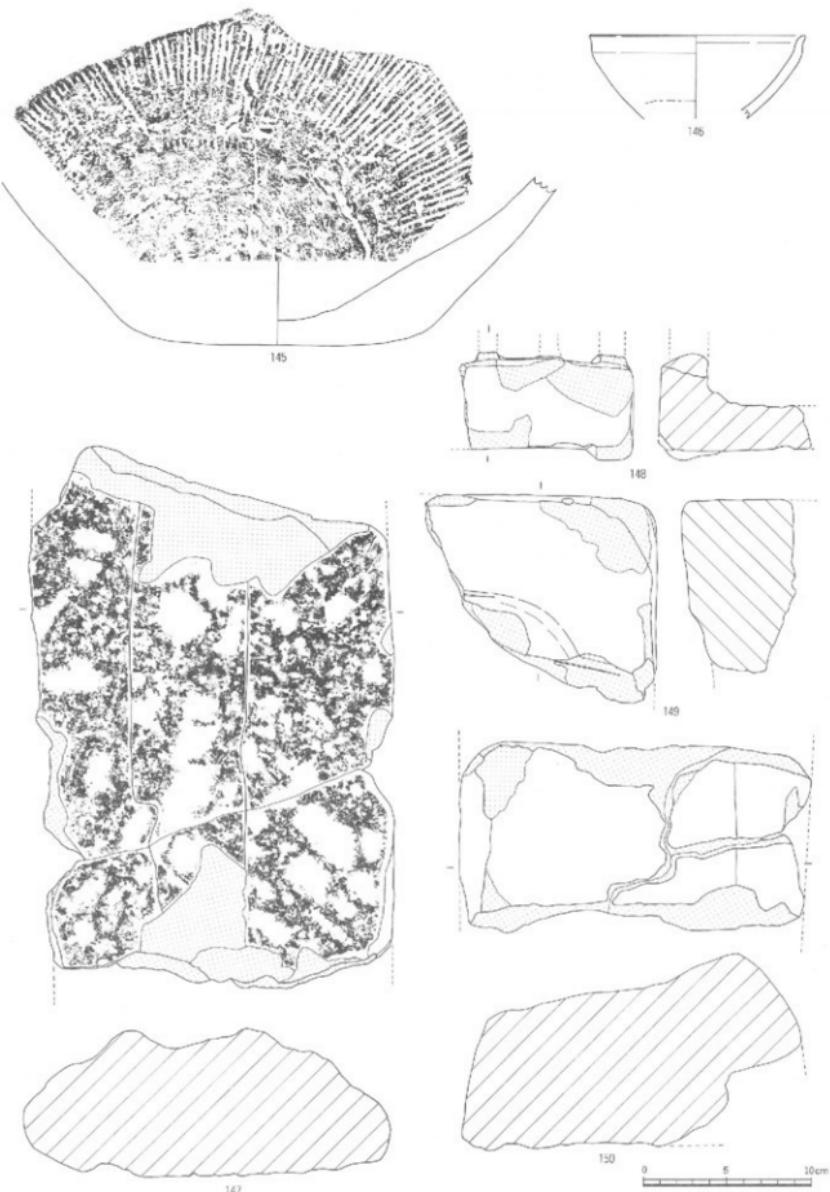
136

第40圖 SE23 出土遺物 (1/3)



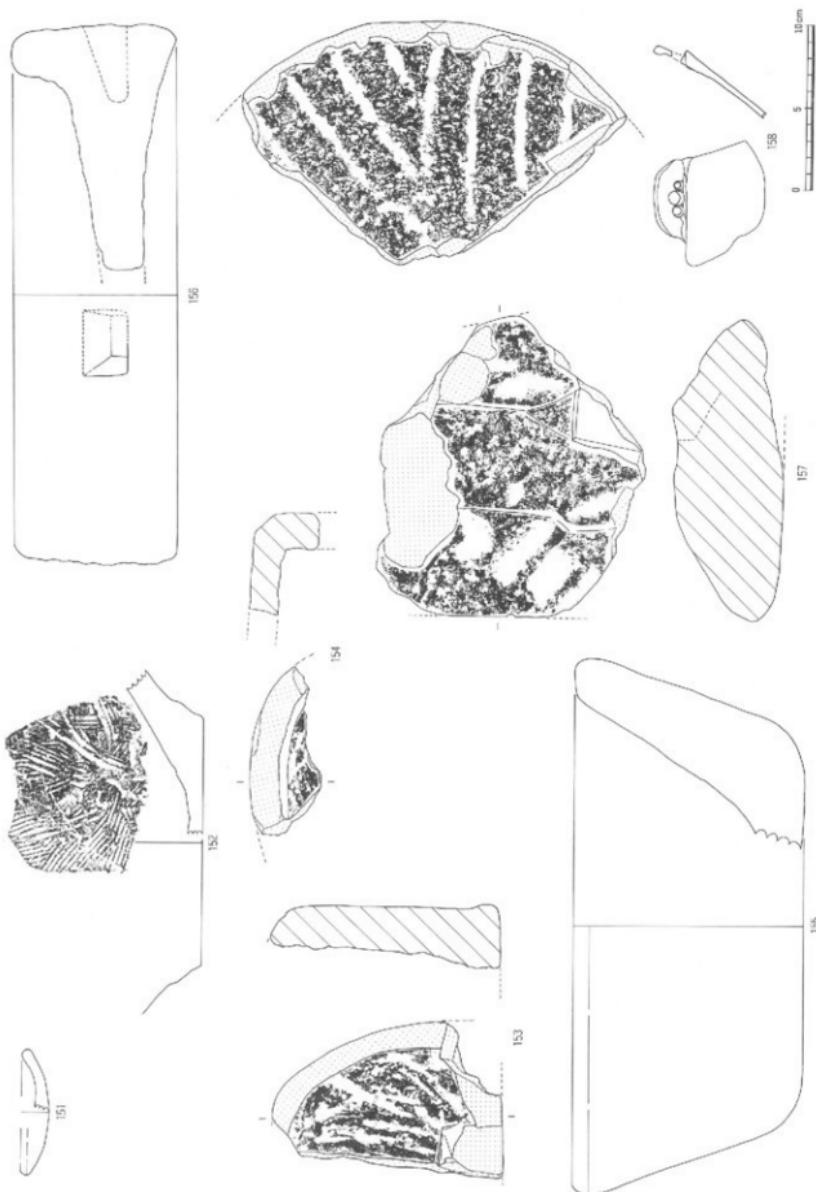
第4圖 SE23(142)・SX08(143・144) 出土遺物 (1/3)



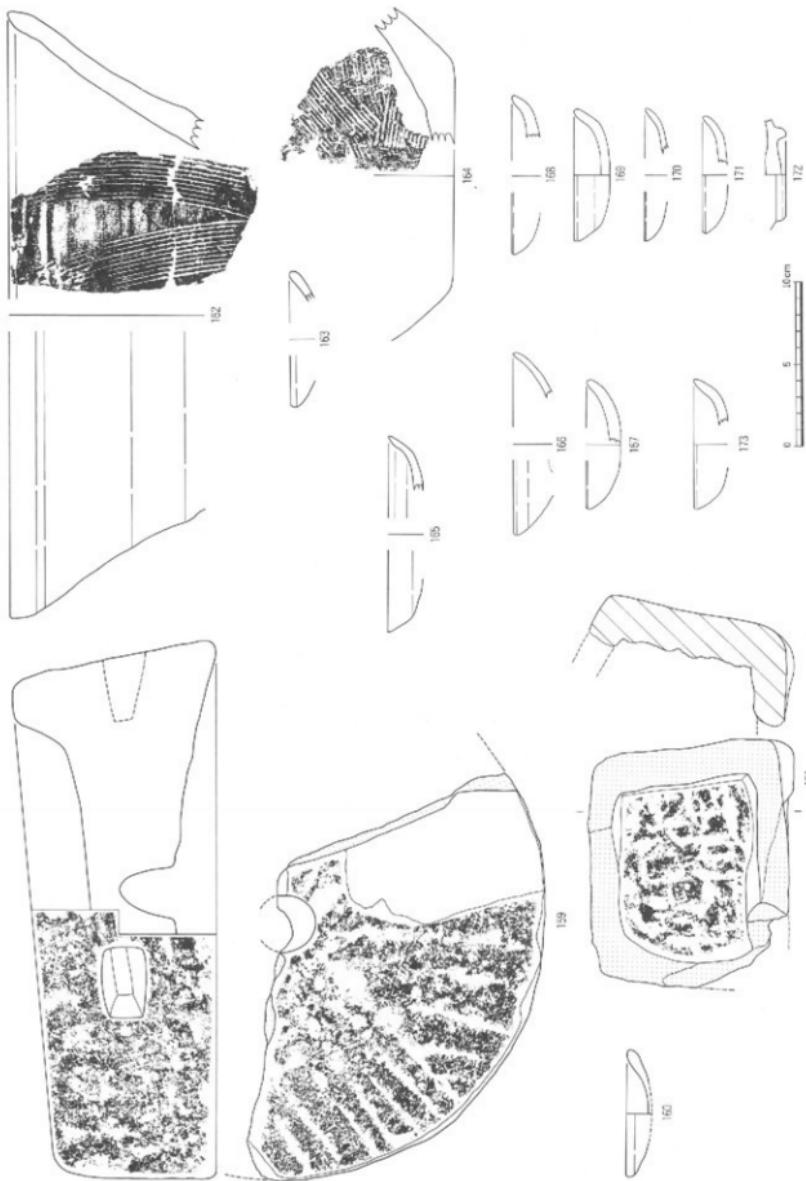


第42図 SX08(145)・SX10(146)・SX14(147～150) 出土遺物 (1/3)

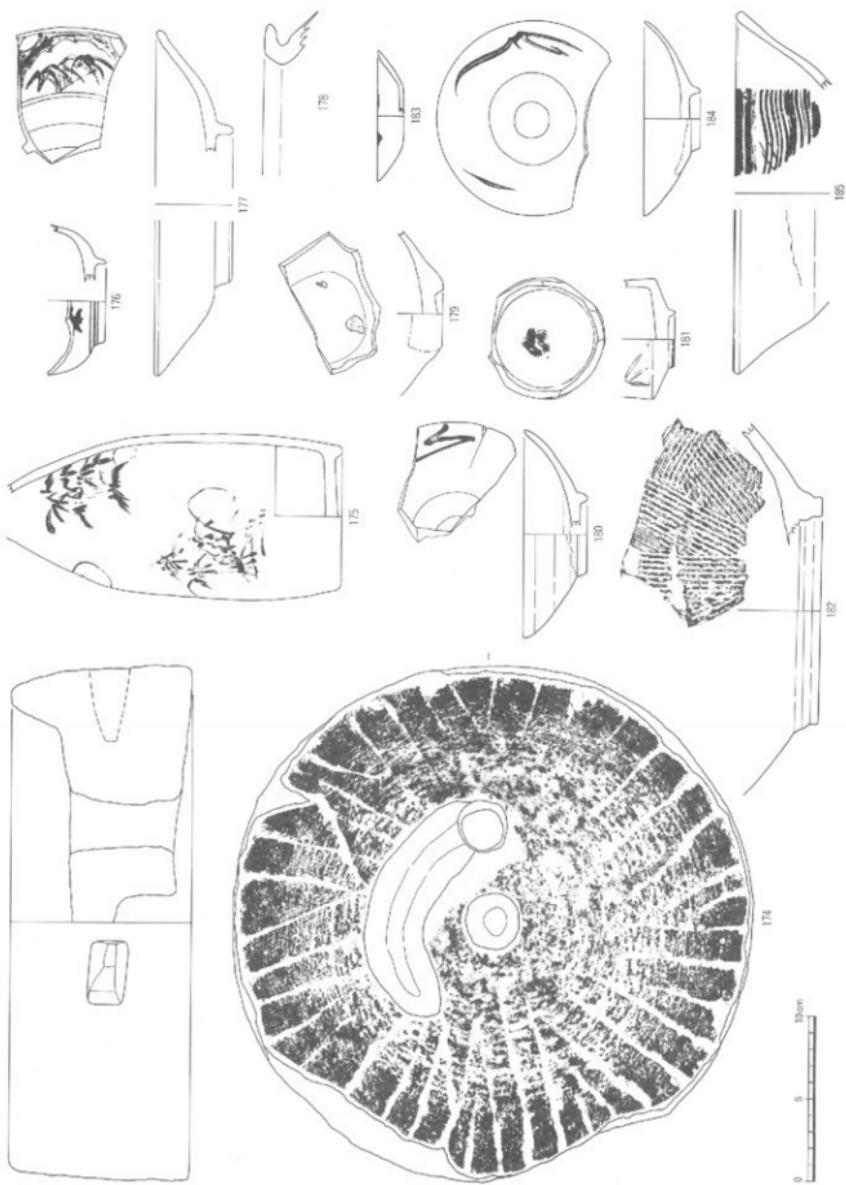
第43圖 SX16 出土遺物 (1/3)



第44图 SK05(159)・SK08(160)・SK11(161)・SK13(162~164)・SK26(165)・SD07(166,167)・SD08a(168~172)・SD08b(173) 出土遺物 (1/3)



第45図 包含層(174)・SK52(175~178)・SK53(179)・SK54(180~182)・SK55(183~185) 出土遺物 (1/3)





第46図 集落区-S1区 (1/200)

4 S1区（第46図）

集落区中央部S 01の南側に位置する。この地区はSD 10・11によりSB 22・23、SE 25・SX 23を方形に囲む区画が中心となり、これを①区とした。南北溝SD 11を境界にSB 24～26の一帯が西側に存在し、これを②区とした。

(1) 堀立柱建物

SB 22（第47図）

①区方形区画内に位置する。梁行2間6.0m、桁行3間10.2m、床面積約61m²、主軸(N84°W)を測る東西棟の総柱建物である。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.65m、2.95m、4.3m、南側桁行P10～P13間は3.4m、3.5m、3.25mを測る。西側梁行P1～P5～P10間は3.4m、2.65m、東側梁行P4～P9～P13間は3.85m、2.2mである。柱穴は略円形で径35～70cm、深さ24～75cmとばらつく。

SB 23（第48図）

①区方形区画内に位置する。梁行2間6.8m、桁行3間10.7m、床面積約73m²、主軸(N87°W)を測る東西棟の総柱建物と想定したが、間違いの可能性がある。北側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.7m、3.4m、4.5m、南側桁行P8～P11間は4.3m、3.4m、3.4mを測るが、他は不明である。柱穴は略円形で径35～74cm、深さ11～80cmとばらつく。

SB 24（第49図）

②区南東に位置する。梁行1間3.6m、桁行2間6.4m、床面積約23m²、主軸(N11°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.1m、3.3m、東側桁行P4～P6間は3.1m、3.3mである。柱穴は略円形で径

S B25 (第49・53図)

②区西側に位置しSB26と複合する。南北3間の柱列を一列確認した。主軸は(N10°E)である。西側柱列P1～P4間の柱間寸法は4.0m、3.4m、3.65mの計11.0m。柱穴は略円形で径40～55cm、深さ40～62cmを測る。

S B26 (第49図)

②区西側に位置する。南北3間の柱列を一列確認した。主軸は(N6°E)である。柱列P1～P4間の柱間寸法は3.5m、3.8m、3.4mの計10.7m。柱穴は略円形で径40～75cm、深さ32～54cmを測る。

(2) 横列・橋・道

S A02 (第48図)

①区方形区画内南端に位置し、区画溝SD10cの切れる部分を補完するようにP1～P6が逆L字状に東西に並ぶ横列である。P1～P2間は3.0m、P2～P6間は4.15m、4.05m、3.9mの計12.1mを測る。南北列の方位は(N87°W)である。柱穴は略円形で径25～44cm、深さ20～60cmである。

S A03 (第49図)

②区SB24の東に80cm離れて位置し、P1～P4が南北に並ぶ横列である。P1～P4間は1.9m、1.55m・1.75mの計5.2mを測る。方位は(N11°E)である。柱穴は略円形で径30～65cm、深さ38～58cmである。

S G01 (第47図)

①区方形区画東西溝SD10aの中央部に架かる橋としたものである。P1～P4がSD10aを挟み台形状に配置される。P1～P2間2.6m、P3～P4間2.0m、P1～P3間1.5m、P2～P4間1.4mを測る。柱穴は略円形で径25～60cm、深さ34～40cmを測る。

S S01・O2 (第46図)

東西溝SD08と並行する道SS01は幅1.0～2.5mを測る東西道である。集落区と耕作区の境界付近では狭くなっている。またSD09とSD15間は南北道SS02の可能性が高い(第10図)。

(3) 井戸

S E25 (第50・53図)

①区方形区画内南西に位置する。平面形は隅丸方形で長軸2.75m、短軸2.15m、底面は1.7m×1.7mである。内部に段を有し、深さ2.12m、底面標高10.40mを測る。

S E26 (第50・53図)

②区SB24の東に位置し、複合するSD11に切られる。平面形は略円形で径1.2～1.25m、底面径1.2m、深さ2.04m、底面標高10.67mを測る。

(4) 壓穴状造構

S X21 (第51・53図)

①区北東に位置し、複合するSX22を切る。平面形は楕円形で長軸4.9m、短軸2.5m、面積約10m²、深さ32cmを測る。

S X22 (第51図)

①区北東に位置する。平面形は隅丸方形と考えられ、辺2.8m、深さ25cmを測る他は不明。

S X23 (第51・53図)

①区方形区画内東隅に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸3.8m以上、短軸2.84m、深さ38cmを測る。面積は10m²程か。

S X24 (第51・53図)

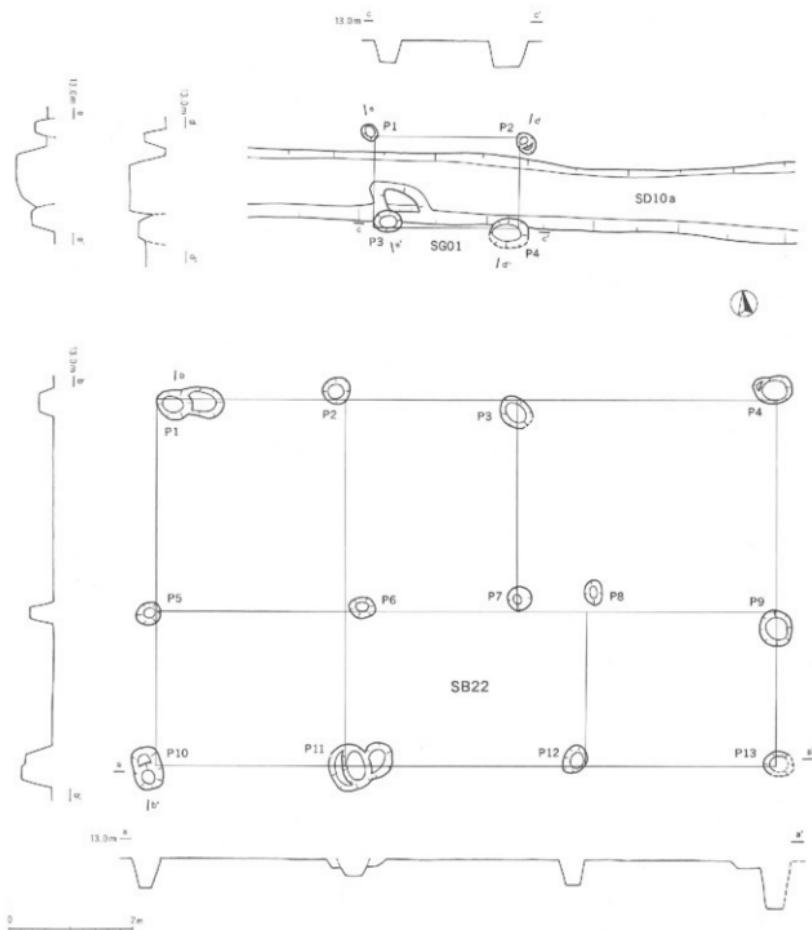
①区南端中央に位置しSD10cに切られる。平面形は隅丸方形で長軸3.25m、短軸2.16m、面積約6m²、深さ24cmを測る。

S X25 (第51・54図)

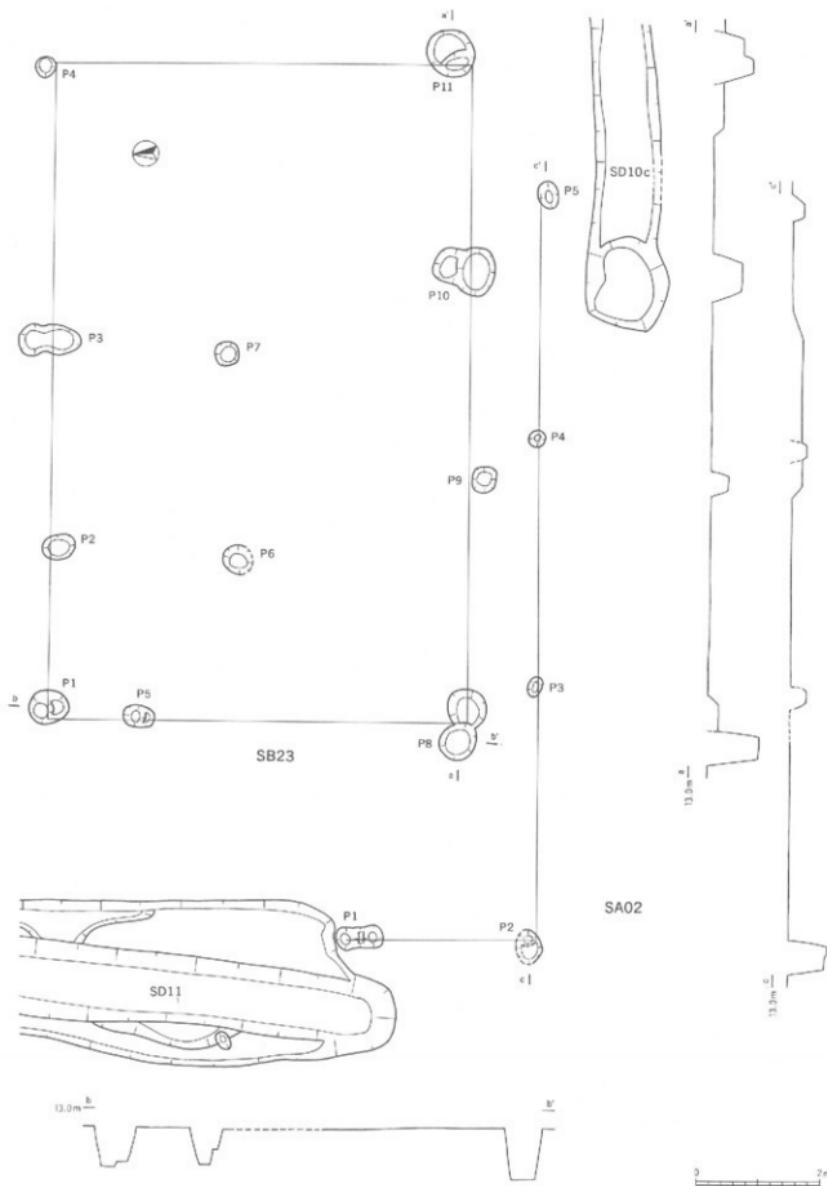
②区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.5m、短軸2.47m、深さ28cmを測る。面積は12m²程か。

S X 26 (第51・54図)

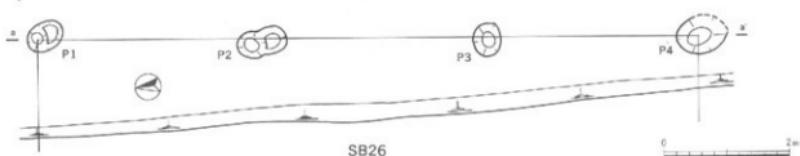
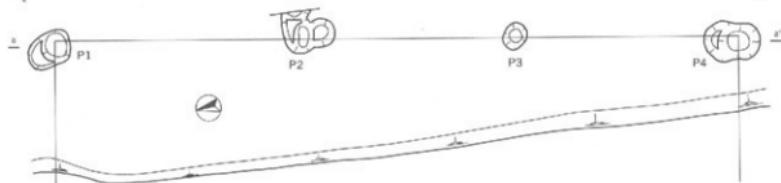
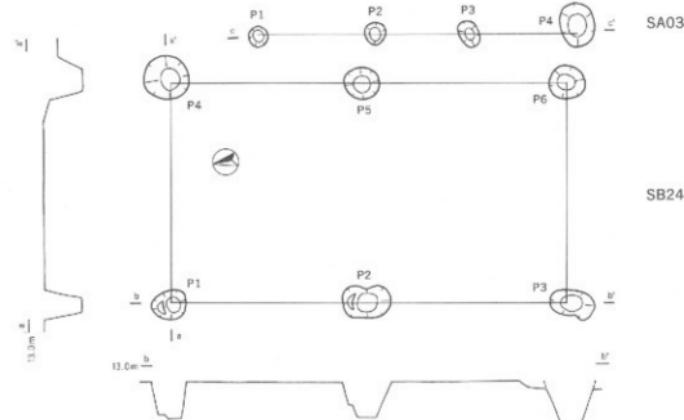
②I区南端に位置しS 2区に跨る。平面形は橢円形で、長軸5.4m、短軸2.8m、面積約14m²、深さ22cmを測る。



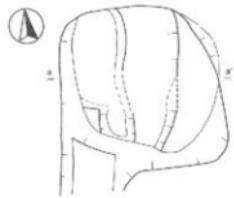
第47図 S1区 SB22・SG01 遺構図 (1/80)



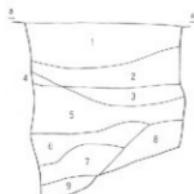
第48図 S1区 SB23・SA02 遺構図 (1/80)



第49図 S1区 SB24~26・SA03 遷換図 (1/60)



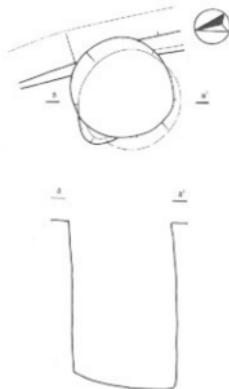
SE25



- 1 桃色粘質土
2 明褐色粘質土
3 實灰色粘質土
4 2層土と3層土の混合土
5 灰茶褐色粘質土
6 雜多混4層土
7 茶褐色粘質土
8 暗青灰茶褐色粘質土
9 墓基褐色粘質土

0 2m

第50図 S1区 SE25・26 遺構図 (1/60)



SE26

(5) 土坑

SK27 (第52・54図)

②区北端に位置し、複合するSD08を切る。平面形は椭円形で、長軸2.85m、短軸2.13m、深さ40cmを測る。

SK28 (第52・54図)

①区北端に位置し、土坑が2基複合したものの、1辺2.95m、深さ15cmを測るが他は不明である。

SK29 (第52・54図)

②区東南に位置し、複合するSD11に切られる。平面形は椭円形で、長軸2.6m、深さ15cmを測る。

SK30 (第52図)

②区中央に位置し、複合するSD14に切られる。平面形は椭円形で、長軸1.45m、短軸1.2m、深さ10cmを測る。

SK31 (第52図)

②区中央西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.7m、短軸1.1m、深さ12cmを測る。

(6) 溝

SD09 (第46・52図)

S1区東端に位置する南北溝であるが、S2区以降は不明。幅30~40cm、深さ24~33cmを測る。

SD10 (第46・52・54図)

①区に位置し、SD11と南北17.7m、東西16.0mの大方形区画を構成する。SD10はコ字状に巡り、北面をSD10a、東面をSD10b、南面をSD10cとした。SD10aは幅1.1m、深さ53~61cmを測る。SD10bは幅0.8~1.1m、深さは、北側が51~70cmと深いが、南側は18~20cmである。SD10cは、幅1.0m、深さは10~12cmと浅い。

SD11 (第46・52・55図)

①区方形区画西端の南北溝である。北側の幅1.55~1.65m、南側では段状の不整な掘り込みがみられる。深さ55~75cmを測り、溝底は北側へ傾斜し南北で25cmの標高差をもつ。

SD12 (第46・52図)

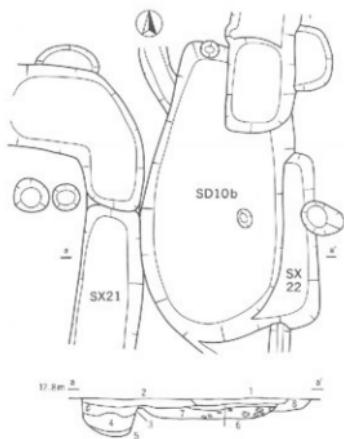
②区北に位置する東西溝であり、途中で2条に分かれる。幅30~50cm、深さ10~12cmを測る。

SD13 (第46・52・55図)

②区北に位置しSD12と並行する。幅65~80cm、深さ12~60cmを測る。SD11に流れ込む溝か。

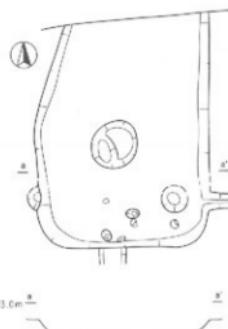
SD14 (第46図)

②区中央に位置する南北溝である。幅30~35cm、深さ5~15cmを測る。

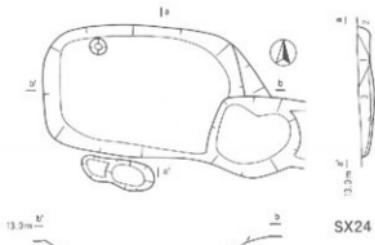


SX21・22

- 1 灰色粘質土(抗風)
- 2 棕色粘質土
- 3 黑灰色砂質土少混褐色粘質土
- 4 混褐色粘質土(極多混)
- 5 地山少混褐色粘質土
- 6 黑褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土(極混)
- 8 深黑色褐色粘質土

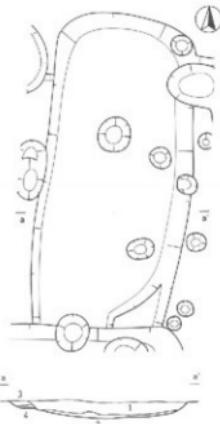


SX23



SX24

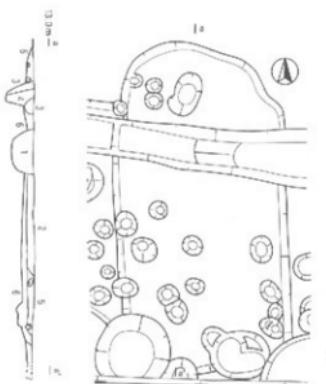
- 1 棕色粘質土
- 2 明褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土
- 4 基灰褐色粘質土



SX25

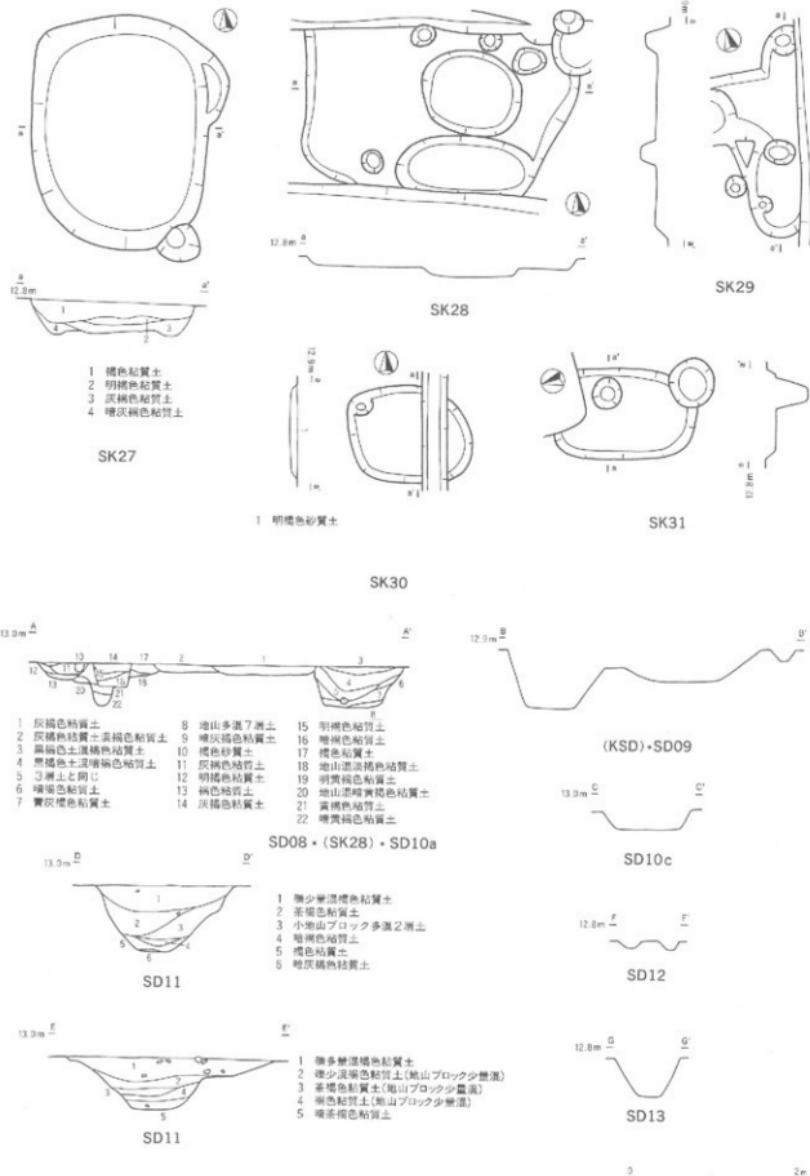
- 1 棕色粘質土
- 2 淡茶褐色粘質土
- 3 地山少混褐色粘質土
- 4 地山多混褐色粘質土

- 1 青灰色粘質土(田耕作土類似)
- 2 極多混褐色粘質土(攤亂化)
- 3 地山淡褐色粘質土
- 4 混褐色粘質土
- 5 明褐色粘質土
- 6 4項と同じ
- 7 明褐色砂質土

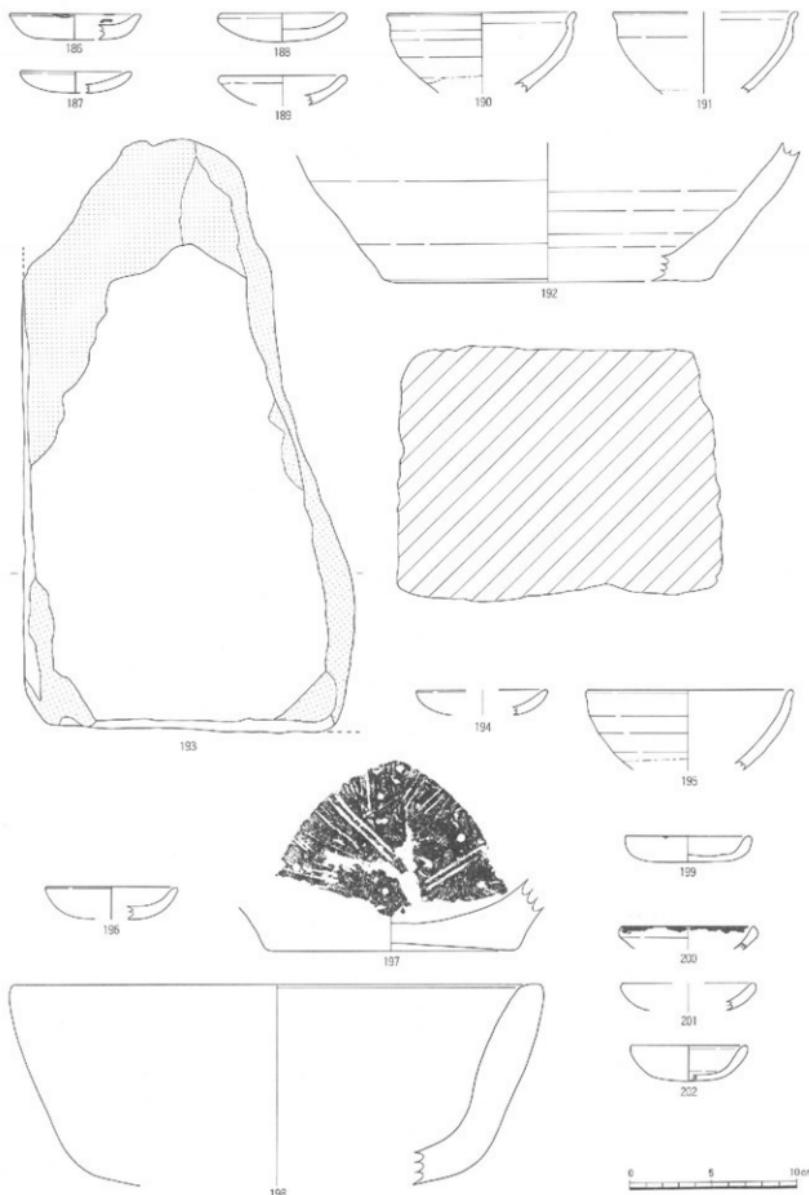


SX26

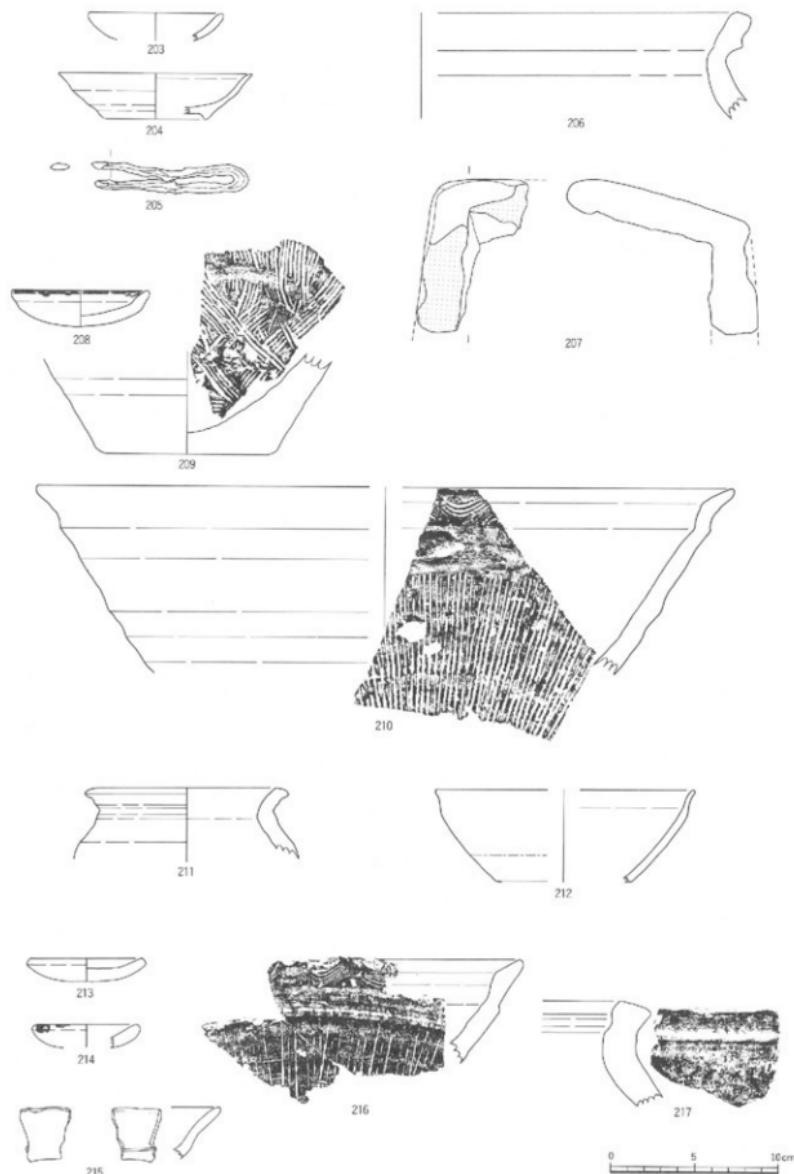
第51図 S1区 SX21～26 遺構図 (1/60)



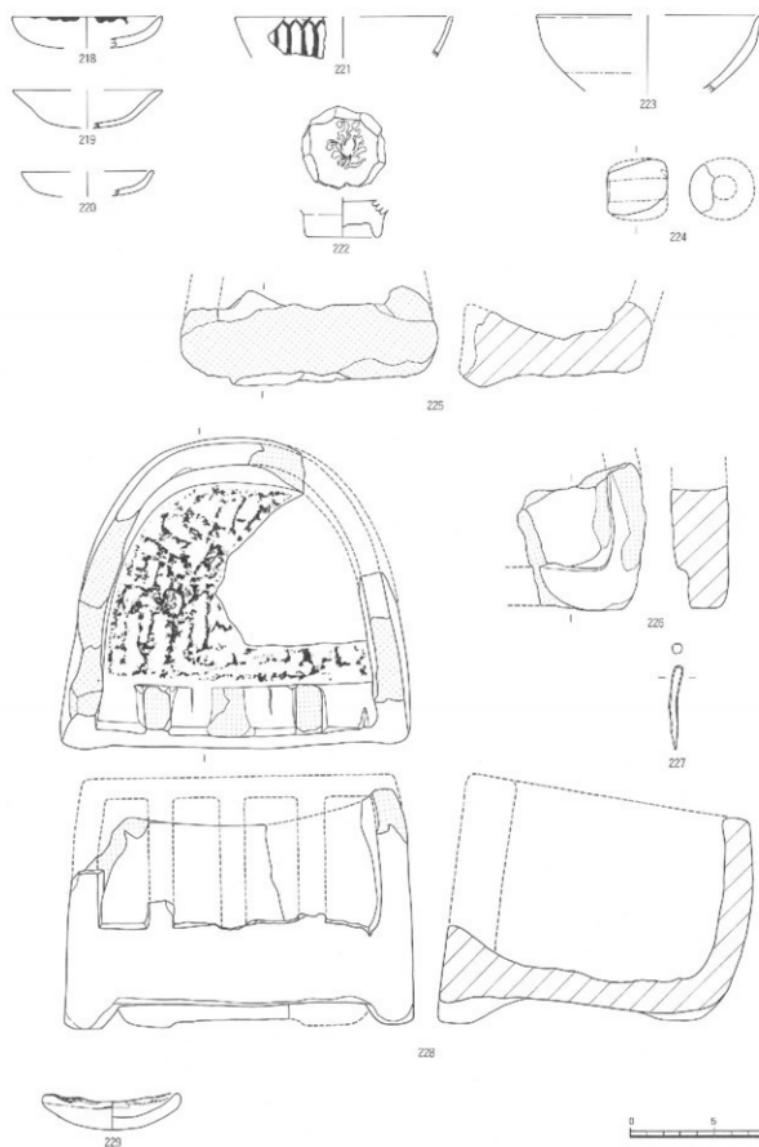
第52図 S1区 SK27~31 遺構図・SD08~13 断面図 (1/50)



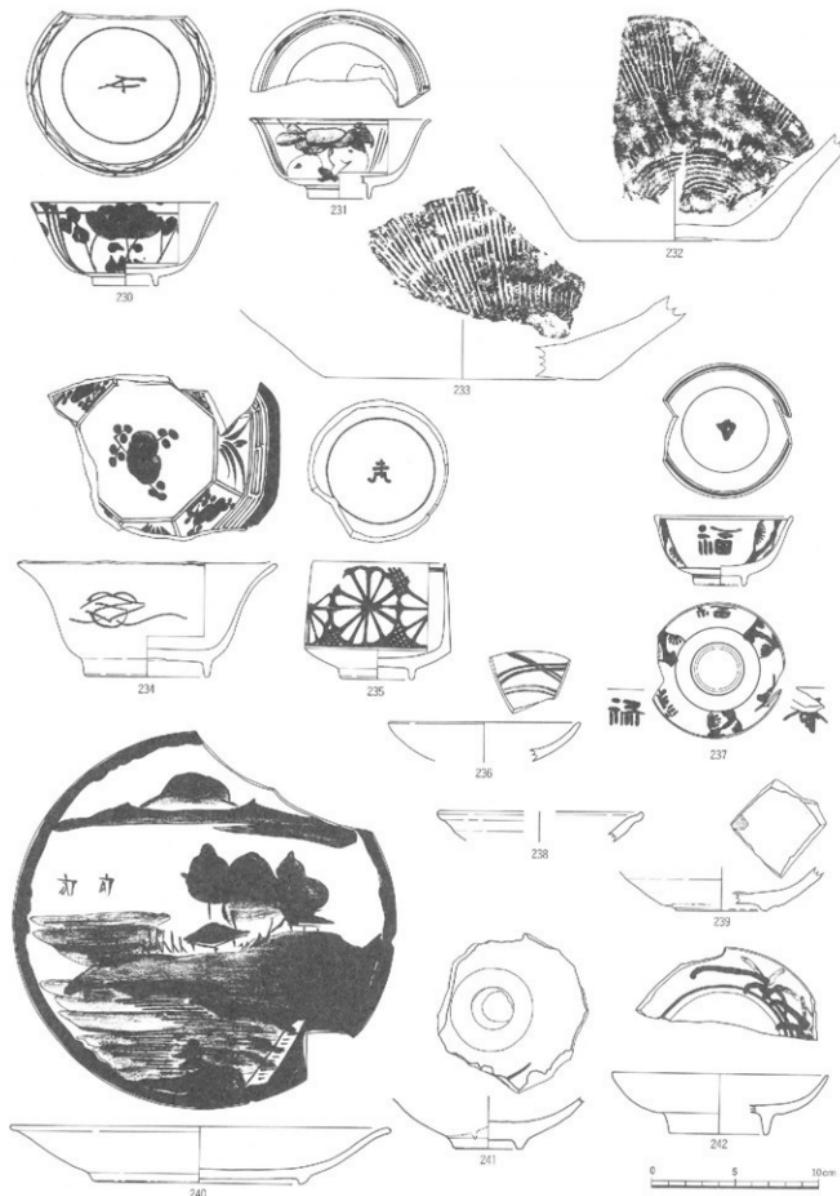
第53図 SB25-P1(186-187)・SE25(188-193)・SE26(194-195)・SX21(196-198)・SX23(199)・SX24(200-202) 出土遺物 (1/3)



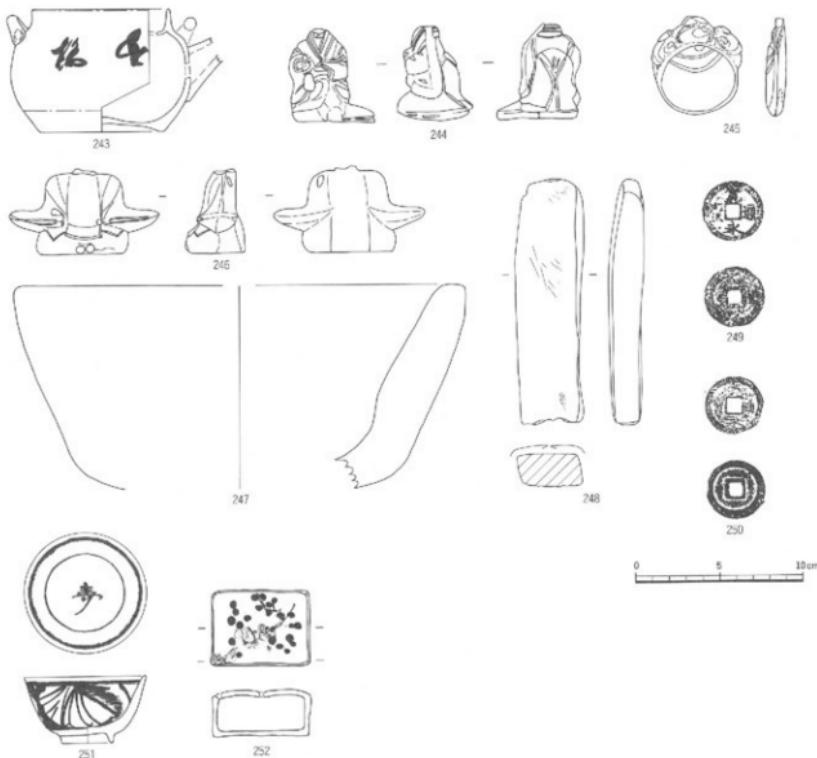
第54図 SX25(203~205)・SX26(206・207)・SK27(208~210)・SK28(211)・SK29(212)・SD10a(213~217) 出土遺物 (1/3)



第55図 SD11(218~228)・SD13(229) 出土遺物 (1/3)



第56図 SE24(230~233)・SK56(234・235)・SD27(236~242) 出土遺物 (1/3)



第57図 SD27(243~250)・SD28(251・252) 出土遺物 (1/3)・(249~250-1/2)

5 S 2区（第58図）

集落区中央部S 1区の南側に位置する。掘立柱建物群が3群存在し、これを基本に北東から①～④区の小区を設定した。①区はSB27～36群、SX30～32群、SE27～31で構成される。②区はSB37～44群、SX27～29群、SE32～37などで構成される。③区はSB45～47群とSX33～42群、SE38～40などで構成される。④区は、SX43～46により構成される。N 1区の小区では、南西側に掘立柱建物、北東側に竪穴状遺構と井戸が配置されるが、S 2区では東西方向に配置されている。

(1) 掘立柱建物

S B 2 7 (第59図)

①区東に位置する。梁行2間3.9m、桁行3間5.1m、床面積約20m²、主軸(N4°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.0m、3.35m（一柱穴不明）、東側桁行P5～P9間は1.5m、1.6m、1.6mを測る。北側梁行P1～P4～P6間は2.25m、2.65m、南側梁行P3～P5～P9間は1.9m、1.9mである。柱穴は略円形で径20～55cm、深さ15～56cmを測る。



第58図 集落区-S2区 (1/200)

S B 2 8 (第59・72図)

①区東に位置する。梁行1間3.5m、桁行2間3.5m、床面積約14m²、主軸(N1°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.3m、1.5m、東側桁行P4～P6間は2.3m、1.4mを測る。柱穴は略円形で径30～50cm、深さ28～50cmを測る。

S B 2 9 (第59図)

①区中央に位置する。梁行1間3.4m、桁行2間4.8m、床面積約16m²、主軸(N7°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.5m、2.4m、東側桁行P4～P6間は2.8m、2.0mである。柱穴は略円形で径25～45cm、深さ25～50cmを測る。

S B 3 0 (第59図)

①区東に位置する。梁行2間4.8m、桁行3間6.9m、床面積約33m²、主軸(N6°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.3m、2.6m、2.3m、東側桁行P7～P10間は2.2m、2.3m、2.4mを測る。北側梁行P1～P5～P7間は2.8m、1.8m、南側梁行P4～P6～P10間は2.8m、1.8mである。柱穴は略円形で径32～84cm、深さ30～74cmを測る。

S B 3 1 (第60図)

①区中央に位置する。梁行1間1.8m、桁行3間6.0m、床面積約11m²、主軸(N7°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は2.0m、1.8m、2.2m、東側桁行P5～P8間は2.2m、1.55m、2.25mである。

柱穴は略円形で径25～75cm、深さ25～65cmを測る。

SB32（第60図）

①区西に位置し、SB32～36が複合する。梁行1間4.2m、桁行2間7.5m、床面積約31m²、主軸（N7°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、4.0m、3.5m、東側桁行P4～P6間は4.2m、3.3mを測る。柱穴は略円形で径50～90cm、深さ45～85cmを測る。

SB33（第60図）

①区西に位置する。梁行1間4.7m、桁行3間6.2m、床面積約29m²、主軸（N11°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は、1.8m、2.0m、2.4m、東側桁行P5～P8間は2.6m、1.5m、2.0mを測る。柱穴は略円形で径30～70cm、深さ38～74cmを測る。

SB34（第60・72図）

①区西に位置する。梁行1間3.4m、桁行3間5.5m、床面積約19m²、主軸（N8°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P4間の柱間寸法は、2.0m、1.6m、1.9m、東側桁行P5～P8間は1.8m、1.3m、2.4mを測る。柱穴は略円形で径25～50cm、深さ30～56cmを測る。

SB35（第61図）

①区西に位置する。梁行1間3.4m、桁行2間5.1m、床面積約17m²、主軸（N13°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.3m、2.8m、東側桁行P4～P5間は2.5mを測る（一柱穴不明）。柱穴は略円形で径35～42cm、深さ39～50cmを測る。

SB36（第61図）

①区西に位置する。梁行1間4.3m、桁行2間5.7m、床面積約24m²、主軸（N8°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は2.8m、2.9m、東側桁行P4～P6間は2.6m、3.1mである。柱穴は略円形で径30～50cm、深さ45～72cmを測る。

SB37（第61図）

②区北西に位置する。梁行2間4.9m、桁行2間6.2m、床面積約30m²、主軸（N10°E）を測る南北棟の総柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.1m、3.2mを測り、北側梁行P1～P4～P7間は2.5m、2.5m、南側梁行P3～P6～P8間は2.4m、2.45mである。柱穴は略円形で径20～50cm、深さ16～62cmを測る。

SB38（第61図）

②区北西に位置する。南北2間の柱列を一列確認した。主軸は（N6°E）である。柱列P1～P3間の柱間寸法は、24m、24mの計48m。柱穴は略円形で径35～74cm、深さ47～53cmを測る。

SB39（第62・72図）

②区中央に位置する。梁行1間3.8m、桁行2間5.4m、床面積約21m²、主軸（N8°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.0m、2.5m、東側桁行P4～P6間は2.9m、2.3mを測る。柱穴は略円形で径30～90cm、深さ35～64cmを測る。

SB40（第62・72図）

②区中央に位置する。梁行1間3.0m、桁行2間5.4m、床面積約16m²、主軸（N10°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は、2.75m、2.65mを測る。柱穴は略円形で径27～34cm、深さ26～47cmを測る。

SB41（第62・72図）

②区南に位置する。南北2間の柱列を一列確認した。主軸は（N5°E）である。柱列P1～P3間の柱間寸法は4.0m、5.0mの計9.0m。柱穴は略円形で大きく径1.1～1.6m、深さ82～90cmを測る。

SB42（第63図）

②区南に位置する。1間×1間の柱穴を確認した。梁間1間4.6mの東西棟か。主軸は（N82°W）である。P1～P2間の柱間寸法は4.1m、P3～P4間は4.0mである。柱穴は略円形で径30～80cm、深さ40～57cmを測る。

SB43（第63図）

②区南に位置する。1間×1間の柱穴を確認した。梁間1間4.3mの東西棟か。主軸は（N81°W）である。P1～P2間の柱間寸法は2.9m、P3～P4間は3.2mである。柱穴は略円形で径35～50cm、深さ50～72cmを測る。

S B44 (第63図)

②区南に位置する。南北2間の柱列と1個の柱穴を確認した。柱列の軸は(N5°E)である。柱列P2~P4間の柱間寸法は3.0m、3.0mの計6.0m、P1~P2間は4.6mを測る。柱穴は略円形でP3以外は大きい。径35~90cm、深さ33~59cmを測る。P3~P4間の建物内側には、2.5m×2.5mの範囲で硬く踏み締められた土間状の遺構が存在した。

S B45 (第64図)

③区やや東に位置し、S B46・47と複合する。梁行2間5.4m、桁行3間8.9m、床面積約48m²、主軸(N86°W)を測る東西棟の純柱建物である。北側桁行P1~P4間の柱間寸法は2.95m、2.85m、3.0m、南側桁行P9~P12間は3.0m、3.0m、3.0mを測り、西側梁行P1~P5~P9間は2.8m、2.4m、南側梁行P4~P8~P12間は2.6m、2.8mである。柱穴は略円形で径25~50cm、深さ36~64cmを測る。

S B46 (第64図)

③区中央に位置する。梁行2間5.7m、桁行3間7.4m、床面積約42m²、主軸(N86°W)を測る東西棟の純柱建物である。北側桁行P1~P4間の柱間寸法は2.5m、2.7m、2.2m、東側桁行P9~P12間は2.6m、2.4m、2.4mを測り、北側梁行P1~P5~P9間は2.95m、2.85m、南側梁行P4~P8~P12間は2.8m、2.8mである。柱穴は略円形で径25~50cm、深さ16~67cmを測る。

S B47 (第65・72図)

③区中央に位置する。梁行2間4.1m、桁行3間5.0m、床面積約21m²、主軸(N1°E)を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1~P4間の柱間寸法は1.55m、1.75m、1.9m、東側桁行P8~P11間は1.7m、1.6m、1.7mを測り、北側梁行P1~P5~P8間は2.25m、1.85m、南側梁行P4~P7~P11間は2.3m、1.8mである。柱穴は略円形で径30~35cm、深さ28~65cmを測る。

(2) 井戸

S E27 (第66・72・73図)

①区東に位置する。平面形は略円形で径1.2m、底面径0.9~0.95m、深さ2.3m、底面標高10.55mを測る。

S E28 (第66・74・75図)

①区中央に位置する。平面形は椭円形で1.7m×1.32m、底面は1.05×1.28m、深さ1.36m、底面標高11.49mを測る。

S E29 (第66・75図)

①区南中央に位置する。平面形は略円形で径1.15m、底面径0.9m、深さ1.38m、底面標高11.44mを測る。

S E30 (第67・75図)

①区北東に位置する。平面形は略円形で径1.43~1.55m、底面径0.8m、深さ1.73m、底面標高11.08mを測る。

S E31 (第67・75図)

①区南西に位置する。平面形は略円形で径0.8m、底面径0.65m、深さ1.84m、底面標高10.95mを測る。

S E32 (第66・76図)

②区北東に位置する。平面形は椭円形で2.4m×2.1m、底面は1.95×1.7m、深さ1.35m、底面標高11.41mを測る。

S E33 (第66・76・77図)

②区北東に位置する。平面形は略円形で径2.0m程か。内部に段を有し、底面は0.7×0.96m、深さ2.1m、底面標高10.97mを測る。

S E34 (第66・77図)

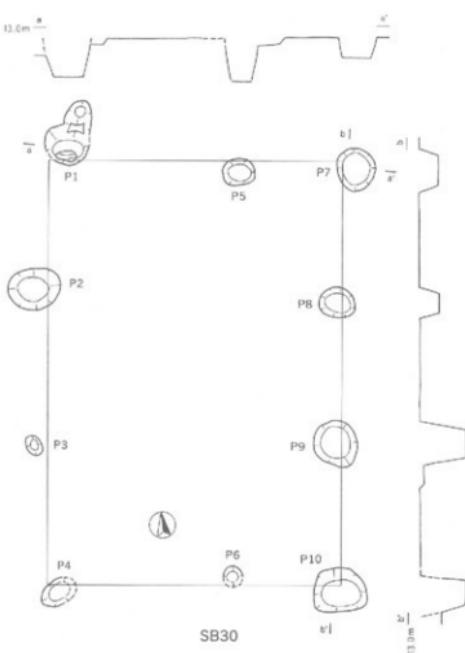
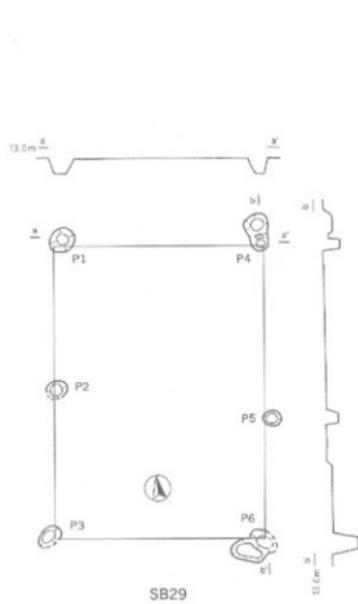
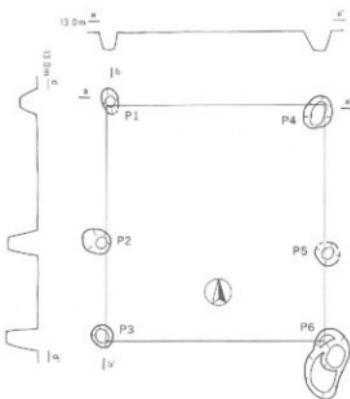
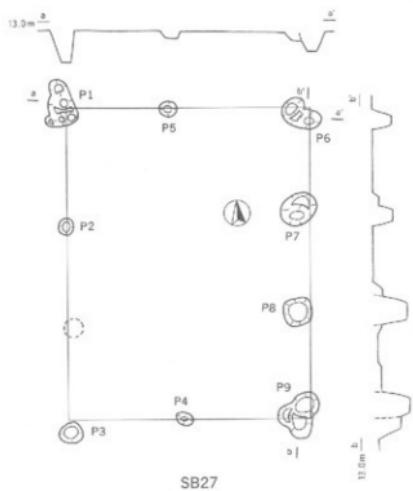
②区北東に位置する。平面形は略円形で推定径2.2m、底面1.3m×推定2.0mか。深さ1.5m、底面標高11.30mを測る。

S E35 (第66・78図)

②区北東に位置する。平面形は略円形で推定径1.6m、底面径1.15~1.35cm、深さ2.0m、底面標高10.82mを測る。

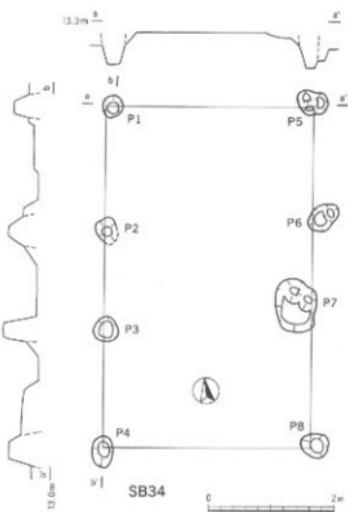
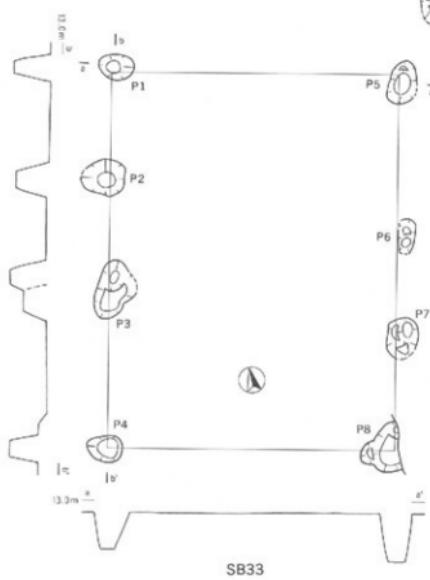
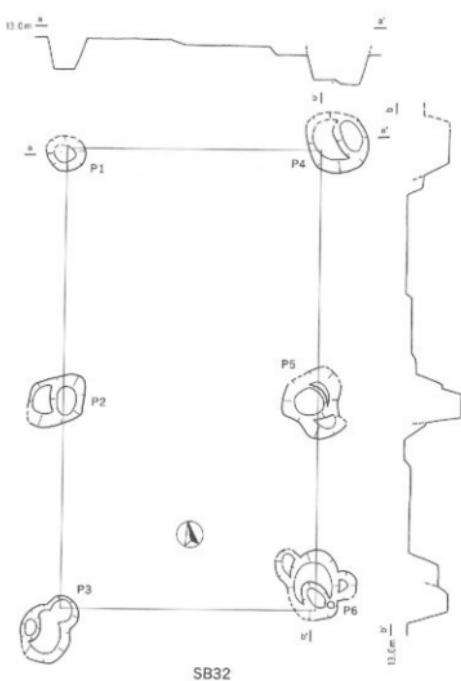
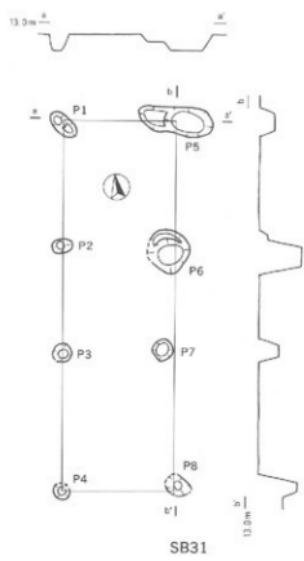
S E36 (第67・79図)

②区中央に位置し、複合するS X28に切られる。平面形は略円形で径1.4m、底面径1.15~1.35m、深さ1.8m、底面標高11.03mを測る。

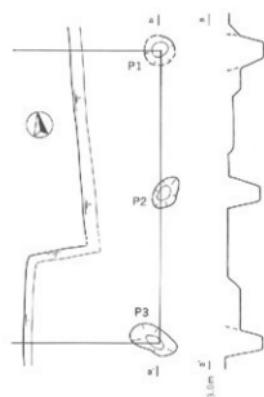
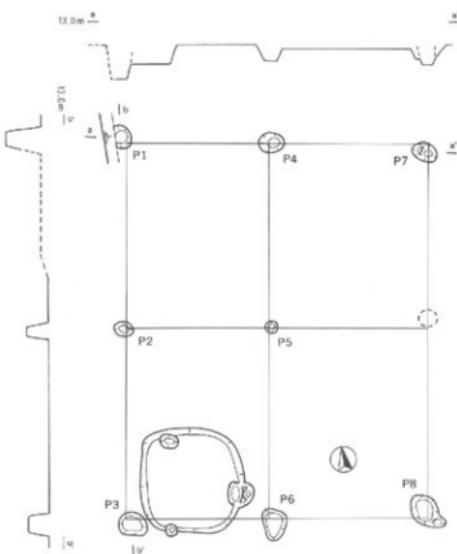
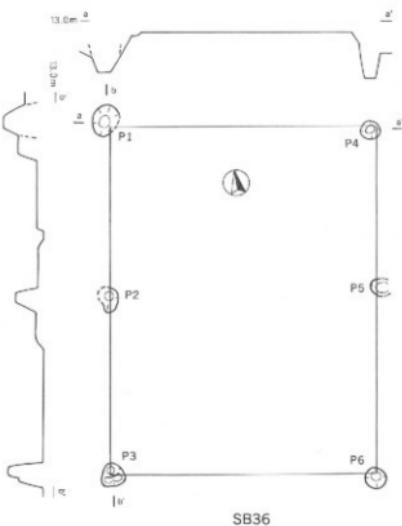
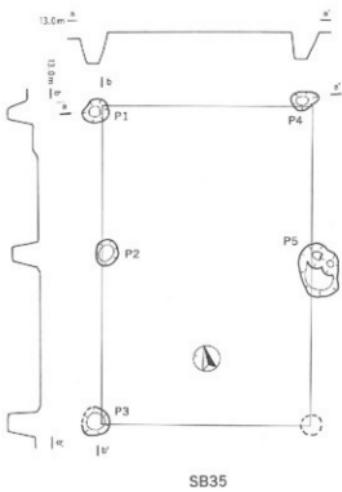


3 10 20 30 40 50 60 70 80

第59図 S2区 SB27~30 造構図 (1/80)

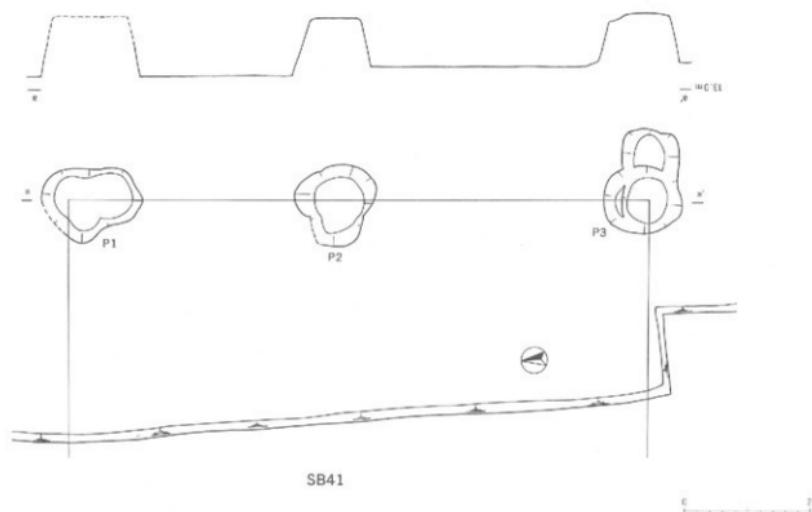
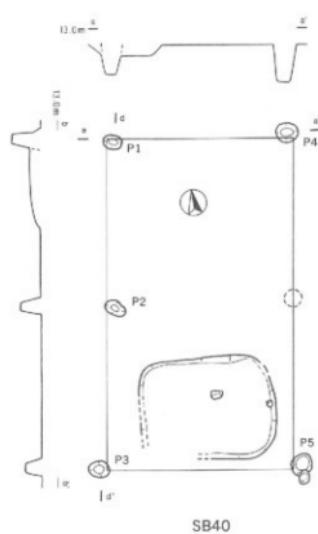
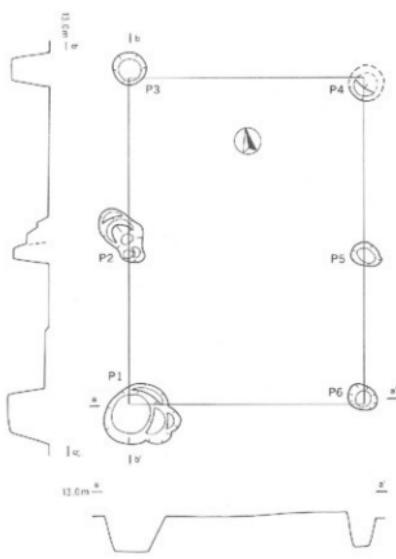


第60図 S2区 SB31~34 造構図 (1/80)

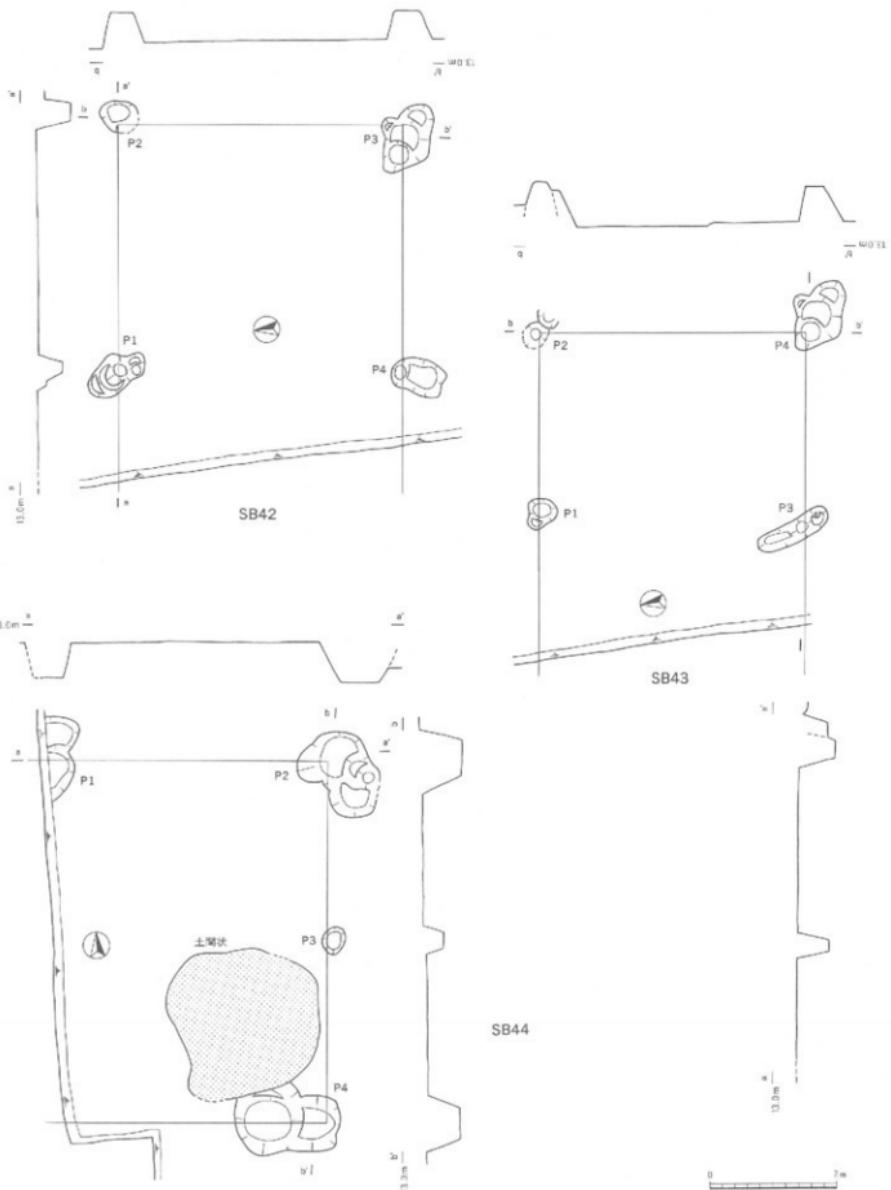


0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

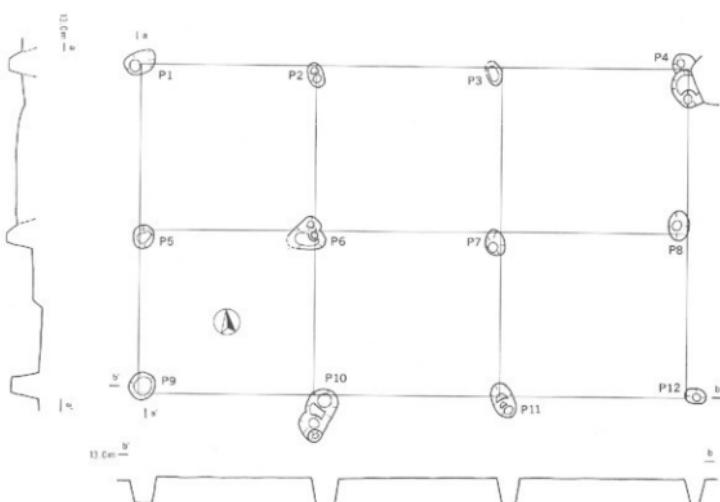
第61図 S2区 SB35～38 造構図 (1/80)



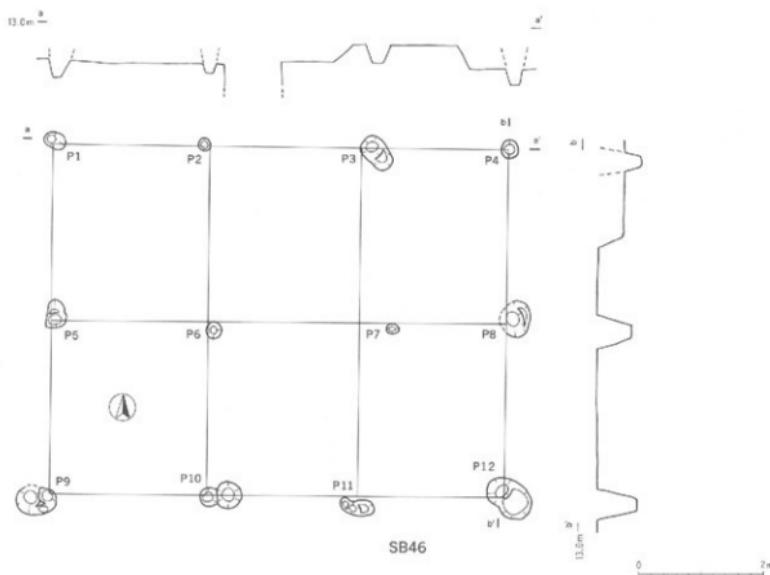
第62図 S2区 SB39~41 遺構図 (1/80)



第63図 S2区 SB42～44 造構図 (1/80)

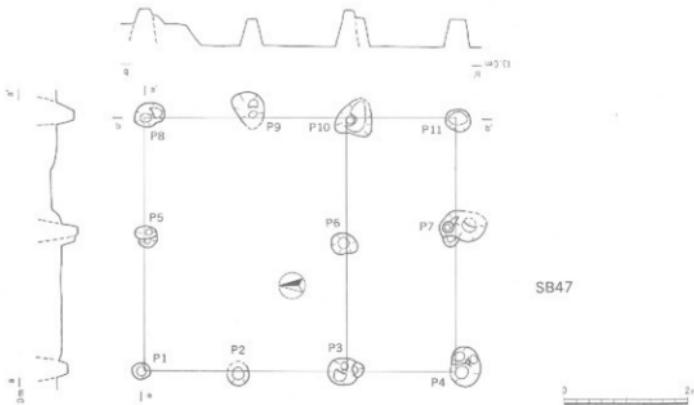


SB45



SB46

第64図 S2区 SB45・46 造構図 (1/80)



第65図 S2区 SB47 遺構図 (1/80)

SE37 (第67図)

②区中央南に位置し、複合するSK42を切る。平面形は略円形で径1.2~1.36m、底面径0.8m、深さ1.5m、底面標高11.21mを測る。

SE38 (第67図)

③区北東に位置する。平面形は略円形で径0.9~1.0m、底面径1.0m、深さ1.28m、底面標高11.41mを測る。

SE39 (第67・79図)

③区中央北に位置する。平面形は略円形で0.88~0.93m、底面径1.0m、深さ1.36m、底面標高11.32mを測る。

SE40 (第67・79・80図)

③区中央北に位置する。平面形は椭円形で1.3×1.0m、底面径0.8~0.84cm、深さ1.68m、底面標高11.01mを測る。

(3) 積穴状遺構

SX27 (第68・80図)

②区南東に位置し、SX28と複合する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸2.25m、深さ19cmを測る。

SX28 (第68・81図)

②区南東に位置し、SX27・29を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.3m、短軸3.05m、推定面積約15m²、深さ30cmを測る。西辺には石積みがみられ、SX29の埋め戻し時に平面形を調整したものと考えられる。SX29 (第68・81図)

②区南東に位置する。平面形は隅丸方形か、深さ30cmを測る。

SX30 (第69図)

①区南端中央に位置し、SX31・32と複合する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸4.0m、短軸3.1m、深さ28cmを測る。推定面積9m²。

SX31 (第69図)

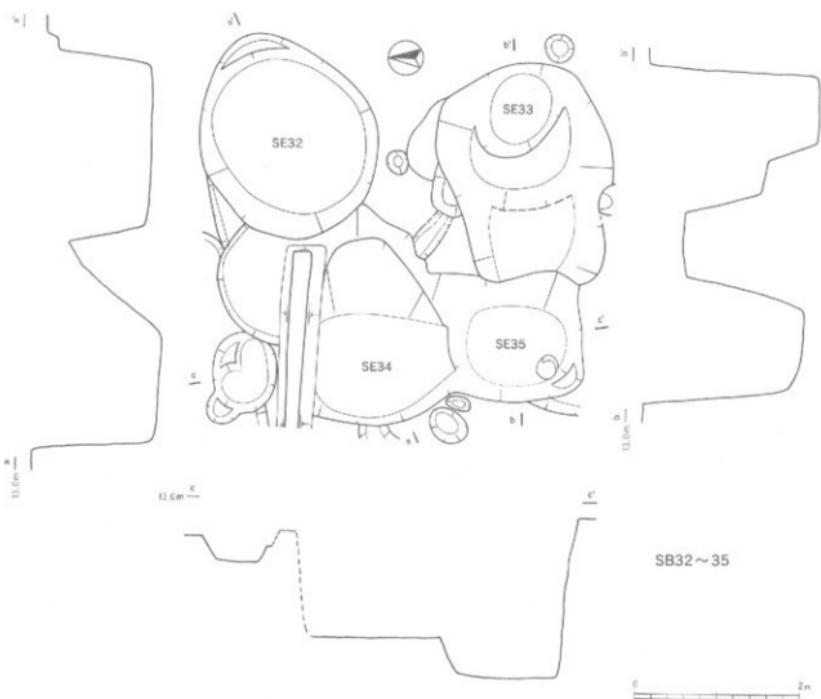
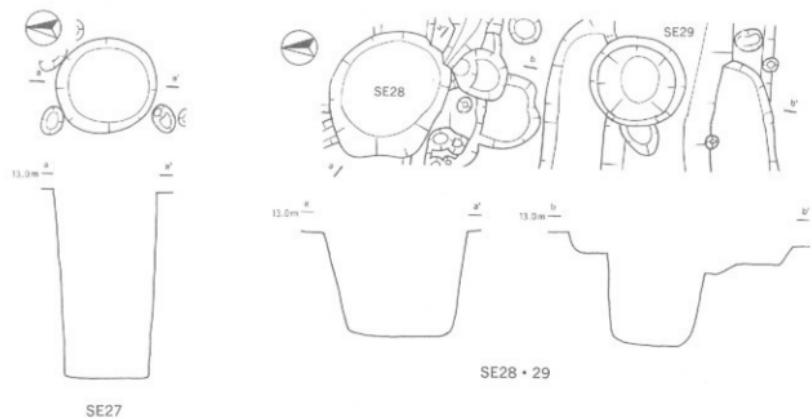
①区南端中央に位置する。平面形は椭円形と考えられ、長軸不明、短軸1.35m、深さ37cmを測る。

SX32 (第69図)

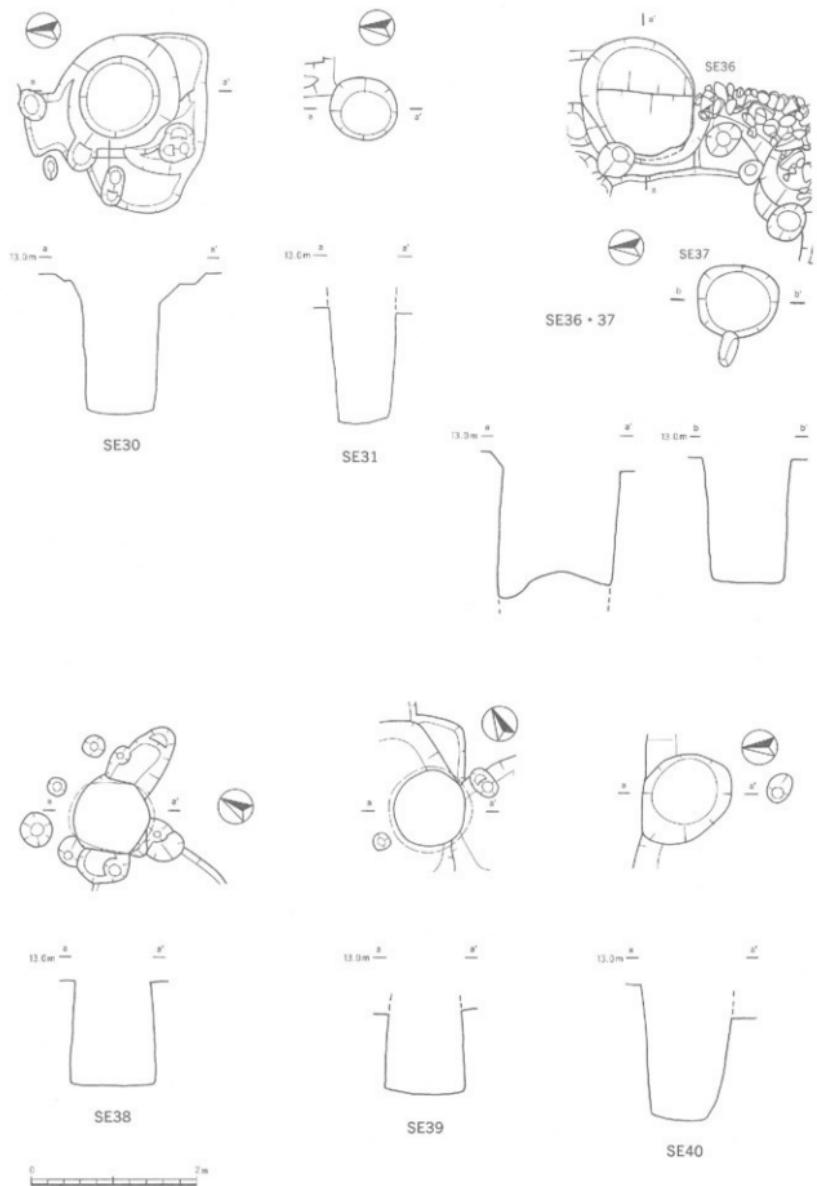
①区南端中央に位置する。平面形は椭円形と考えられ、長軸不明、短軸1.6m、深さ40cmを測る。

SX33 (第69・81図)

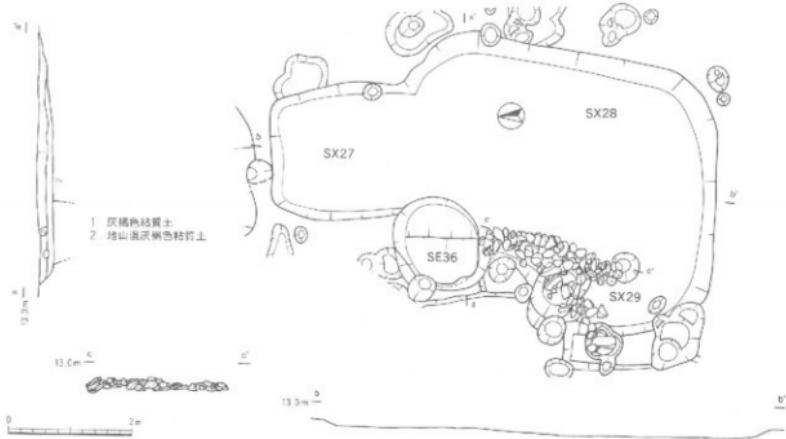
③区北端中央に位置し、複合するSX34・SE39・SK47を切る。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸2.4m、深さ42cmを測る。



第66図 S2区 SE27~29・32~35 遺構図 (1/60)



第67図 S2区 SE30・31・36~40 遺構図 (1/50)



第68図 S2区 SX27～29 遺構図 (1/50)

SX34 (第69・81図)

③区中央北に位置し、複合するSX35を切る。平面形は楕円形と考えられ、長軸3.9m、深さ24cmを測る。

SX35 (第69図)

③区北西に位置する。平面形は隅丸方形と考えられ、長軸3.9m、短軸不明、深さ40cmを測る。

SX36 (第69・82図)

③区北西に位置し、複合するSX35を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸6.0m、短軸2.7m、面積約14m²か。深さ36cmを測る。北側で貼床を検出したが、東辺の石積みとともに、SX35を埋め戻す時点で設置されたものと考えられる。

SX37 (第69図)

③区北西に位置し、詳細は不明であるが深さ23cmを測る。

SX38 (第69図)

③区北西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形で、SX36と同程度の規模か。深さ36cmを測る。

SX39 (第69図)

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は楕円形と考えられ、短軸2.3mか。深さ25cmを測る。

SX40 (第69図)

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、長軸4.1mか。深さ26cmを測る。

SX41 (第69図)

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、深さ18cmを測る。

SX42 (第69図)

③区南西に位置する。詳細は不明であるが平面形は隅丸方形と考えられ、深さ18cmを測る。

SX43 (第69図)

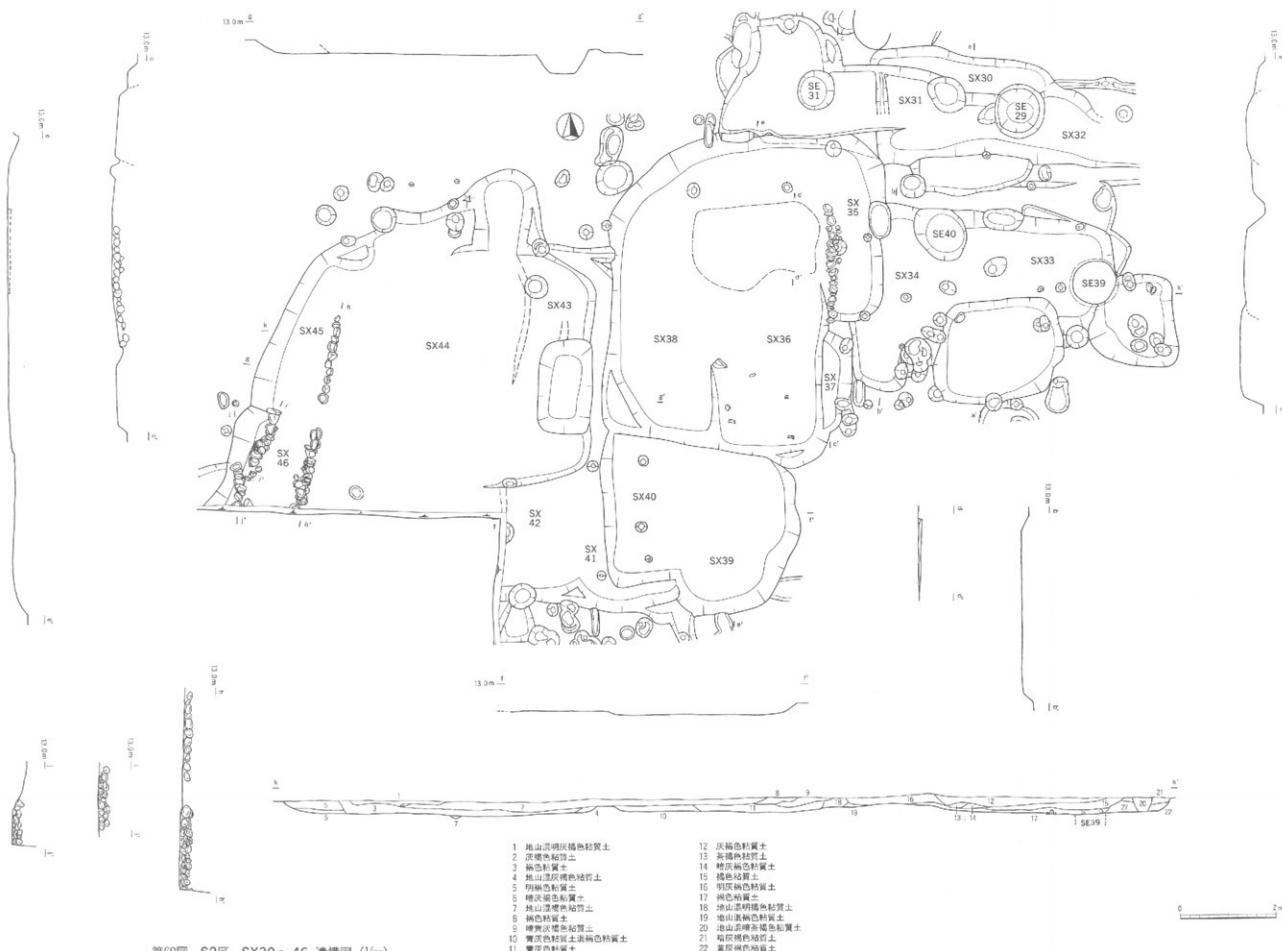
④区に位置する。平面形は隅丸方形で、推定長軸5.2m、推定短軸3.5m、面積約16m²か。深さ30cmを測る。

SX44 (第69・82図)

④区に位置し、複合するSX45を切る。平面形は隅丸方形で、推定長軸6.0m前後、推定短軸4.0m、面積約24m²程か。深さ30cmを測る。西辺の石積みは、土留の用途としてSX45を埋め戻す時点で設置されたものと考えられる。

SX45 (第69図)

④区に位置し、詳細は不明であるが深さ30cmを測る。



第69図 S2区 SX30～46 造構図 (1/80)

S X 46 (第69・83図)

③区に位置し、詳細は不明である。深さ30cmを測る。石積みを有するが、どのS Xに対応するかは不明である。

(4) 土坑

S K 3 2 (第70・83図)

①区東に位置する。平面形は楕円形で、長軸不明、短軸0.65m、深さ11cmを測る。

S K 3 3 (第70図)

①区南東に位置する。平面形は不整で土坑2基が複合したものか。長軸2.95m、短軸2.45m、深さ26cmを測る。

S K 3 4 (第70図)

①区南東に位置し、複合するS K 33・35を切る。平面形は隅丸方形で、長軸2.1m、短軸不明、深さ22cmを測る。

S K 3 5 (第70図)

①区南東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.65m、短軸2.4m、深さ13cmを測る。

S K 3 6 (第70・83図)

①区中央南に位置する。平面形は不整形で、長軸2.25m、短軸1.8m、深さ18cmを測る。

S K 3 7 (第70・84図)

①区北西に位置し、平面形は楕円形か。長軸2.3m、短軸不明、深さ18cmを測る。

S K 3 8 (第70・84図)

①区南西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.5m、短軸1.4m、深さ8cmを測る。

S K 3 9 (第70図)

①区南西に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.55m、推定短軸2.3m、深さ27cmを測る。

S K 4 0 (第70・84図)

②区北西に位置する。平面形は楕円形で、長軸不明、短軸0.7m、深さ17cmを測る。

S K 4 1 (第70図)

②区中央西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.7m、短軸1.67m、深さ10cmを測る。

S K 4 2 (第71・84図)

②区中央に位置し、平面形は楕円形か。複合するS X 28・SK 43・S B 41柱穴を切る。長軸2.8m、短軸不明、深さ15cmを測る。

S K 4 3 (第71図)

②区南東に位置し、複合するS B 39柱穴を切る。平面形は隅丸方形で、長軸2.2m、短軸1.68m、深さ12cmを測る。

S K 4 4 (第71図)

③区北東に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.75m、短軸1.7m、深さ7cmを測る。

S K 4 5 (第71図)

③区北東に位置する。平面形は略円形で、径2.0～2.05m、深さ40cmを測る。

S K 4 6 (第71図)

③区中央北に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸1.94m、短軸1.85m、深さ33cmを測る。

S K 4 7 (第71・85図)

③区中央に位置する。平面形は不整な隅丸方形で、長軸2.37m、短軸1.4m、深さ10cmを測る。

S K 4 8 (第71図)

③区中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.8m、短軸2.2m、深さ42cmを測る。

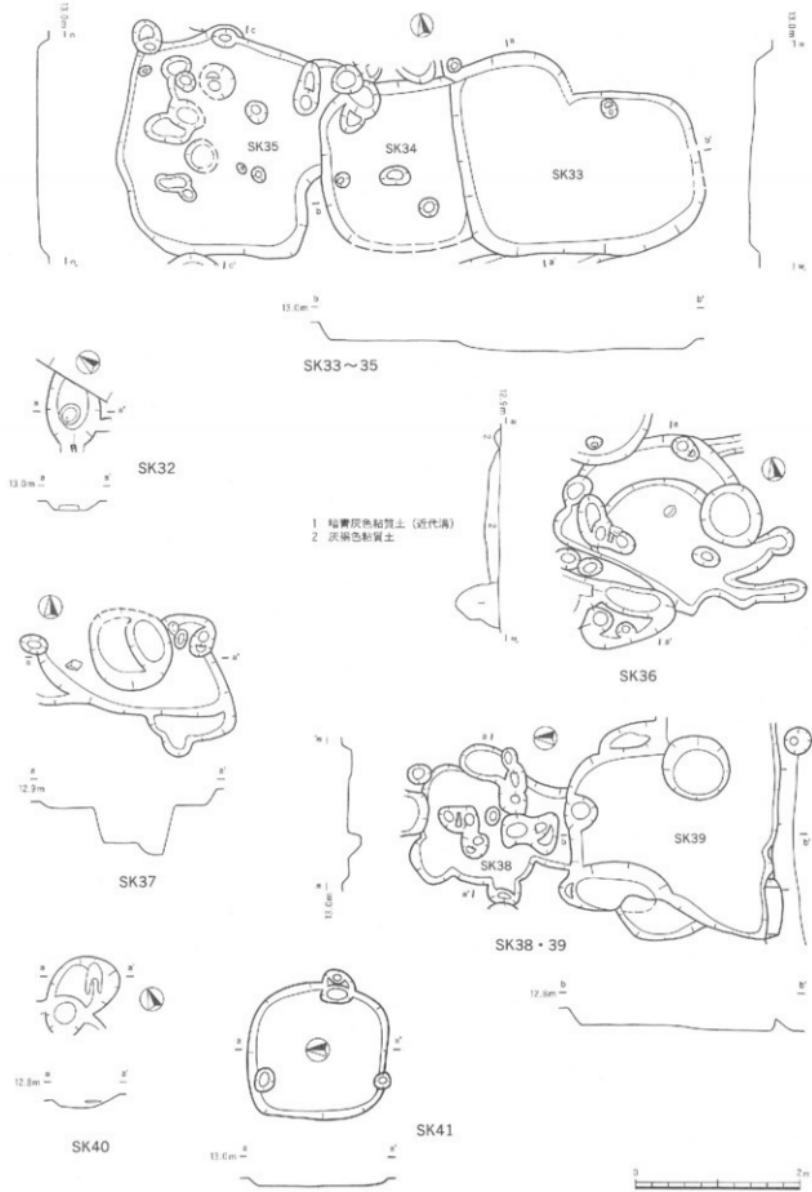
S K 4 9 (第71図)

③区西端に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸2.0m、短軸1.13m、深さ35cmを測る。複合するS X 43に附属するものか。

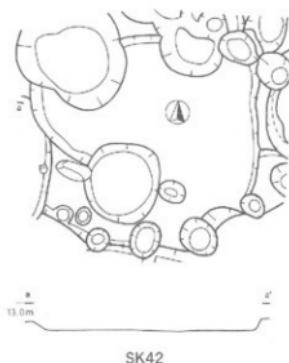
(5) 溝

S D 1 5 (第58・85図)

①区東端に位置する南北溝であるが近世以降の用水溝SD 27に切られ詳細は不明。



第70図 S2区 SK32~41 遺構図 (1/50)

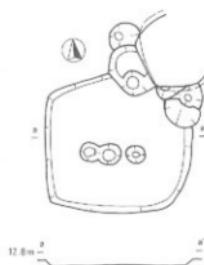


SK42

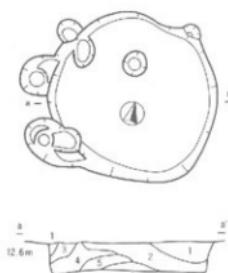


1 棕色粘質土混灰褐色粘質土
2 灰色粘質土混灰褐色粘質土
3 雄山混褐色粘質土

SK43



SK44

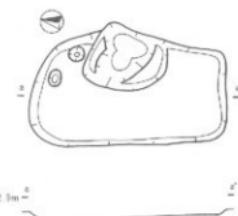


1 灰褐色粘質土
2 雄山多孔質土
3 雄山多孔褐色粘質土
4 褐色粘質土
5 雄山透植物粘質土(プロック状)
6 暗黃灰褐色粘質土

SK45



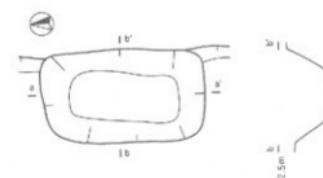
SK46



SK47



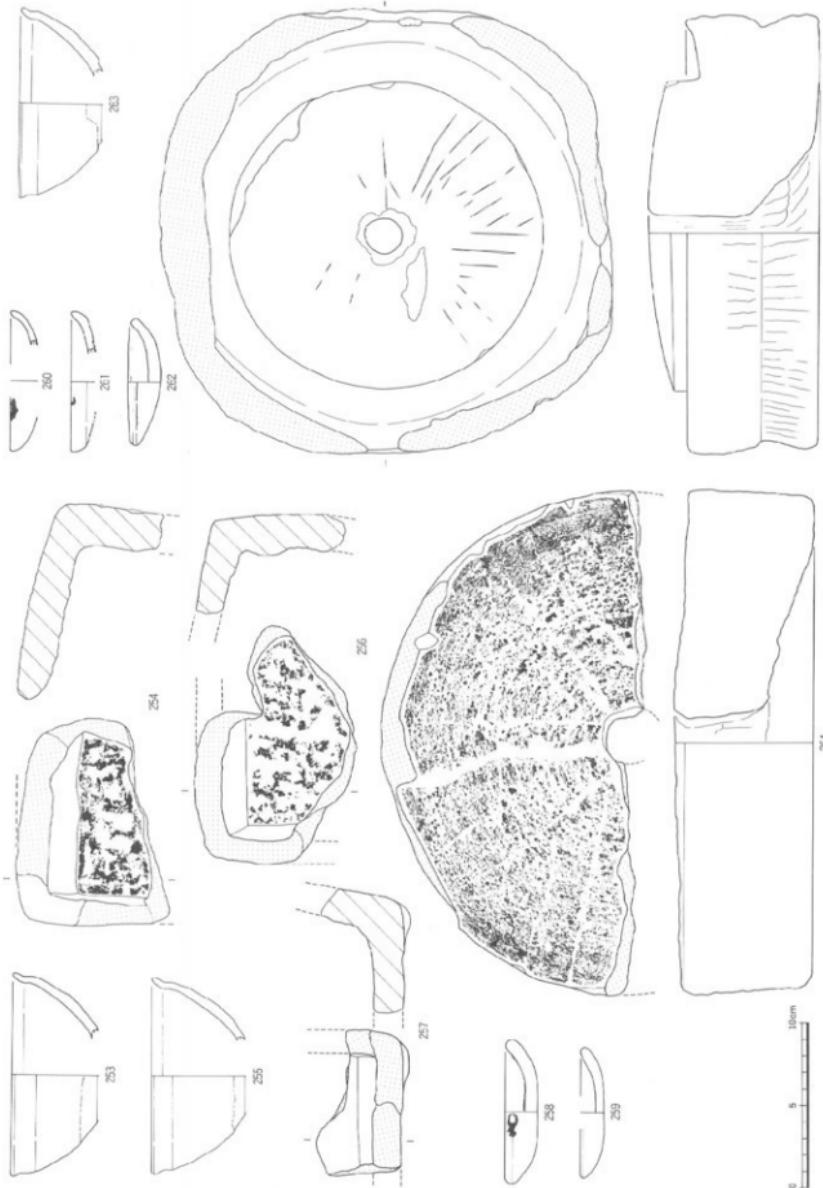
第71図 S2区 SK42~49 遺構図 (1/60)

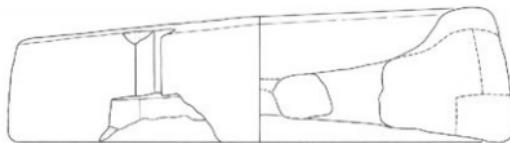
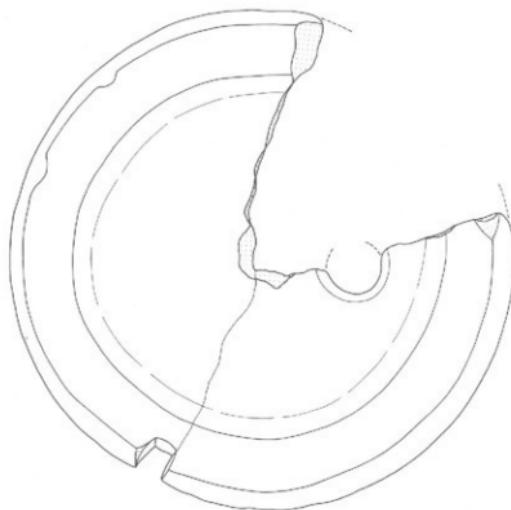


SK49



第72図 SB28-P6(253)・SB34-P6(254)・SB39-P3(255)・SB41-P2(256・257)・SB47-P10(258・259)・SE27(260～265) 出土遺物 (1/3)

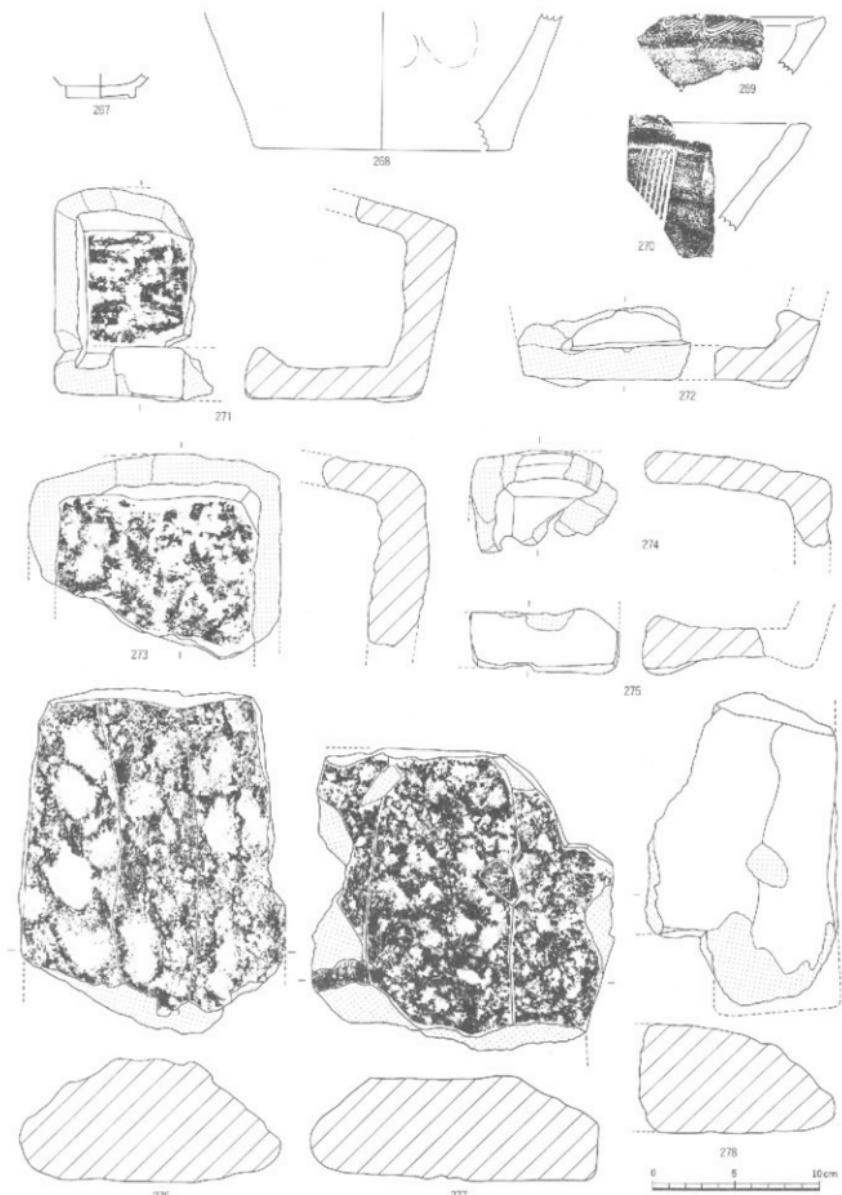




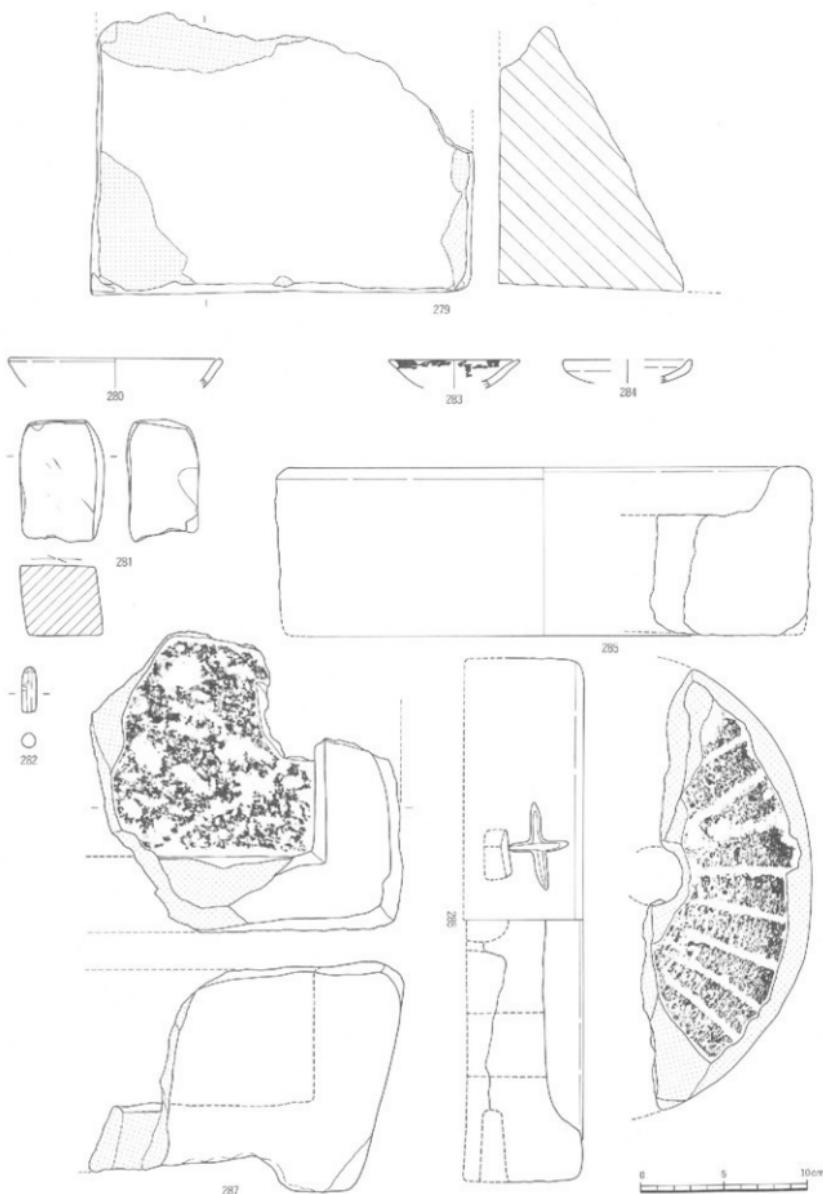
266

0 5 10 cm

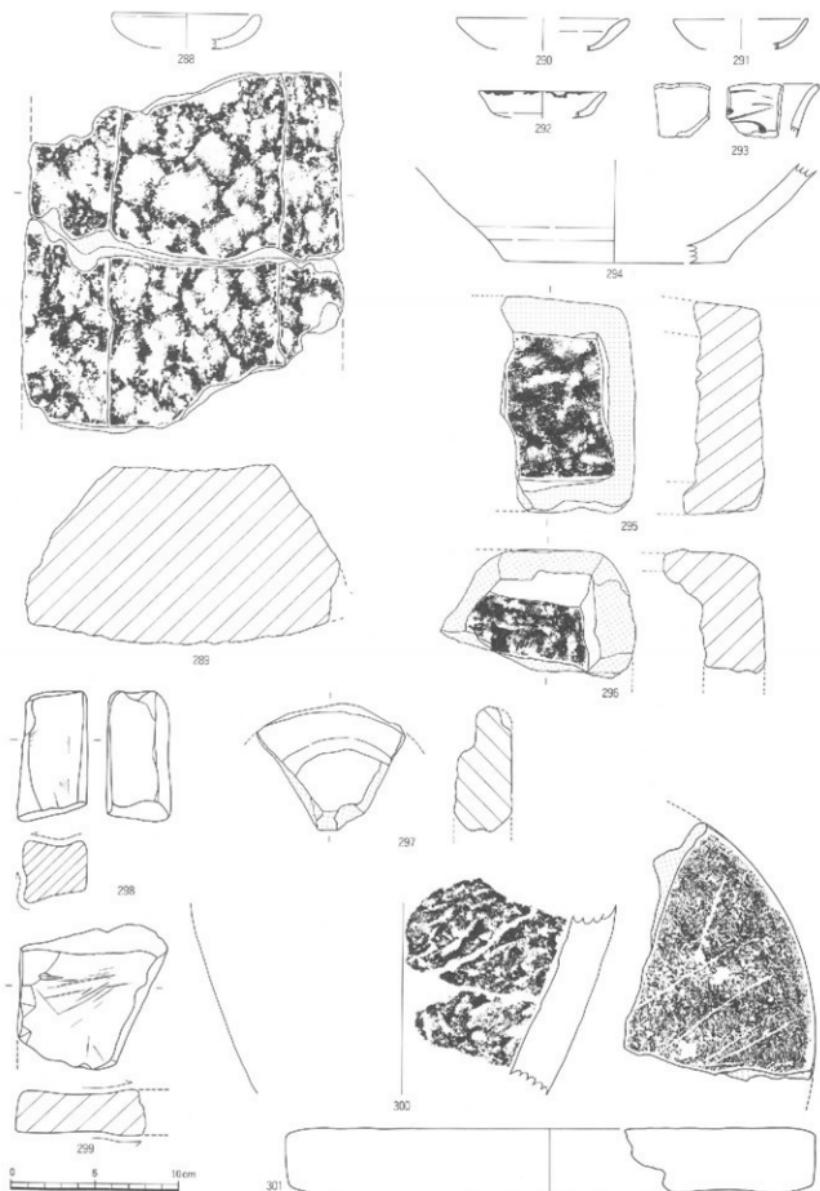
第73図 SE27 出土遺物 (1/3)



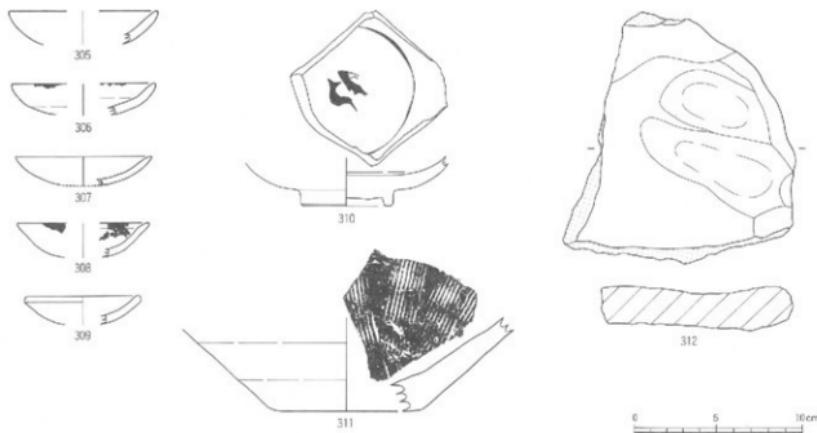
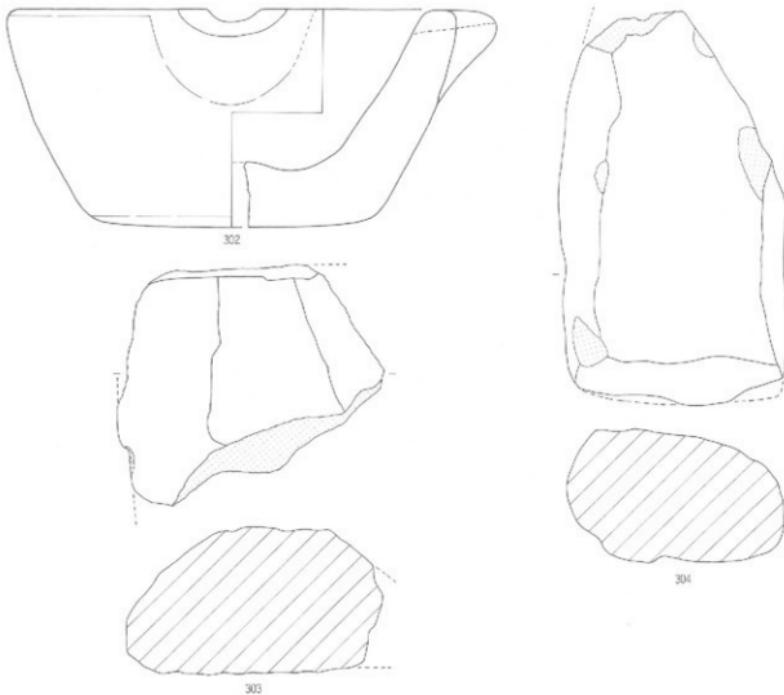
第74図 SE28 出土遺物 (1/3)



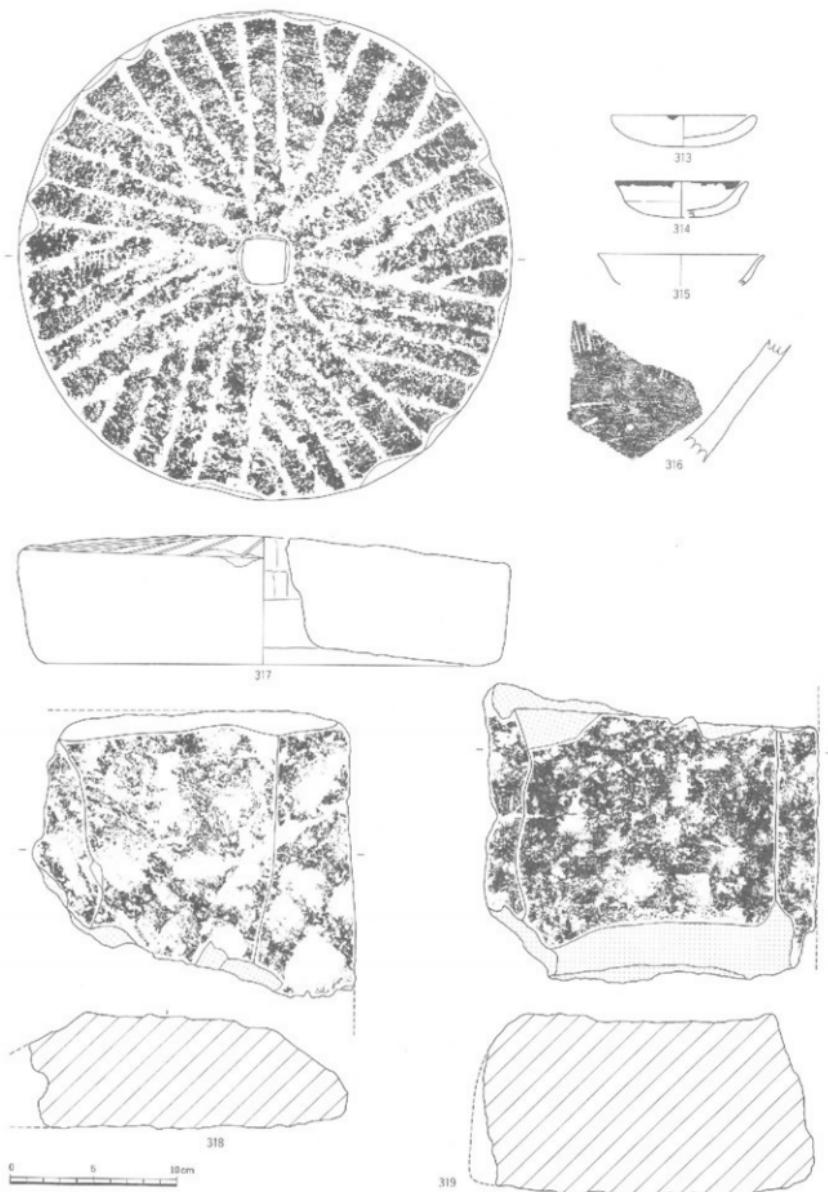
第75図 SE28(279)・SE29(280～282)・SE30(283・284)・SE31(285～287) 出土遺物 (1/3)



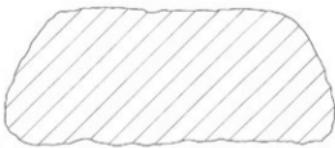
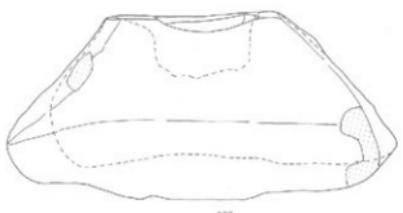
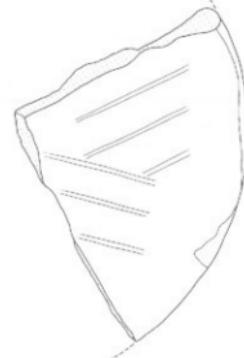
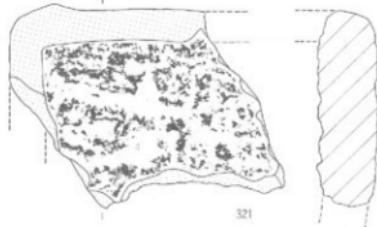
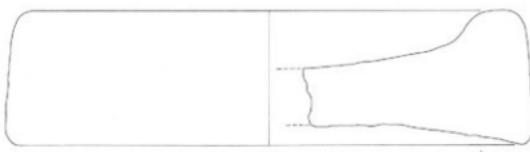
第76図 SE32(288~289)・SE33(290~301) 出土遺物 (1/3)



第77図 SE33(302~304)・SE34(305~312) 出土遺物 (1/3)

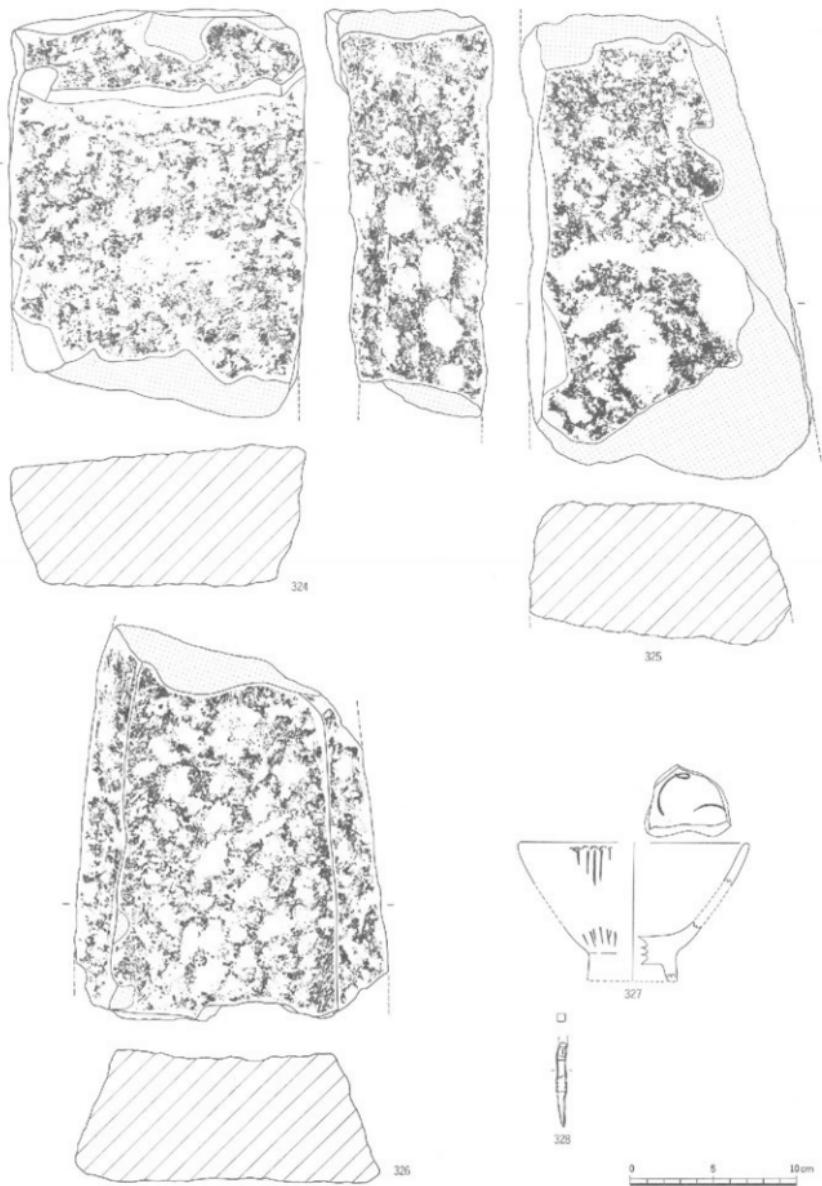


第78図 SE35(313~318)・SE36(319) 出土遺物 (1/3)

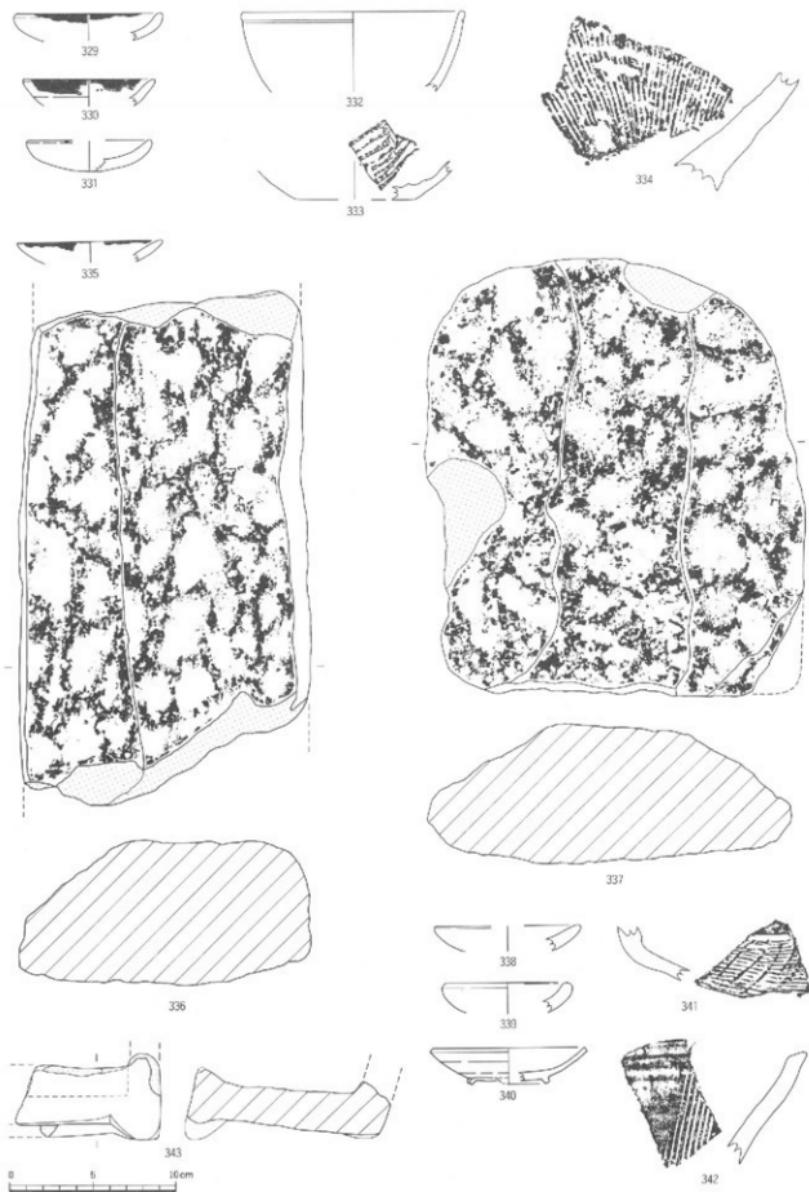


0 5 10cm

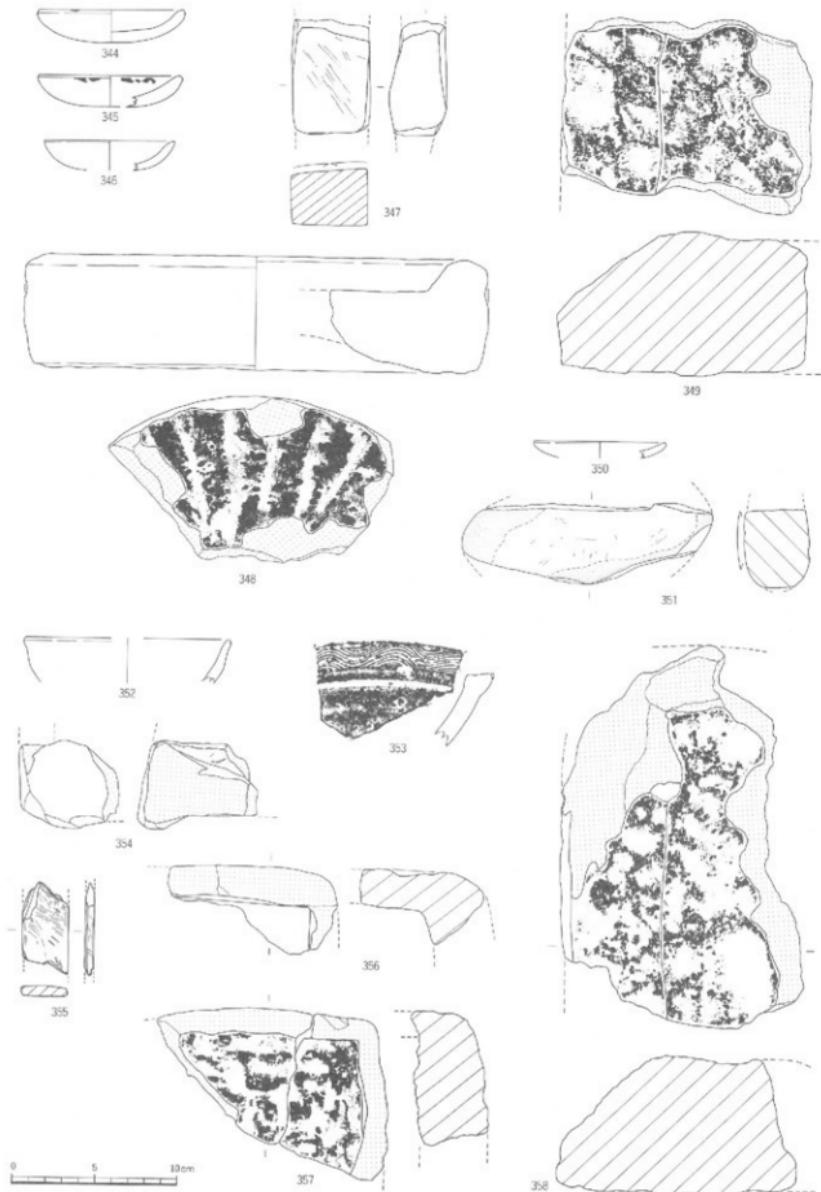
第79図 SE39(320)・SE40(321~323) 出土遺物 (1/3)



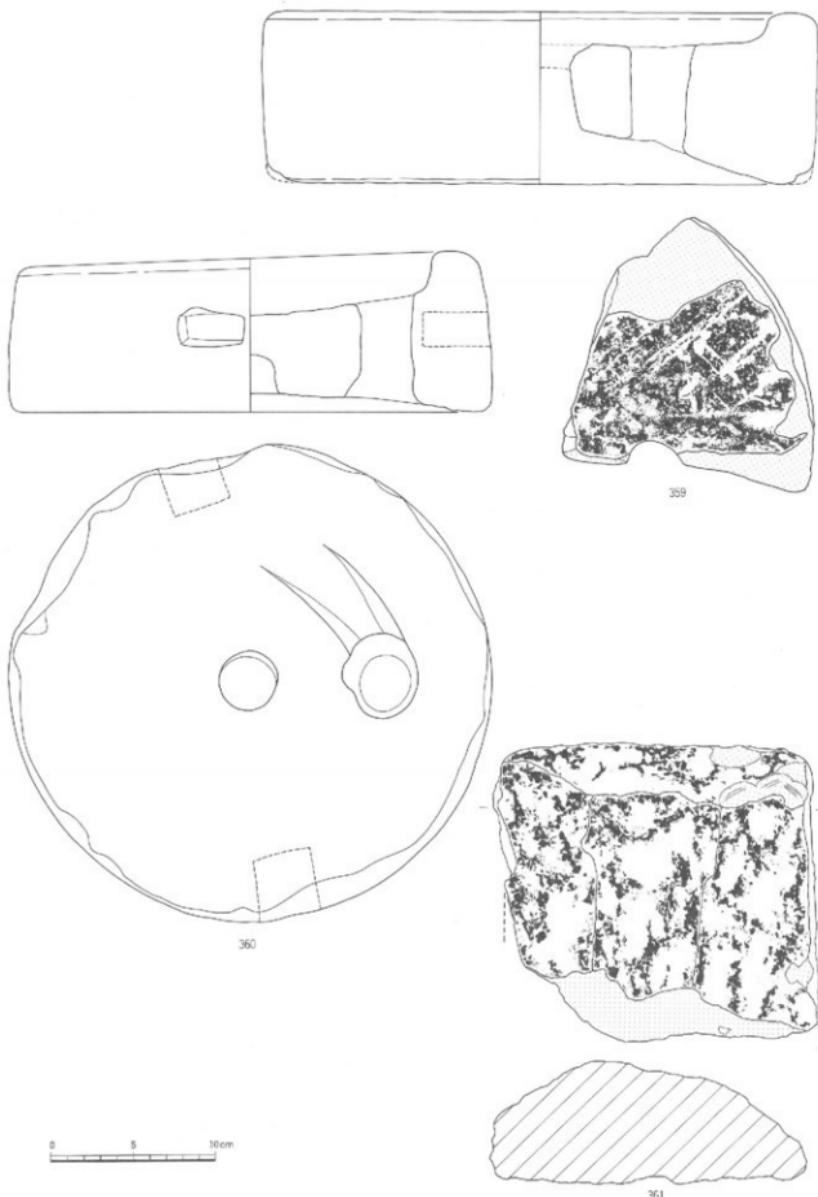
第80図 SE40(324~326)・SX27(327~328) 出土遺物 (1/3)



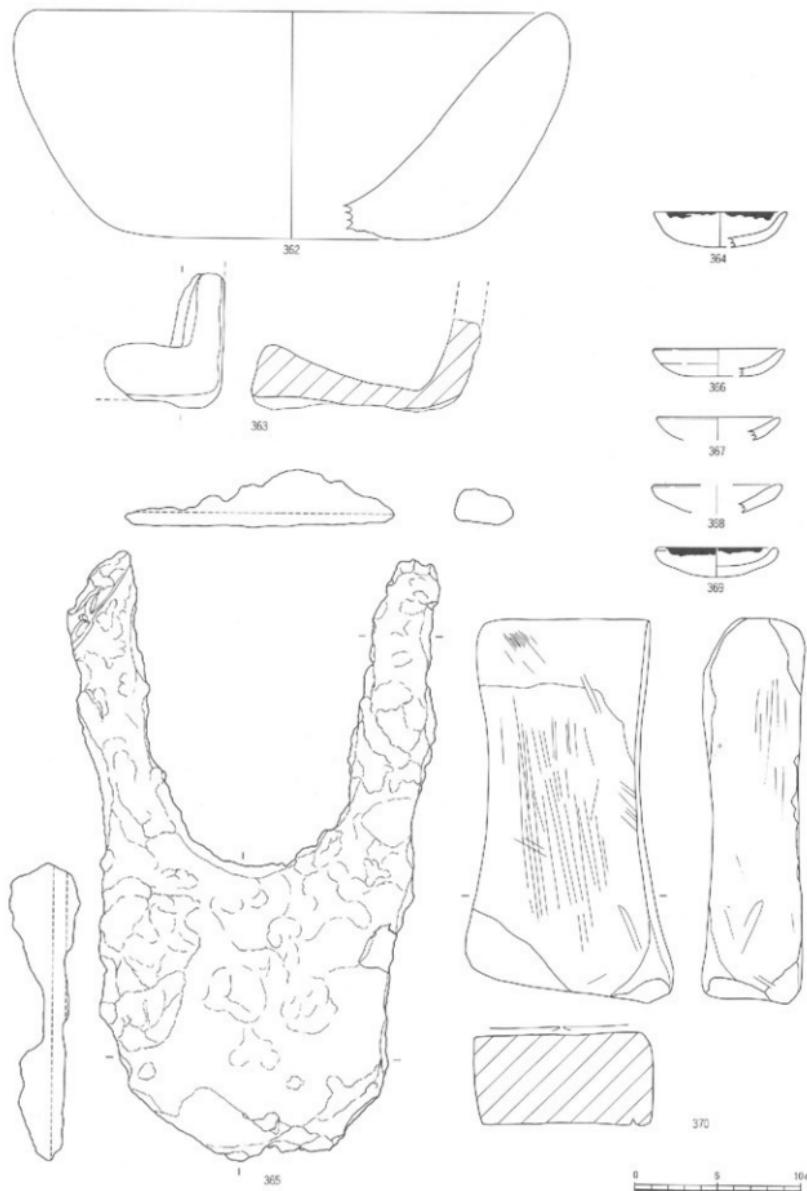
第81図 SX28(329~334)・SX29(335~337)・SX33(338~342)・SX34(343) 出土遺物 (1/3)



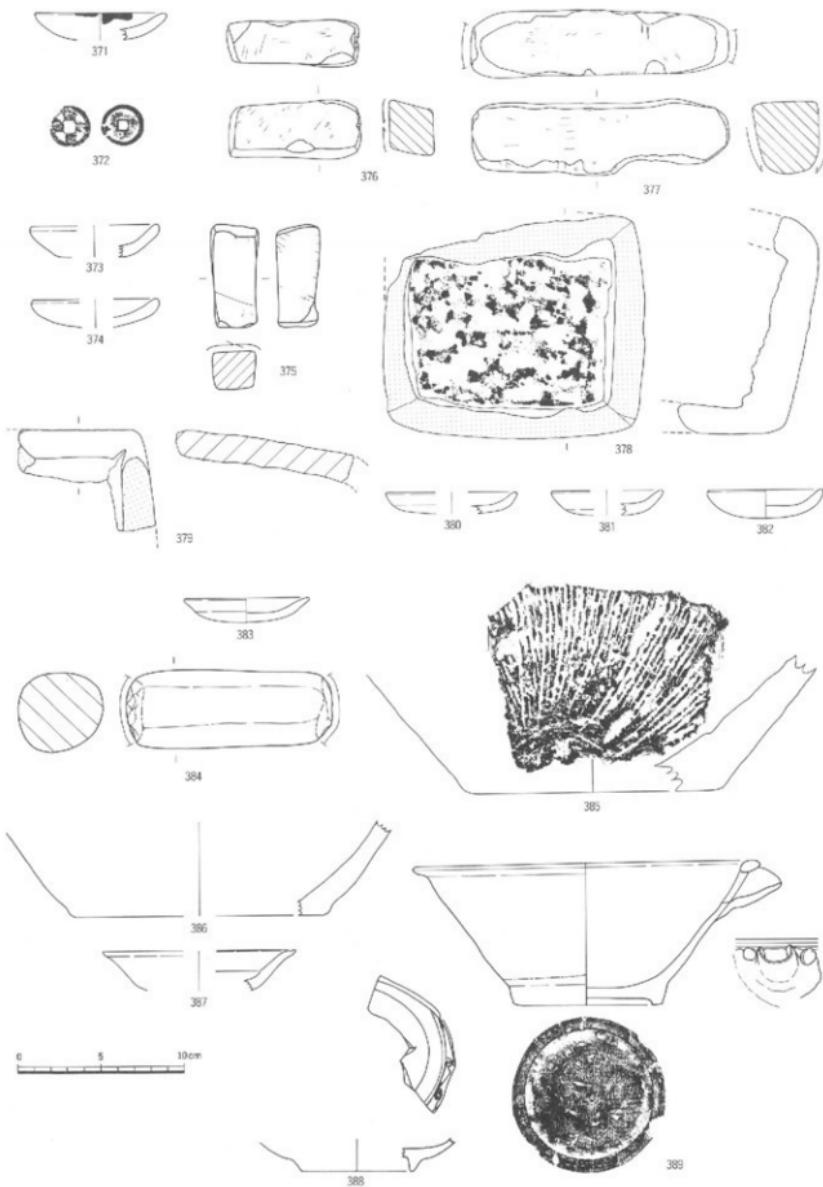
第82図 SX36(344~349)・SX43(350・351)・SX44(352~358) 出土遺物 (1/3)



第83圖 SX46(359)・SK32(360)・SK36(361) 出土遺物 (1/3)



第34図 SX37(362・363)・SK38(364)・SK40(365)・SK42(366～370) 出土遺物 (1/3)



第85図 SK 47(371・372)・SD 15(373～375)・SP 03(376)・SP 04(377・378)・
SP 05(379)・SP 06(380)・SP 07(381)・SP 08(382)・SP 09(383・384)・SP 11(385)・
SK 57(386・387)・SD 29(388・389) 出土遺物 (1/3)・(372・1/2)



第86図 集落区-S3区 (1/200)

6 S 3 区 (第86図)

集落区南端に位置する。掘立柱建物群SB48～51群、SX47～51群、SE41～48、SD16～19などで構成される。南側に掘立柱建物、北西側に竪穴状遺構と井戸が配置されている。小区は設定していない。

(1) 掘立柱建物

SB48 (第87図)

中央に位置し、東西2間と3間の柱列を二列確認した。東西棟と考えられるが北西隅の柱穴は無く、この柱列間は北側への張出部分かまたはSE46を意識したものであろうか。主軸は(N87°W)である。北側の2間柱列P1～P3間の柱間寸法は3.4m、3.6mの計7.0m、南側の3間柱列P5～P8間は3.9m、3.4m、3.9mの計11.2mとなる。南北のP1～P5間3.9m、P3～P7間は4.0mである。柱穴は略円形で径38～70cm、深さ44～80cmを測る。

SB49 (第87・92図)

南端に位置する。東西4間の柱列を一列確認した。主軸は(N90°W)である。柱列P1～P5間の柱間寸法は2.9m、3.5m、2.8m、3.4mの計12.6m。柱穴は略円形で径35～55cm、深さ58～80cmを測る。

SB50 (第88・92図)

南端に位置する。東西3間の柱列を一列確認した。主軸は(N89°W)である。柱列P1～P4間の柱間寸法は2.8m、2.8m、2.9mの計8.5m。柱穴は略円形で径35～50cm、深さ46～52cmを測る。

SB51 (第88・92図)

南端に位置する。東西3間の柱列を一列確認した。主軸は(N85°W)である。柱列P1～P4間の柱間寸法は2.8m、2.8m、2.1mの計7.7m。柱穴は略円形で径50～80cm、深さ64～74cmを測る。

(2) 井戸

SE41 (第89・92図)

北端中央に位置する。平面形は略円形で径1.45～1.6m、底面径0.9m、深さ1.93m、底面標高10.75mを測る。

SE42 (第89図)

北端中央に位置する。平面形は略円形で径0.7m～0.84m、底面径0.64m、深さ1.52m、底面標高11.07mを測る。

SE43 (第89・93図)

北端中央に位置する。検出後壁面の崩壊により詳細は不明。実測図は崩壊後のものである。深さ2.1m、底面標高10.56mを測る。

SE44 (第89・93図)

北端中央に位置する。平面形は略円形で、内部に段を有する。径2.6～2.8m、底面径1.1～1.15m、深さ1.98m、底面標高10.68mを測る。

SE45 (第89図)

中央に位置する。平面形は略円形で径1.1～1.2m、底面径0.9m、深さ1.37m、底面標高11.23mを測る。

SE46 (第89・93・94図)

中央に位置する。平面形は略円形で径1.7～1.75m、底面径1.5m、深さ1.90m、底面標高10.91mを測る。

SE47 (第89・94図)

南西に位置する。平面形は略円形で径1.85～1.9m。内部に段を有し、底面径0.8～1.0m、深さ2.3m、底面標高10.30mを測る。

SE48 (第89・95図)

北西に位置する。平面形は略円形で径1.36～1.7m、底面径0.75～0.8m、深さ2.72m、底面標高10.11mを測る。

(3) 竪穴状遺構

SX47 (第90・95図)

北西に位置する。SX48～51と複合し、このSX47が最も新しい時期であるが詳細は不明。推定短軸3.1m、深さ30cmを測る。SX49と同規模か。

SX48 (第90・96図)

北西に位置し、SX49を切るが詳細は不明。深さ28cmを測る。SX49と同規模か。

SX49 (第90・96図)

北西に位置する。一段低くなる部分をSX49と判断した。平面形は椭円形で、長軸3.8m、短軸2.7m、面積約10m²、深さ34cmを測る。

SX50 (第90図)

北西に位置するが詳細は不明。深さ30cmを測る。SX49と同規模か。

SX51 (第90図)

北西に位置するが詳細は不明。深さ26cmを測る。SX49と同規模か。

(4) 土坑

SK50 (第91・96図)

中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸1.25m、短軸1.06m、深さ35cmを測る。

SK51 (第91・96図)

南端中央に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸不明、短軸1.86m、深さ17cmを測る。

(5) 溝

SD16 (第86図)

掘立柱建物群の北面と東面を鍵状に囲む溝である。この北面部分をSD16a、東面部分をSD16bとした。北面部は長さ12.5m、幅0.7～1.0m、深さ20～45cmを測る。東面部は幅0.6～0.65m、深さは屈折部が40cm、浅い部分は20cmである。

SD17 (第86・96図)

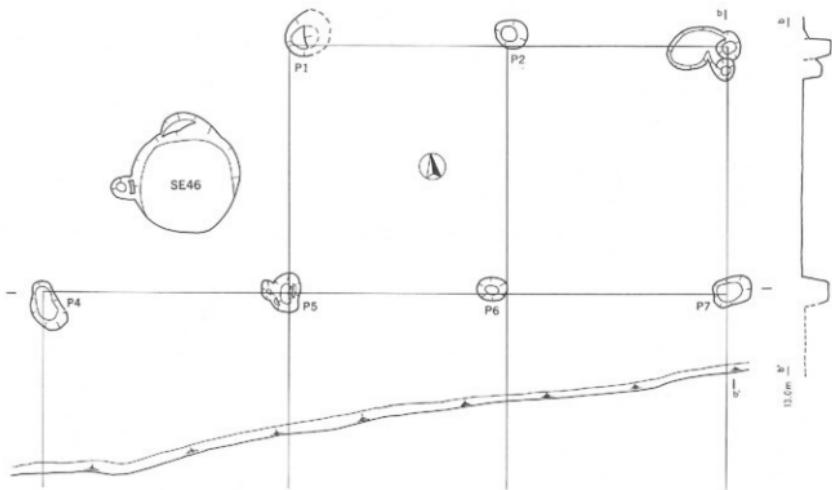
SD16bの西側に位置する南北溝である。幅1.6～1.9m、深さ67～70cmを測る。

SD18 (第86・96図)

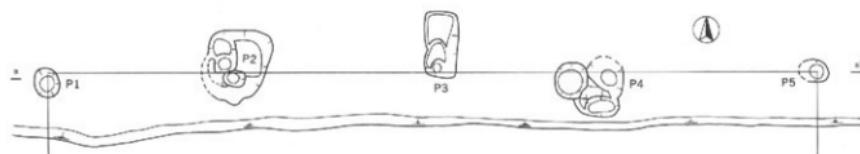
南西に位置する南北溝である。幅20cm、深さ5～8cmを測る。

SD19 (第86・96図)

西端に位置する南北溝である。幅不明、深さ20～34cmを測る。



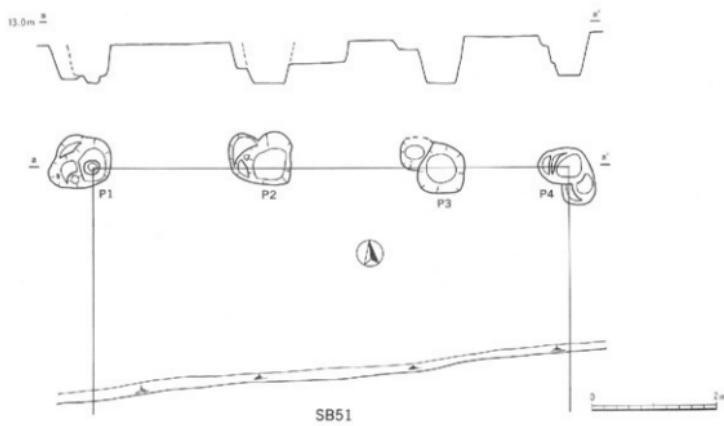
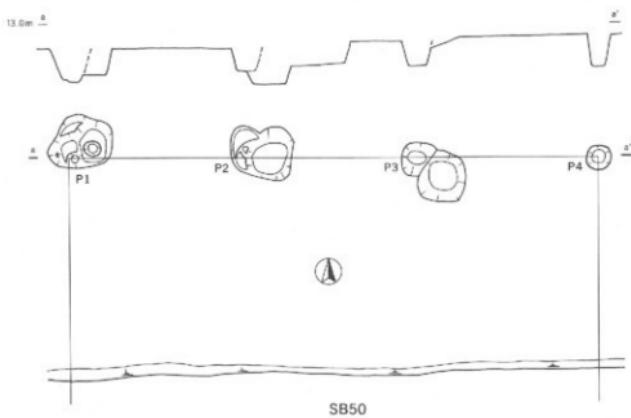
SB48



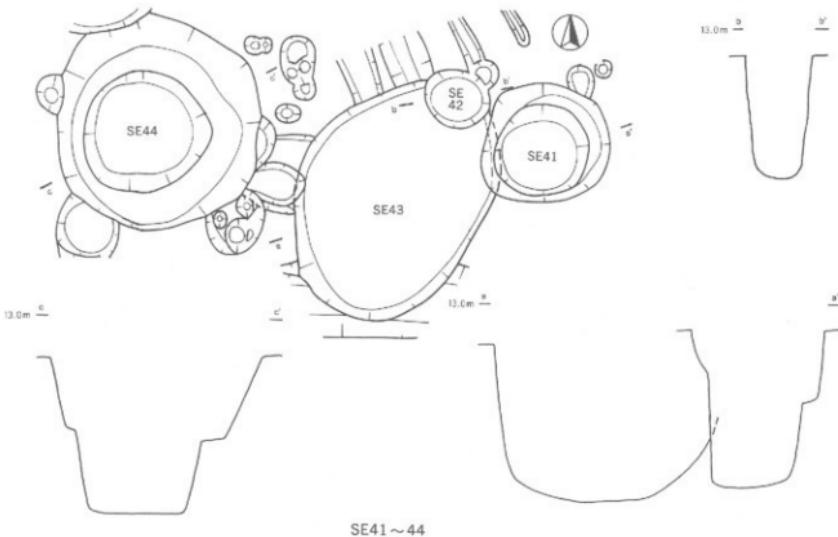
SB49

0 2m

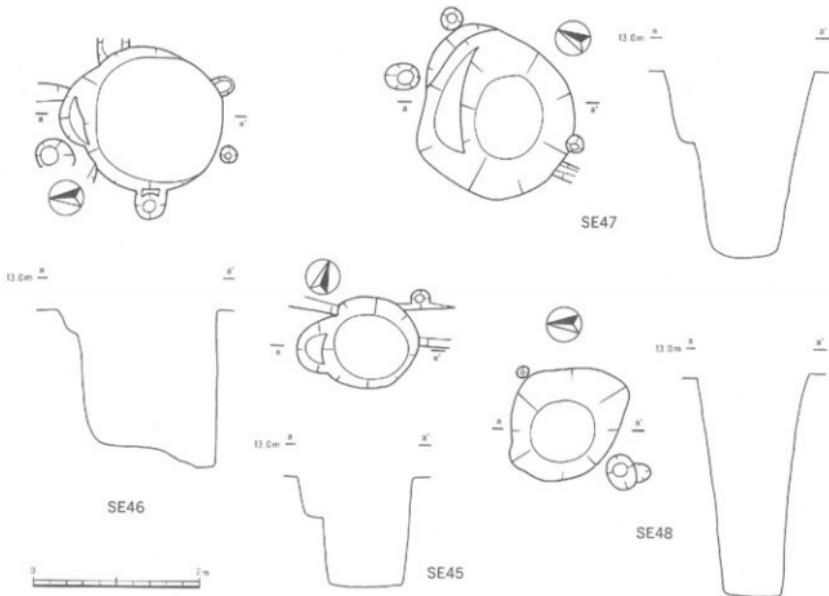
第87図 S3区 SB48・49 遺構図 (1/80)



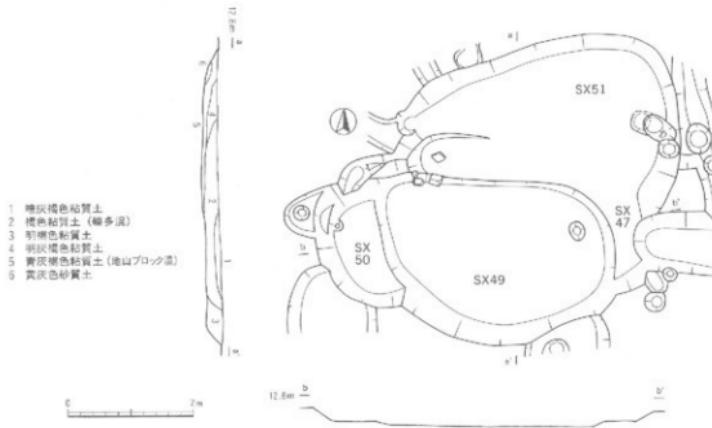
第88図 S3区 SB50・51 遺構図 (1/80)



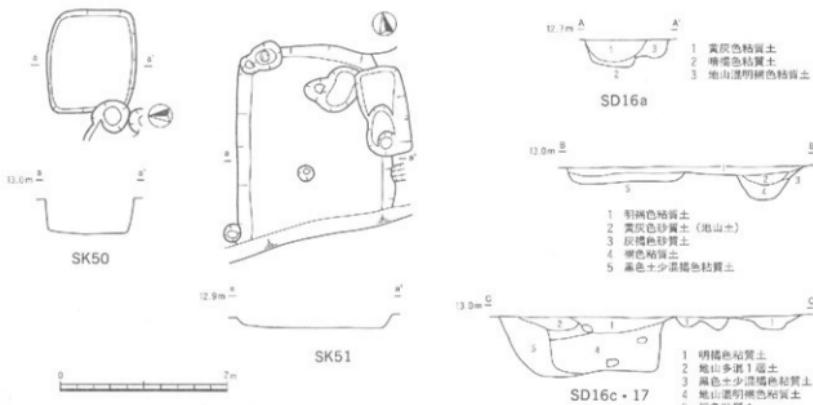
SE41~44



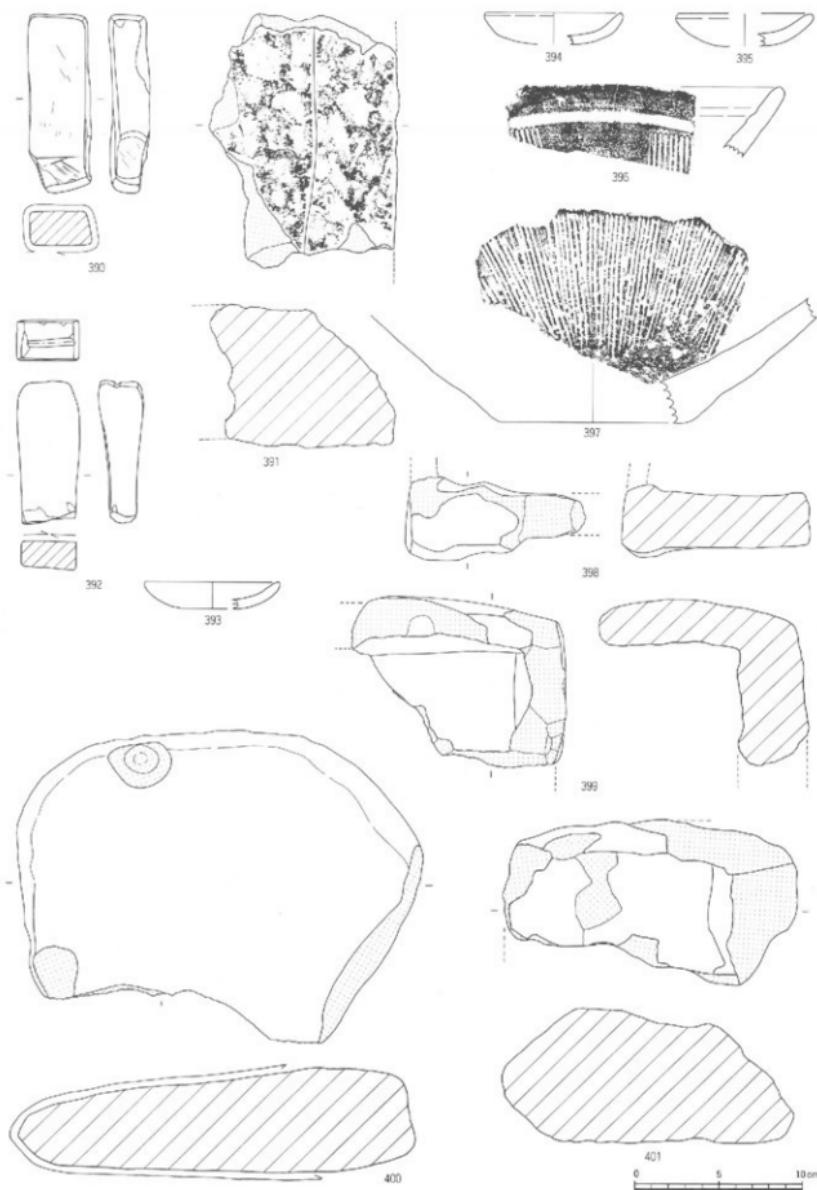
第89図 S3区 SE41~48 遺構図 (1/60)



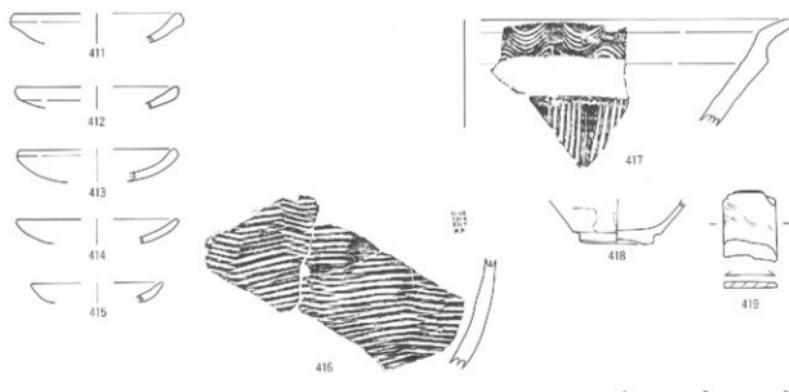
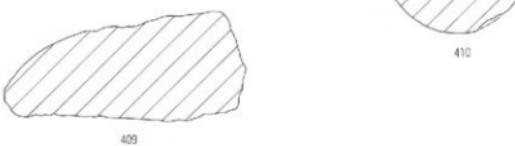
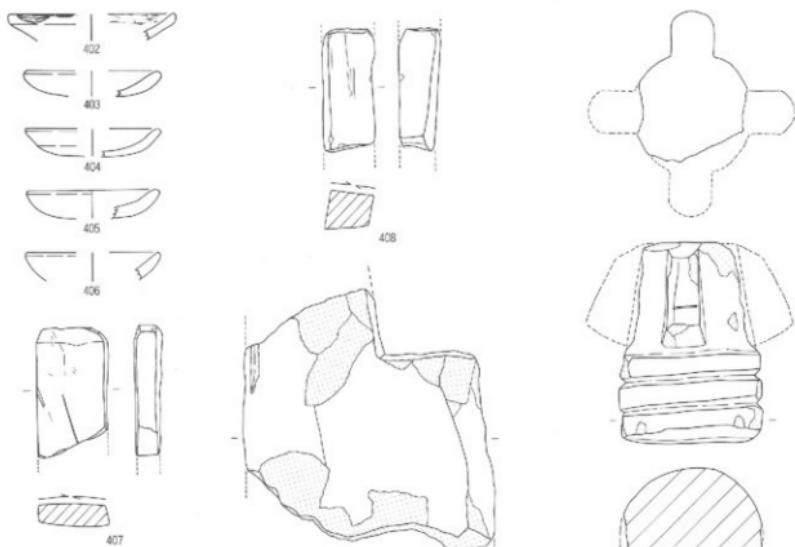
第90図 S3区 SX47～51 透構図 (1/80)



第91図 S3区 SK50・51 透構図・SD16・17 断面図 (1/80)



第92図 SB49-P2(390・391)・SB50-P1(392)・SB51-P1(393)・SE41(394～401) 出土遺物 (1/3)

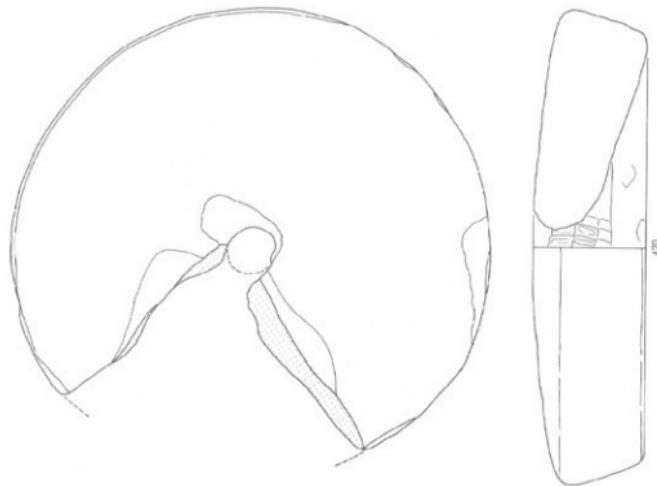
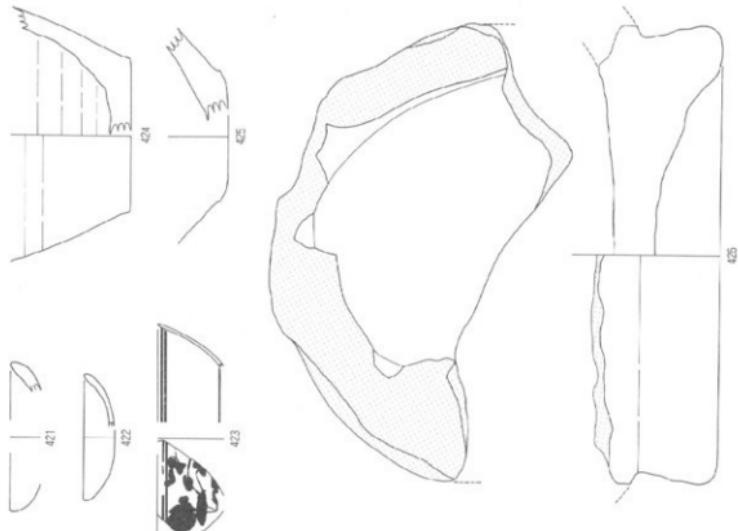


0 5 10 cm

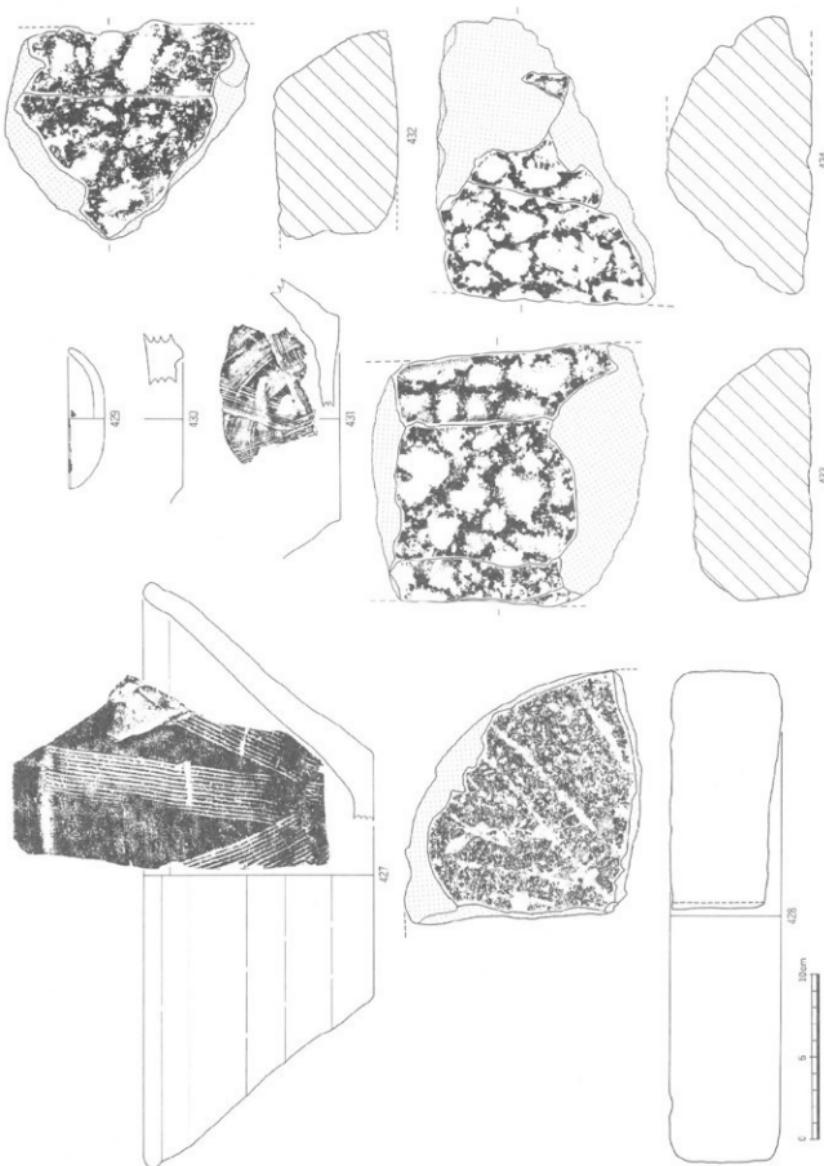
第93図 SE43(402~410)・SE44(411~416)・SE46(417~419) 出土遺物 (1/3)

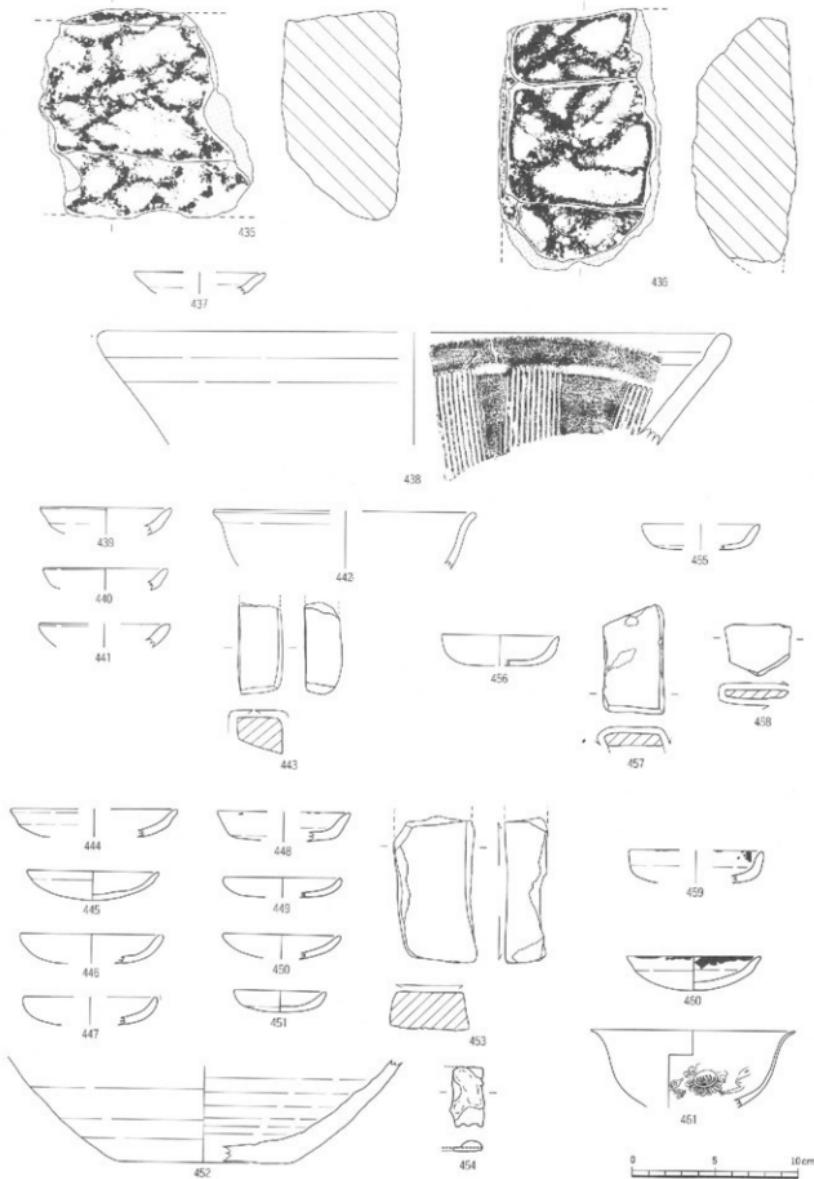


第94図 SE46(420)・SE47(421)～426) 出土遺物 (1/3)



第95図 SE48(427-428)・SX47(429-434) 出土遺物 (1/3)





第96図 SX47(435・436)・SX49(437)・SK50(438)・SK51(439～443)・SD17(444～454)・
SD18(455)・SD19(456～458)・SP12(459)・落ち込み(460・461) 出土遺物 (1/3)

7 耕作区（第5図）

東調査区にあたる。東西溝SD08と東西道SS01により南北に分かれる。北部西には掘立柱建物群SB52・53、SE49が位置する。南部西にはSX52～56群、この東には耕作溝群が位置する。また全体が南北溝SD20・21・23～26により区画されている。

(1) 掘立柱建物

SB52（第97図）

北部西に位置し、SB53と複合する。梁行2間4.8m、桁行2間6.8m、床面積約33m²、主軸（N1°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.4m、3.4m、東側桁行P6～P8間3.0m、4.1mである。北側梁行P1～P4～P6間は1.6m、3.0m、南側梁行P3～P5～P8間は1.8m、3.0mである。柱穴は略円形と隅丸方形が見られる。一辺及び径は38～72cm、深さは、P5が14cmと浅いが他は46～75cmを測る。

SB49（第97図）

北部西に位置する。梁行1間3.5m、桁行2間5.6m、床面積約20m²、主軸（N1°E）を測る南北棟の側柱建物である。西側桁行P1～P3間の柱間寸法は3.7m、1.8m、東側桁行P4～P6間は3.8m、2.0mを測る。柱穴は略円形で径30～54cm、深さ44～60cmを測る。

(2) 檜列

SAO4（第97図）

SB52・53の西面と南面を囲む。南北列は大小の柱穴がいくつか並ぶが、距離と深さからP1～P5が該当するものとした。P1～P5間の柱間寸法は1.55m、1.8m、1.45m、3.75m、P5～P7間は4.25m、1.45mの計5.7mを測る。南北列の方位は（N1°E）、柱穴は略円形で径24～40cm、深さ25～58cmである。

SAO5（第97図）

SB53の東側桁行に近接し、P1～P5が南北に並ぶ檜列である。P1～P5間は2.7m、1.6m、1.4m、1.0mの計6.7mを測る。方位は（N4°E）である。柱穴は略円形で径17～33cm、深さ16～33cmである。

(3) 井戸

SE49（第97・101図）

北部西に位置する。平面形は略円形で径2.05～2.2m、内部に段を有し底面径0.8m、深さ1.41m、底面標高11.14mを測る。

(4) 竪穴状遺構

SX52（第98図）

南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.82m、短軸不明、深さ5cmと浅い。

SX53（第98図）

南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.44m、短軸不明、深さ10cmを測る。

SX54（第98図）

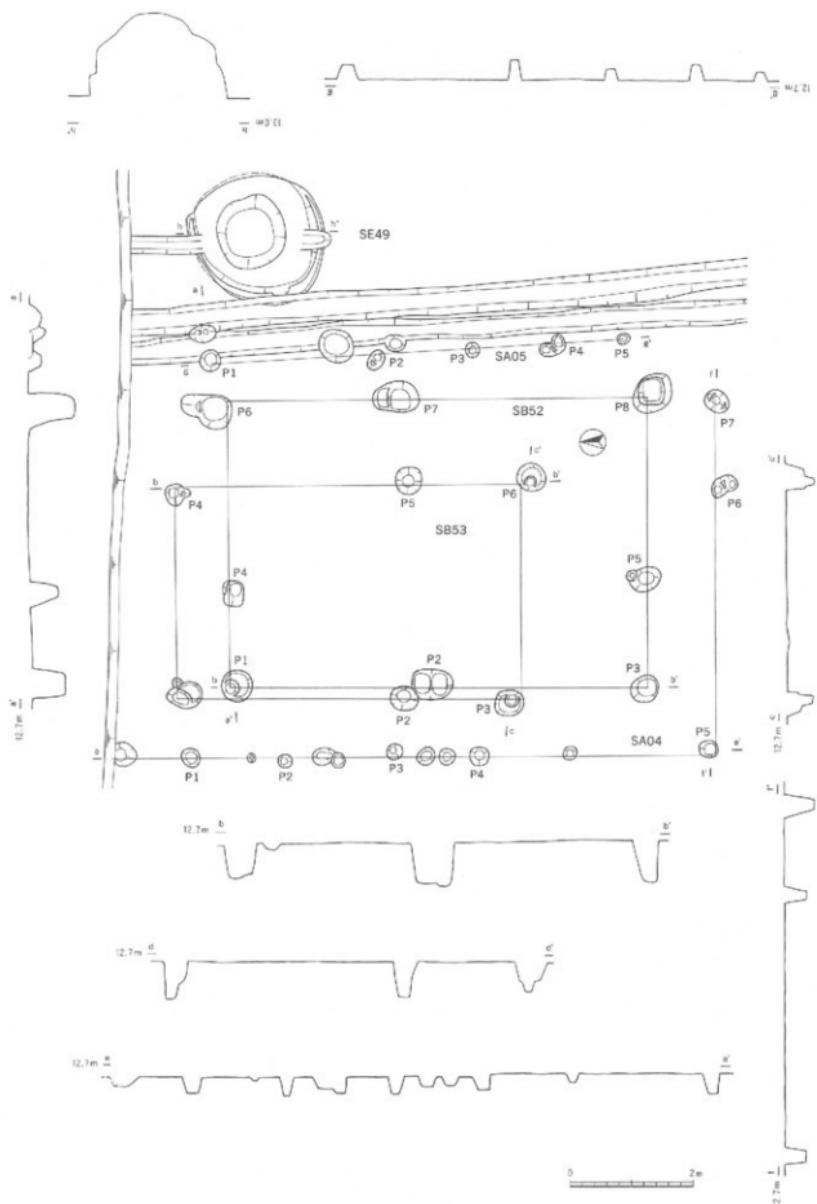
南部西に位置し複合するSX53・55を切る。平面形は隅丸方形で、長軸7.3m以上、短軸2.93m、深さ20cmを測る。

SX55（第98・101図）

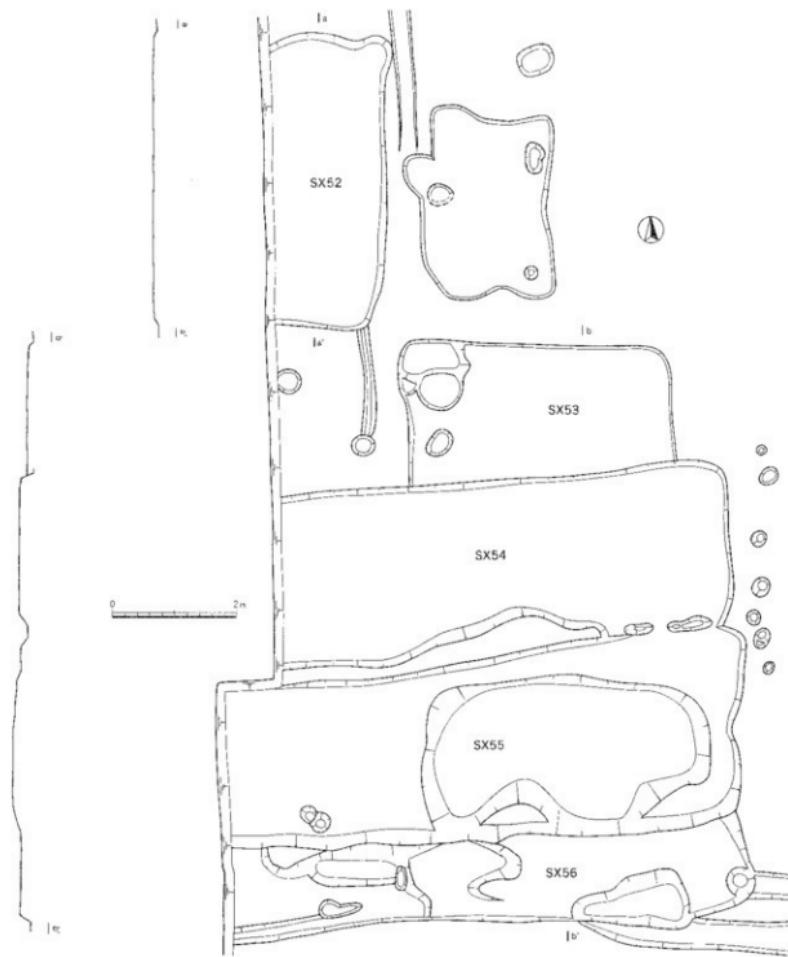
南部西に位置し、複合するSX56を切る。平面形は隅丸方形で、長軸8.4m以上、短軸3.14m、深さ20cmを測る。橢円状に一段部分の深さは32cmである。

SX56（第98図）

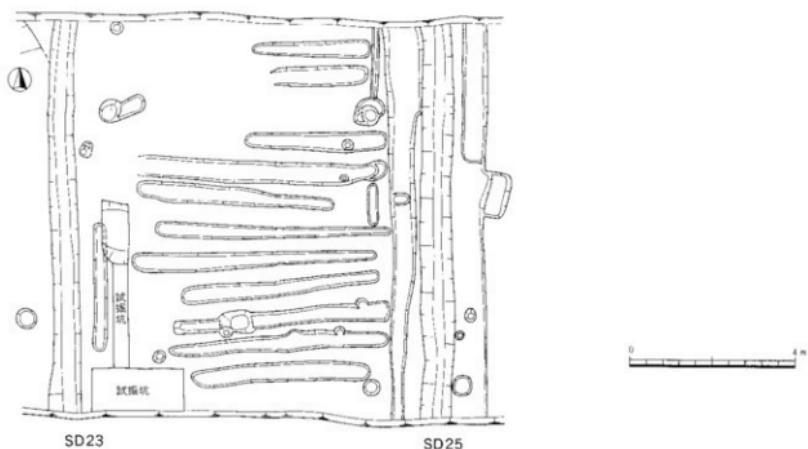
南部西に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸8.4m以上、短軸不明、深さ18cmを測る。



第97図 耕作区-N区 SB52・53・SA04・05・SE49 遺構図 (1/80)



第98図 耕作区南部 SX52~56 遺構図 (1/80)



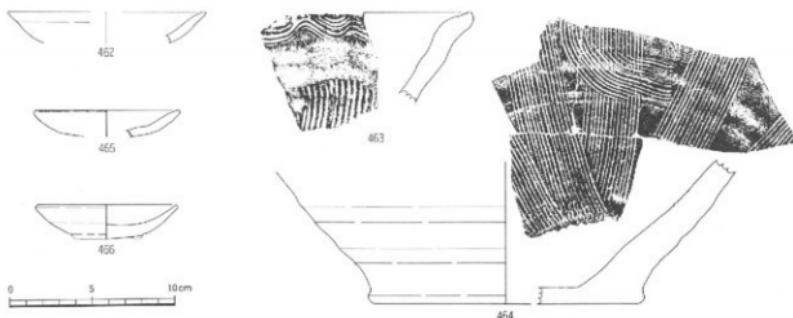
第99図 耕作区南部耕作溝 (1/120)



第100図 耕作区 SD断面図 (1/60)

(5) 耕作溝 (第99図)

南部東の南北溝SD23とSD25間の幅ほぼ8mの区画内で東西溝11条を検出した。溝は浅く不鮮明な部分もあるが、幅20~50cm、深さ2~9cmを測る。溝の間隔は広いもので1.1m、狭いものは10cmであるが、多くは30cm前後である。長さは短いものが2.4~4.1m、他は4.8~5.9mである。



第101図 SE49(462~464)・SX55(465)・SD25(466) 出土遺物 (1/3)

(6) 溝 (第5・100・101図)

耕作区の主要な区画溝には東西溝のSD08・22と南北溝のSD20・21・23~26がある。SD08・22はSS01を挟み、間隔1.0~2.2mで並行するが、SD22は調査区東端で南へ屈曲するものと考えられる。幅50~70cm、深さは18~46cmを測り、流方向は東である。

南北溝SD20・21・23~26と集落区のSD02・09はそれぞれ一定の間隔を保ち並行する。この間隔は、SD02~SD20間17m、SD09~SD21間16m、SD20~23間4.5~5m、SD21~23間7~8m、SD23~24間7~7.5m、SD23~25間7~9m、SD24~26間8m、SD25~26間6mを測る。この南北溝は遺存にもよるがほぼ同規模であり、幅40~70cm、深さ10~35cmである。

註

(1)福田アジオ 1982年「ムラの領域」『日本村落の民俗的構造』弘文堂

村落空間をムラ（集落=一定住地域）、ノラ（耕地=生産地）、ヤマ（林野=採集地）の三領域に区分され、各区域に對応する祭祀の存在から各領域が民衆の意識の次元で明確に區別されていたとしている。

(2)珠洲燒きについては吉岡編年の時期区分により記述した。

吉岡康暢 1994年『中世須恵器の研究』吉川引文館

出土遺物については垣内光次郎氏、藤田邦雄氏から多大な教示を得ている。

141	S E 2.3	葉白	南面廻 161 高さ102 裏さ 16.53kg	在地	下白	下白 粒状凝灰岩	192	S E 2.5	裏	底面 200 長さ(34) 幅(198)	縦前	
142	S E 2.3	石臼	径 326 高さ 130 重さ 13.00kg	木無山	上臼	火山凝灰岩	193	S E 2.5	五輪塔	高さ157 幅143.7kg	地輪か	火山凝灰岩
143	S X 0.8	裏	口径(404)	船前			194	S E 2.6	十輪塔	口径(80) 高さ(15)	在地	
144	S X 0.8	右跡	平面方形 一辺 285 裏さ 191 重さ 3.73kg		内側縫付構 凝灰岩		195	S E 2.6	天井形磚	口径 80 高さ 20	在地	瀬戸、美濃
145	S X 0.8	唐脚	底径(175)	森洲	V字-四邊形15世紀後半		196	S X 2.1	十輪塔	口径 80 高さ 20	在地	15世紀中葉～後期か
146	S X 1.0	天山茶臼	口径 130	瀬戸、美濃	大聖院 15世紀末		197	S X 2.1	御輪	底面 154	縦前	
147	S X 1.4	藤右	長さ(328) 幅 223 高さ 90		輕右凝灰岩		198	S X 2.1	石臼	口径 320 重さ 910kg	縦前	凝灰岩
148	S X 1.4	行火			D字型・輕右凝灰岩		199	S X 2.3	上部器	口径 76 高さ 18	在地	地盤度・15世紀後半
149	S X 1.4	五輪塔	直径(40) 幅(125)		地輪・火山凝灰岩		200	S X 2.4	十輪塔	口径 80	在地	地盤度・15世紀後半～16世紀後半
150	S X 1.4	藤右	長さ(15) 幅 215 高さ 88		輕右凝灰岩		201	S X 2.4	上部器	口径 80 器高(17)	在地	15世紀後半～16世紀後半
151	S X 1.6	土師器	口径 72 高さ 17	在地			202	S X 2.4	十輪塔	口径 70 高さ 22	在地	15世紀後半～16世紀後半
152	S X 1.6	裡鉢	底径 150	森洲			203	S X 2.5	上部器	口径 80 高さ(18)	在地	15世紀後半～16世紀後半
153	S X 1.6	行火			D字型・輕右凝灰岩		204	S X 2.5	圓	口径 117 器高(28)	横前、美濃	地盤・16世紀後半
154	S X 1.6	五輪塔	口径(320) 高さ 139		内面磨耗・燒付縫 火山凝灰岩		205	S X 2.5	狹か	口径 3(94) 高さ 15	縦前	
155	S X 1.6	右跡	口径(320) 高さ 139				206	S X 2.6	鏡	口径(400)	縦前	15世紀中葉
156	S X 1.6	右跡	口径(163) 幅 185 高さ 68		D字型・輕右凝灰岩		207	S X 2.6	行火		縦前	
157	S X 1.6	藤右			D字型・輕右凝灰岩		208	S K 2.7	土師器	口径 82 高さ 22	在地	地盤度・15世紀後半～中葉
158	S X 1.6	狹筒			内面磨耗・燒付縫 火山凝灰岩		209	S K 2.7	裡鉢	底径 100	縦前	
159	S X 1.6	右跡	口径(330) 高さ 123 重さ 4.65kg	木無山か 上口			210	S K 2.7	裡鉢	口径(420)	縦前	
160	S K 0.8	土師器	口径 76 高さ 16	在地			211	S K 2.8	裏	口径 124	縦前	
161	S K 1.1	行火	幅(130) 高さ 123				212	S K 2.9	天井形磚	口径(156)	横戸、美濃	15世紀の手
162	S K 1.3	裡鉢	口径(370)	船前			213	S D 10a	上部器	口径 70 高さ 14	在地	15世紀後半～16世紀後半
163	S K 1.3	十輪塔	口径(90)	在地			214	S D 10a	十輪塔	口径 60 高さ 14	在地	15世紀後半～16世紀後半
164	S K 1.3	裡鉢	底径(140)	舟湖			215	S D 10a	前輪 直		中国	櫻花瓦
165	S K 2.6	太師頭	在地		14世紀後半		216	S D 10a	裡鉢	口径(420)	縦前	
166	S D 0.8	土師器	口径 72 高さ(22)				217	S D 11a	裏		縦前	15世紀後半
167	S D 0.7	白磁	口径(110)	中国	15世紀前半		218	S D 11	十輪塔	口径 90 高さ(19)	在地	地盤度・15世紀中葉～後葉
168	S D 0.8	土師器	口径(80) 高さ(21)				219	S D 11	上部器	口径 90 高さ(23)	在地	
169	S D 0.8	土師器	口径(96) 高さ(18)	在地			220	S D 11	土師器	口径 80 高さ(16)	在地	15世紀中葉～後葉
170	S D 0.8	土師器	口径(80) 高さ(17)	在地	15世紀後半～16世紀初頭		221	S D 11	青磁 磁	口径(130)	中国	15世紀初期
171	S D 0.8	土師器	口径(70) 高さ(15)	在地	14世紀後半		222	S D 11	青磁 磁	口径 60	中国	二次墳形・15世紀前半
172	S D 0.8a	土師器	口径(70) 高さ(20)	在地	14世紀後半		223	S D 11	天井形磚	口径(156)	横戸、失傳	
173	S D 0.8b	土師器	口径 72 高さ(20)	在地	15世紀前半か		224	S D 11	土壁	長さ 36 径(36)	縦前	
174	包含器	右臼	底径 135 高さ 110 重さ 12.4kg		上臼		225	S D 11	行火	幅 156 高さ(11)	縦前	輕右凝灰岩
175	S K 5.2	利和	口径 85 高さ(202)	九谷か			226	S D 11	行火道		縦前	輕右凝灰岩
176	S K 5.2	鏡	高さ 50	肥前			227	S D 11	鉄針	長さ 51 斜面刃厚 5	縦前	
177	S K 5.2	皿	口径(209) 高さ(55) 器高(47)	肥前	染付磁・蝶の形 17世紀末～18世紀前半		228	S D 11	行火	幅 212 高さ 152 奥行(91) 重さ 197kg	縦前	輕右凝灰岩
178	S K 5.2	裏					229	S D 13	上部器	口径 82 器高 22	在地	15世紀後葉～16世紀後半
179	S K 5.3	皿	高さ 50	肥前			230	S E 2.4	刷	口径 113 器高 51	横戸・失傳	染付磁・明治期
180	S K 5.4	皿	口径 127 高さ(47)	肥前	染付磁・蛇の形 17世紀末～18世紀前半		231	S E 2.4	鏡	口径 109 器高 48	横戸・失傳	染付磁・明治期
181	S K 5.4	菱形模	器高 39	肥前			232	S E 2.4	裡鉢	底径 124	縦前	
182	S K 5.4	裡鉢	底径 140	肥前	染付磁		233	S E 2.4	裡鉢	底径(170)	縦前	
183	S K 5.5	土師器	口径 80 高さ 16	在地	見込磁		234	S K 5.6	圓	口径 158 器高 70	肥前	染付磁
184	S K 5.5	皿	口径 109 高さ(36)	肥前	染付磁・蛇の形 17世紀末～18世紀前半		235	S K 5.6	圓形 磁	口径 79 高さ 71	肥前	輪廊染付
185	S K 5.5	皿	口径(220)	肥前			236	S D 27a	圓	口径 94 径 66	肥前	18世紀末～19世紀初頭
			器高 34				237	S D 27a	鏡	口径 84 器高 43	瀬戸、美濃	染付磁
			器高 34				238	S D 27a	蓋	口径(126)	肥前	16世紀
			器高 34				239	S D 27a	腹	高さ 55	肥前	絞付陶・17世紀前半
			器高 34				240	S D 27a	腹	口径 231 高さ 35	肥前	染付磁
			器高 34				241	S D 27a	腹	高さ 131		19世紀
			器高 34				242	S D 27	腹	高さ 130 器高 37	肥前	染付磁・蛇の形削鉢 17世紀末～18世紀前半
			器高 34				243	S D 27a	汽生土瓶	口径 84 器高 75		書「祭橋」
			器高 34				244	S D 27a	土人形	高さ57 幅54 厚さ47		女性座像
			器高 34				245	S D 27a	土師灰陶	高さ54 幅54 厚さ47		
			器高 34				246	S D 27a	土人形	高さ53 幅53 厚さ37		天狗
			器高 34				247	S D 27b	右跡	口径(274)		糸井
			器高 34				248	S D 27b	中輪塔	直径150 高さ63.20		輕右凝灰岩
			器高 34				249	S D 27b	東洋水道	径 25 重さ 3.6kg		
			器高 34				250	S D 27b	東洋水道	径 24 重さ 2.46kg		

251	SD 2 8a	剪	II種 74 磁高 41	瀬戸・美濃 高台地 31	柴田畠 19世紀後半		306	S E 3 4	土師器	口径 86 高さ(20)	在地	椎葉坂 - 15世紀中葉 - 後葉
252	SD 2 8a	水瓶	口径 60 高さ 28	京焼小 長さ 60 高さ 28	陶製		307	S E 3 4	上部器	口径 82 高さ(18)	在地	15世紀中葉 - 鉄器
							308	S E 3 4	土師器	口径 80 高さ(21)	在地	鶴保坂 - 15世紀後半 - 16世紀前半
							309	S E 3 4	上部器	口径 69 高さ(17)	在地	15世紀後葉 - 16世紀前半
							310	S E 3 4	青磁 磁	高さ 56	中国	見立 双魚文鉢 15世紀前半
							311	S V 3 4	腹鉢	底径 90	在地	椎葉坂
							312	S E 3 4	円盤状	径 60	在地	吉備
												越前堺底部
												火熱痕 硝付着
							313	S E 3 5	土師器	口径 86 高さ 19	在地	鶴保坂 - 15世紀中葉 - 後葉
							314	S E 3 5	上部器	口径 79 高さ 22	在地	鶴保坂 - 15世紀前葉 - 中葉
							315	S E 3 5	皿	口径 100	瀬戸	美濃 端反皿 - 鉄器 - 15世紀初
							316	S N 3 5	鉢		病床	
							317	S E 3 5	石臼	径 299 高さ 72	永無山か	下臼・火山礫凝灰岩
												9.64kg
							318	S E 3 5	鍊石	長さ(176) 幅 175		鶴石凝灰岩
												高さ 71 重さ 1.70kg
							319	S E 3 6	鍊石	長さ(183) 幅(216)		鶴石凝灰岩
												高さ 112 重さ 3.77kg
							320	S E 3 9	石臼	径 320 高さ 82	水無山か	臼臼・火山礫凝灰岩
							321	S E 4 0	行火			鶴石凝灰岩
							322	S E 4 0	砾石	長さ 210 幅 236		火山礫凝灰岩
												(5輪輪)
							323	S E 4 0	鍊石	長さ(238) 幅 208		鶴石凝灰岩
												高さ 95 重さ 3.05kg
							324	S E 4 0	鍊石	長さ(240) 幅 178		鶴石凝灰岩
												高さ 102 重さ 3.05kg
							325	S E 4 0	鍊石	長さ(265) 幅 170		鶴石凝灰岩
												高さ 90 重さ 2.73kg
							326	S E 4 0	鍊石	長さ(242) 幅 190		鶴石凝灰岩
												高さ 91 重さ 2.73kg
							327	S X 2 7	青磁 磁	口径(140) 高さ(85)	中国	15世紀後半 - 16世紀初期
												有孔押(54)
							328	S X 2 7	鉢	長さ(51) 重さ 17g		
												断面方形 5.1×4.7
							329	S X 2 8	上部器	口径 90 高さ(18)	在地	椎葉坂 - 15世紀後葉 - 16世紀中期
							330	S X 2 8	土師器	口径 80 高さ(18)	在地	椎葉坂 - 15世紀後葉 - 16世紀中期
							331	S X 2 8	上部器	口径 75 高さ(19)	在地	15世紀後葉 - 16世紀前半
							332	S X 2 8	青磁 磁	口径 124	中国	15世紀前半
							333	S X 2 8	鉢	底径(73)		瀬戸・美濃 15世紀の壺 - 中葉
							334	S X 2 8	鍊鉢		珠洲	
							335	S X 2 9	土師器	口径 88	在地	油瓶
							336	S X 2 9	砾石	長さ(315) 幅 177		鶴石凝灰岩
												高さ 89 重さ 3.63kg
							337	S X 2 9	砾石	長さ(266) 幅 220		鶴石凝灰岩
												高さ 85 重さ 3.78kg
							338	S X 3 3	上部器	口径(90) 高さ(16)	在地	15世紀中葉 - 後葉
							339	S X 3 3	壺	口径 80	在地	油瓶
							340	S X 3 3	白磁 磁	口径 96 高さ(22)	中国	高台付込み 15世紀小葉 - 後葉
												有孔押(54)
							341	S X 3 3	壺		珠洲	
							342	S X 3 3	鍊鉢			珠洲
							343	S X 3 4	行火	美形 118		鶴石凝灰岩
							344	S X 3 6	土師器	口径 90 高さ 20	在地	油瓶 - 15世紀後葉 - 16世紀中期
							345	S X 3 6	土師器	口径 88 高さ 19	在地	油瓶 - 15世紀後葉 - 16世紀中期
							346	S X 3 6	上部器	口径 80 高さ(18)	在地	
							347	S X 3 6	中底砾石	長さ(70) 幅 47		凝灰岩
												高さ 35 重さ 164g
							348	S X 3 6	石臼	口径(26) 高さ 70		臼臼・火山礫凝灰岩
							349	S X 3 6	砾石	長さ(118) 幅(152)		鶴石凝灰岩
												高さ 88
							350	S X 4 3	土師器	口径 80 高さ(11)	在地	15世紀中葉 - 後葉か
							351	S X 4 3	中底砾石	口径 151 高さ 40		凝灰岩
							352	S X 4 4	土師器	口径(127)	瀬戸・美濃	
							353	S X 4 4	鍊鉢			珠洲
												V壠前半
												14世紀後葉 - 15世紀初頭
							354	S X 4 4	行火			鶴石凝灰岩
							355	S X 4 4	住上鉢	高さ(56) 幅(28) 厚さ(8)	京都家 肥前	
							356	S X 4 4	行火			鶴石凝灰岩
							357	S X 4 4	行火	(104)		鶴石凝灰岩
							358	S X 4 4	砾石	長さ(233) 高さ 84		鶴石凝灰岩
							359	S X 4 6	石臼	口径(333) 高さ 105		臼臼・火山礫凝灰岩

第4章 まとめ

第1節 出土陶磁器類の組成

長池キタノハン遺跡の中世期に使用されたと考えられる製品の破片数量により他の遺跡との対比を見てみたい。遺物は13世紀～16世紀代の時間幅を持つが中世前期の遺物はごく少数であり、14世紀後半以降の中世後期に主体がある。本遺跡出土の陶磁器の組成は、在地製品である土師質土器が67.1%と最も多く、以下珠洲焼10.2%、越前焼8.5%、中国製品6.7%、瀬戸・美濃焼3.7%、加賀焼3.3%、信楽焼0.4%である。珠洲・越前・加賀焼の合計は22%となる。

まず近隣の同時期と考えられる遺跡の組成を下表に提示する。

普正寺遺跡 ⁽¹⁾	(犀川河口の港湾集落・14世紀中葉～15世紀中葉)
土師質土器	70%、珠洲・越前焼等23.6%、中国製品2.9%、瀬戸・美濃焼3.2%、加賀焼1.0%、瓦質土器0.3%
白山町遺跡 ⁽²⁾	(門前町的な基幹集落・14世紀後葉～16世紀)
土師質土器	77.5%、珠洲焼5.1%、越前焼5.4%、中国製品4.6%、瀬戸・美濃焼5.8%、加賀焼1.0%、瓦質土器0.4%
木越光琳寺遺跡 ⁽³⁾	(河北潟線北部の集落・14世紀～16世紀)
土師質土器	57.3%、珠洲・越前焼等29%、中国製品6.5%、瀬戸・美濃焼6%、瓦質土器1.1%、朝鮮製品0.1%
小川新遺跡 ⁽⁴⁾	(扇状地端部の集落・15世紀後葉～16世紀後葉)
土師質土器	34.3%、珠洲・越前焼等49.8%、輸入製品11.9%、瀬戸・美濃焼3.6%、瓦質土器0.4%、朝鮮製品0.1%

本遺跡の出土陶磁器組成比はやや特異な小川新遺跡を除く後期集落がほぼ共通してもう組成に類似するものである。上師質土器・珠洲・越前・加賀焼・瀬戸・美濃焼の比率は普正寺遺跡に近似し、朝鮮製品の出土は確認されていないが中国製品の比率は木越光琳寺遺跡とは同率となる。溝理用具の鉢における比率は普正寺遺跡が珠洲焼85.7%・越前焼9.9%、木越光琳寺遺跡は珠洲焼66.5%・越前焼31.8%である。本遺跡の珠洲焼58%・越前焼39%は後者に近い。こうしてみると両遺跡の中間的様相を示すようであるが、珠洲焼生産の衰退を印象づける鉢の組成比⁽⁵⁾から全体的には木越光琳寺遺跡に接近し、16世紀前半まで存続する一般農村遺跡の状況を反映したものと言えそうである。

製 品		点数	製 品		点数	
青 磁	碗	21	珠 洲 烧	铁袖	1	
	皿	9		天目茶碗	25	
	鉢	1		計	48	
	盤	1		要	29	
	計	32		壺	41	
白 磁	碗	1		擂鉢	58	
	皿	6		その他	4	
	杯	3		計	132	
	その他	1		越 前 烧	要	
	計	10		壺	62	
青 白 磁	壺	1		擂鉢	8	
	染 付	碗		その他	1	
	天 日 茶 碗	1		計	110	
中国製品合計			加 賀 烧	要	39	
国	87			擂鉢	2	
	瀬戸・美濃焼			その他	2	
	灰釉			計	43	
	丸碗	2		信 楽 烧	壺	
	盤	3		瓦 質 土 器	不明	
産	綠釉	皿		土 師 質 土 器	皿	
		1			869	
	鐵袖	皿		国産製品合計	1,208	
		8		総 計	1,295	

	壺 (%)	壺 (%)	擂鉢 (%)
珠洲焼	22.3	76.0	58.0
越前焼	47.7	14.8	39.0
加賀焼	30.0	0	2.0
信楽焼	0	9.2	0

附表 壺・壺・鉢の比率

表3 中世後期出土陶磁器破片数量表

第2節 土師質土器の分類

すべてが皿である土師質土器は各遺構から少量が出土する状況であるが、代表的なものを抽出・分類し所屬時期について藤田分類・編年^(a)や他の遺跡からの出土例と比較し検討したい。藤田氏は12世紀～16世紀前半にかけての加賀国出土資料を対象に、調整手法と器形からA～Fのタイプに分類し、11世紀末葉～16世紀前半を組成・法量・形態・胎土・色調等の変化からI～VI期に分け編年を提示されている。

I類 (51・52・53) 外反する口縁部にヨコナデを施し、体部下半に稜をもち、底部は平底になる。口径は106～110mm、器高20～24mmである。器形が全体にゆがむ52・53はEタイプ、51はAタイプと考えられ、野々市町末松遺跡A6埋納ビット^(b)、金沢市普正寺遺跡^(c)地山面出土土器に類例が求められる。IV-I期・14世紀後葉～末に位置づけられ、本遺跡では最も古い段階の土師器皿である。

II類 口縁部にヨコナデを施し、体部下半に稜をもち、底部が平底ぎみのものをA類 (31・169)、体部中央あたりに稜をもち底部は丸底となり、外反し立ち上がる口縁やナデの幅の狭いものをB類 (103・116・208・314・364・460)とした。法量はA・B類とも口径79～82mm、器高21～22mmと極めて齊一化している。Aタイプに含まれ、B類は器形、法量とも普正寺遺跡遺跡中・上層面出土土器に類似性をもつことから、IV-II期・15世紀前葉～中葉に位置づけられよう。A類は平底でやや古相と考えられることから14世紀末～15世紀初頭頃に比定しておきたい。本遺跡でのI類とII類の共伴事例はみられない。

III類 口縁部にヨコナデを施すが、ナデは弱く体部中央あたりには僅かの稜を確認できる。Aタイプに含まれ、底部から口縁部への屈曲が強く平底になるものをA類 (199・448・455) とし、屈曲が弱く丸底となるものをB類 (35・94・306) とするが、完形品は無く推定法量はA類が口径76～80mm、器高16～18mm、B類は口径80～90mm、器高19～21mmとなり違いがみられる。平底のA類はI類・II-A類の時期に比定しておきたい。B類は丸底でIV類と同様なヘルメット形の形態をもちII-B類の後出的な様相を示す。小松市銭畠遺跡7号溝^(d)・高堂遺跡6号溝^(e)に類例がみられる。III類は15世紀中葉～後葉に位置づけておきたい。

IV類 丸底の底部から口縁部が内湾ぎみに立ち上がるヘルメット形の形態をもつ。口縁部に弱いナデを施すものも見られるが不鮮明なものが多い。体部に弱い指圧痕が残るものもみうけられる。器形はIII-B類と似るが継はみられない。Aタイプに含まれ、厚手のものA類 (167・258・288・429) は口径80～90mm、器高20～22mm、やや薄手の口縁が肥厚しながら立ち上がるB類 (83・202) は口径70～82mm、器高21～22mmである。本遺跡ではV類と共に伴する事例が多い。A類は鶴来町白山町遺跡^(f)・小松市銭畠遺跡7号溝に類例がみられる。IV類は15世紀後葉～16世紀前半の位置づけをしたい。

V類 丸底の底部から口縁部が内湾ぎみに立ち上がるヘルメット形の形態をもつが、IV類より内湾は緩くなる。Aタイプに含まれ、口縁端部のナデと体部に指圧痕を残すものが頗著にみうけられる。底部から口縁部にかけて一様の器厚を保つA類 (188・213・229・262・331・344・369) は口径70～78mm、器高14～20mmの小ぶりなものと口径82～90mm、器高20～22mmのものがある。体部下半から肥厚する口縁部をもつB類 (82・160・403) の完形品はないが、口径76～80mm、器高16mmの小ぶりなものと口径118mm、器高20mmのものがある。口縁端部で玉縁状に肥厚するものや小さく屈曲するC類 (261・411・412) も完形品ではなく推定口径は84～100mmである。A～C類はともに共伴する事例が多い。また15世紀後半以降増加するとされる瀬^(g)・美濃焼の天目茶碗との共伴も目立ち、IV類より新相の印象を受ける。A類は白山町遺跡に類例がみられる。V類は15世紀後葉～16世紀前半に比定されよう。

VI類 (90・283・308) 口縁端部をナデにより外反させる丸底のもの。口径80mm、器高18～21mmであり、Aタイプに含まれよう。V類と共に伴することから15世紀後半～16世紀前半の所産であろう。

以上土師質土器の分類を試みたが、調整技法や胎土、色調について十分な検討は行っていない。15世紀後半頃から一定量出現する京都系土師器の出土が本遺跡では不明な点や流通圏など検討課題は残るが、15世紀以降の資料数は少なく今後の資料増加を待ちたい。

第3節 中世後期における遺構変遷と集落構造

遺構の変遷については、遺構の切り合い関係、遺構の相関関係、掘立柱建物の主軸方向、出土遺物を総合して検討し、主要遺構変遷表と第102図掘立柱変遷図を作成した。作成にあたって遺物の少ない掘立柱建物はセット関係と考えられる井戸の時期を帰属させている。I期は14世紀後葉～15世紀中葉頃、II期は15世紀後葉～16世紀前半頃に比定される。また、I期(1)は14世紀後葉～15世紀初頭頃、(2)・(3)は15世紀前葉頃～15世紀中葉頃、II期(1)は15世紀後葉

～16世紀初頭頃、(2)は16世紀前半頃に相当するものであろうか。掘立柱建物の時期分類をはじめ狭い時期幅のなかで造構の複合関係から各時期区分に帰属させたが、細分しすぎたきらいはある。試案であることを了承していただきたい。では、各時期の概要を以下に述べることとする。

I期-(1)は集住化した最初の段階であり、掘立柱建物は北部の総柱建物S B09・20を中心として分布するものと、空間地を挟み南へ20m余り距離を隔て、南部の限られた範囲に分布するものがある。掘立柱建物の分布には企画性がみられ村立ての段階すでに配置の制約、つまり一定の敷地割りが成立していたものと考えられる。以降II期-(2)まで継承される。北部北端N 2区の井戸群S E04・06～08は本期に属し、この北方には関連する掘立柱建物群の存在が想定できる。この時期に限られた一時のものであるが耕作区にはS B52・53とS E49が存在する、井戸と掘立柱建物の併存関係を示す事例である。この段階の終わり頃にはすでにS D08aが削除されていたもようである。

I期-(2)では集落区全般に掘立柱建物が展開するが集落中央部の空間地は残る。前期と同様の建物の分布に加え新たに南部の南側に東西棟の総柱建物S B45とS B49が展開する。

I期-(3)は前期同様、集落区全般に掘立柱建物が展開し、集落中央部の空間地西側にはS B26がみられるが、依然東側には同様の区域が残る。本期頭から柱穴の大きな掘立柱建物と堅穴状造構の構築が始まるようである。またこの段階で東西溝S D08b・22と南北に並行する溝S D02・09・20・21・23～26が削除された可能性が高く、道の整備や集落区と耕作区の境界の明確化、計画性をもつ耕作区の区割りを意図したものであろう。堅穴状造構の出現と併せ、土地利用と生活空間の変化を促したひとつの画期と言え、安定した集落の状況が窺われる。

II期-(1)には北部北側での掘立柱建物は見られなくなるが、本期の堅穴状造構S X05・06の存在はこの北方で建物の存在を示唆する。集落中央部の空間地に大型の東西棟S B23が建てられる。堅穴状造構の構築が活発化し、とくに集落区北端地区の北西部と南部地区南西部の2箇所に、掘立柱建物を避け互いが幾度も複合して集中し分布する⁽¹²⁾。土地利用の制約から主屋の背面(敷地の裏側)に配置されたことによる集中化と考えられ、井戸との複合事例の多さからも領けるものである⁽¹³⁾。

II期-(2)での掘立柱建物と堅穴状造構の分布は前期と同じ様相を呈する。中央部に方形区画溝S D10・11に開まれたS B22が出現する。他の掘立柱建物群は3～7棟が複合しているのに対しこの方形区画内での複合はS B22・23の2棟と少ない。空間地として存在してきた区域としては当然のことでもあるが、建物の建築が抑制されてきたことは特別な意識が働いていた区域としても推察できよう。占有範囲が大きいことや、集落中央部で方形区画溝を有し唯一継承された総柱建物であることから集落を象徴するお堂などの宗教施設か、または集落を指導する有力農民層の屋敷地とも想定できる。区画は溝の内側で南北17.7m、東西16.0m、面積約283m²(85坪)の規模をもつ。建物SB22はやや北側に位置し、敷地内には井戸S E25・堅穴状造構S X23・橋S G01・櫛S A02の施設を有する好事例である。

集落は背面を接し合う敷地がこの方形区画を中心として南北にほぼ対称に形成されている⁽¹⁴⁾。これは敷地割と敷地への出入り方向に関して推察の一助となろう。第3章第3節1で行った小区の設定は、概ね最小単位の敷地に相当するものと考えられ、敷地への出入り方向はN 2②区←北、N 2①区←東、N 1区・S 1区←前面の道S S01、S 2区の①・③区←東、②区←西?、S 3区←南と推定できる。このことは進入路つまり道の存在を肯定するものもあり、報告では道S S02の可能性を想定した⁽¹⁵⁾。

集落は本期を境にして廃絶するが、近世17世紀前半には復活し現在の長池町に至っている。図版1調査区全景に観られるように現長池町へ伸びるS D08の線形が宅地の境界と一致することや住宅の方角が掘立柱建物と同様なことは非常に興味深く、中世後期の地割が連續と現在も生きている証ではないだろうか。

以上簡単ではあるが気のついたことを述べまとめとした。筆者の力量と理解不足のため、遺物や造構の年代について船錨を生じているかも知れない。おわびするとともに、今後の課題としたい。大方の御批判・御叱正を願うものである。

表4 中世後期主要遺構変遷表(試案)

地区	I 期 (14世紀後葉～15世紀中葉)			II 期 (15世紀後葉～16世紀前半)		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	
N 2 ①	SB03	SB02	SB01			
	SE01	SE02	SE03	SX02	SX01	
	SK03	SK01				
N 2 ②	SD03	SD04	SD02		SD01	
	SE04	SE05				
	SE06～08			SX05・06	SX07	SD05・06
N 1 ①	SB06	SB05	SB04			SX08
	SD03					
N 1 ②	SB09	SB10	SB11	SB08・12	SB07・13・14	
	SE09・16	SE11	SE10	SE15	SE12	
			SX09・13	SX11・15	SX10・14	SX12
	SD08a →		SD08b →	SD07		→ SD08
	SB16・20	SB18・21	SB15	SB17	SB19	
N 1 ③	SE21		SE19	SE20	SE22	
			SX17	SX18～20		SX16
	SK26		SK13	SK14		
S 1 ①				SB23	SB22	
			SX24	SX22・21	SX23	
				SK27	SD10・11	
				SB26	SB24・25	
S 1 ②				SE26		
			SX26	SD13	SX25	
S 2 ①	SB27・31・34	SB29・36	SB32	SB28・33	SB30・35	
	SE29		SE28	SE30	SE27・31	
S 2 ②	SB37・43	SB42	SB40	SB41	SB38・44	SB39
	SE32	SE36		SE34	SE35	SE33
				SX27～29		
				SK41・42・43		
S 2 ③		SB45	SB46	SB47		
				SE40		
		SX35		SX33・34	SX36	
				SX40	SX39・41・42	
S 2 ④			SK47	SK48	SK49	
				SX45・46	SX43	SX44
		SB49	SB50	SB51	SB48	
S 3				SE41	SE43・44	
			SE48	SE45	SE46・47	
		SX49			SX47	
		SD17・18	SD16・19			
耕作区	SB52・53			SX55		
	SE49		SD20～26 →			



I 期 (1)



II 期 (1)



I 期 (2)



II 期 (2)



I 期 (3)

第102図 据立柱建物変遷図（試案）

註

- (1) 堀内光次郎 1984年「陶磁器の組成と機能分担」『普正寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- (2) 堀内光次郎 1985年「中世 北加賀の陶磁器流通成について」『鶴来町白山遺跡・白山町埴生遺跡(II)』石川県立埋蔵文化財センター
- (3) 堀内光次郎 1998年「出土陶磁器類の組成について」『木越光琳寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- (4) 川畠 誠 1992年「平成元年度出土遺物の検討」『小川』石川県立埋蔵文化財センター
- (5) 註(1)で組成比の変化は珠洲焼の生産衰退とあわせ遺跡の存続期間の遅いと捉えられている。
- (6) 藤田邦雄 1989年「中世土器素描」『北陸の考古学』石川考古学研究会
藤田邦雄 1997年「中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
- (7) 註(6)1989文献。
- (8) 堀内光次郎ほか 1984年『普正寺遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- (9) 望月精司 1993年『鉢窯遺跡』小松市教育委員会
- (10) 藤田邦雄 1990年「中世の遺構と遺物」『小松市高堂遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
- (11) 西野秀和ほか1985年『鶴来町白山遺跡・白山町埴生遺跡(II)』石川県立埋蔵文化財センター
- (12) N 1区②区のS X09~13など複数を繰返す堅穴状遺構は、富山県福光町梅原胡摩堂遺跡の中世後期段階で多くの類例がみられ、松任市宮永松原市遺跡で一例報告されている。
- 富山県文化振興財團 1994年『発掘調査報告(遺構編)』
- 木田清 1994年『松任市宮永松原市遺跡』松任市教育委員会
- (13) 堀内光次郎 1988年「第2次調査のまとめ」『佐々木アサバタケ遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
宅地内の井戸と堅穴状遺構の隣接性や宅地構造の対称性について指摘されている。
- (14) 註(13)に同じ。
- (15) 限られた範囲の調査で集落の全貌は明らかではないが、大胆に想像すれば約50~60m四方を基本とした区画状に道が存在していたのではなかろうか。集落区の東西道S S01の南端ラインを基準にするとN 1区の南北長は約27m、S 1①区+S 2①区の南北長は約30mであり、これらの2倍したものが基本区画長となり得るのではと想定した。他の事例も含め今後の検討課題である。

参考文献

- 吉岡 康暢 1991年『日本海城の上器・陶磁 [古代編]』 六興出版
- 藤田 邦雄 1997年「中世加賀国の土師器様相」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
- 堀内光次郎 1997年「加賀国の陶磁器流通」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
- 田島 正和 1997年「遺構からみた加賀国」『中・近世の北陸』北陸中世研究会
- 前川 要 1996年「中世の家族と住居」『家族と住まい』考古学による日本歴史15 雄山閣出版
- 吉岡 康暢 1994年『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 北陸中世土器研究会 1993年『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』
- 財团法人漚市埋蔵文化財センター 1997年『研究紀要第5編』



遺跡周辺（南より、中央付近が長池町と本遺跡）



平成2年度 (1990年) 調査区全景 (北より)



集落区 N2・N1・S1区 (←北)



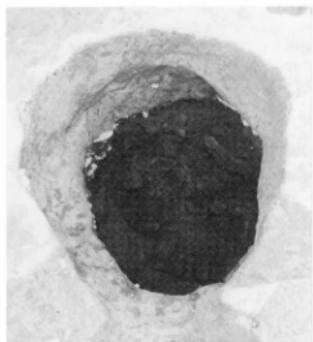
N2区 東(西より)
SB01・02



N2区 西(西より)
SX01~07・SE04~08



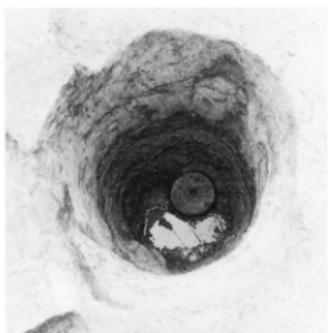
SX01～03 (東より)



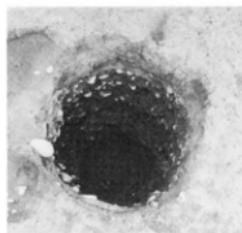
SE02



SE01



SE03



SE08



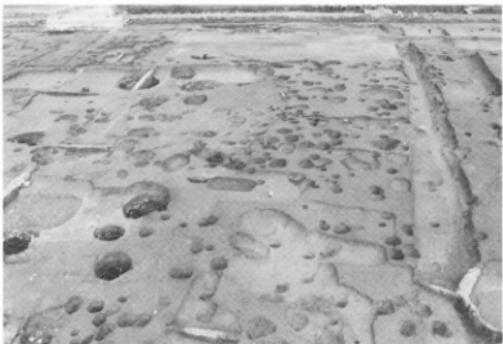
SX04・SE06



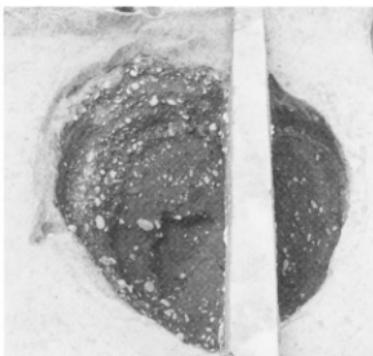
SK01



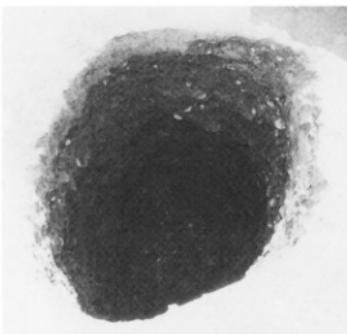
SK03



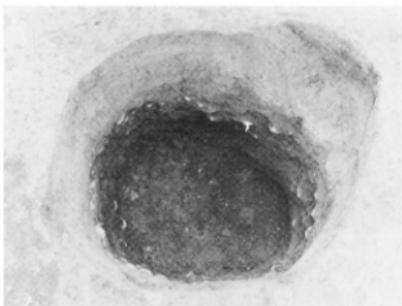
N1区 南 (西より)
中央SB09~14群



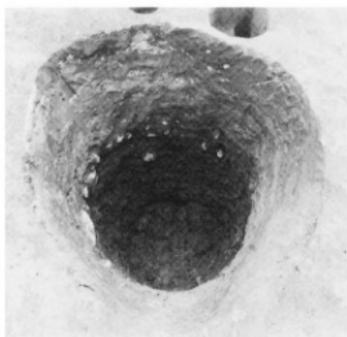
SE09



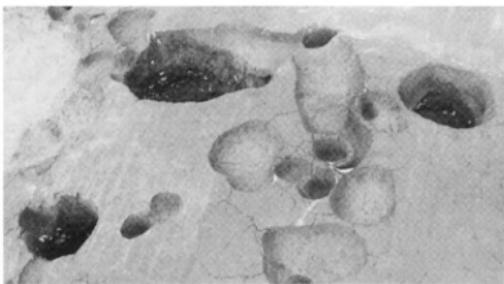
SE10



SE12



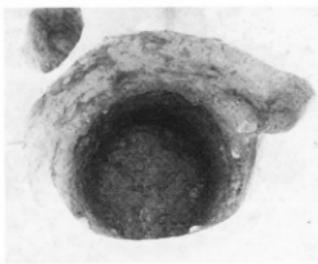
SE13



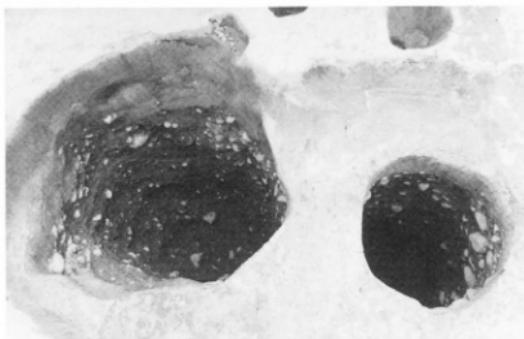
SE17

SE15

SE16

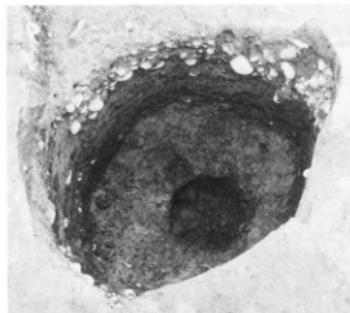


SE18

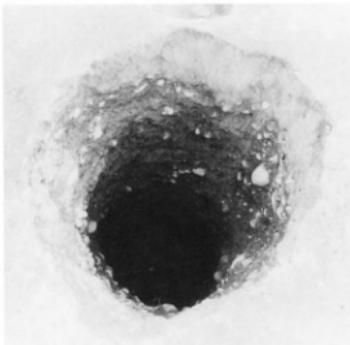


SE19

SE20



SE21



SE22



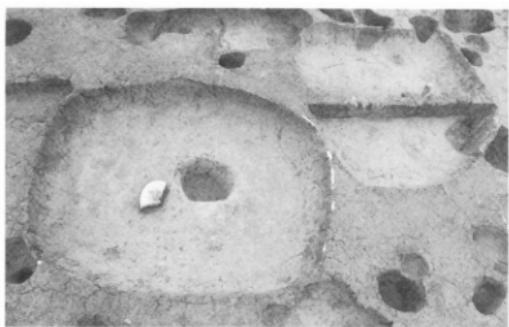
SX08



SX09~13・SE09~14 (南より)

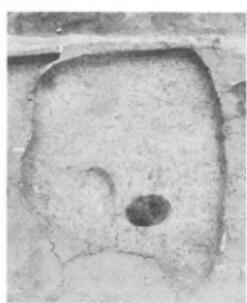


SX14~20・SE19~23 (西より)

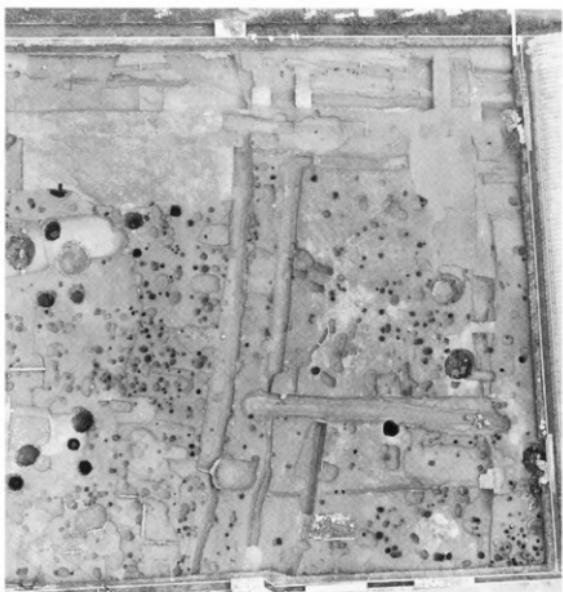


SK05

SK06



SK08



NI区 南・SI区



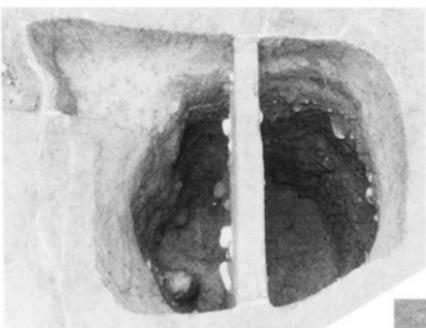
SB22・23・方形型区画溝 SD10・11 (西より)



SB24



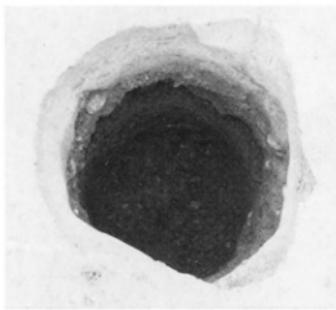
SD08・SS01 (西より)



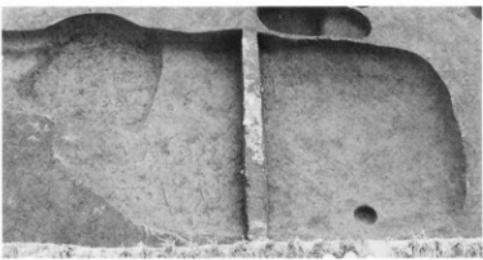
SE25



SX21・22



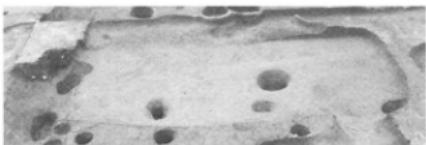
SE26



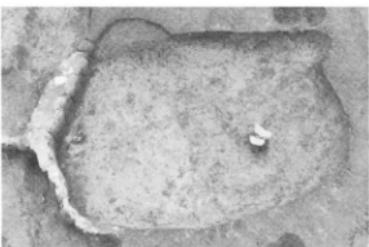
SX24



SX26



SX25



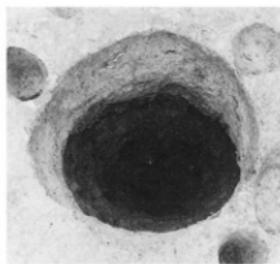
SK27



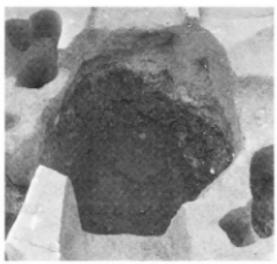
S2区 北 (↓北・平成3年度調査区全景)



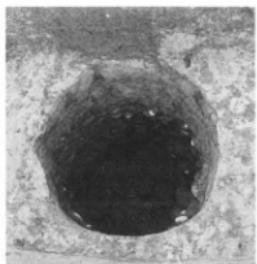
S2区 南・S3区 (西より)



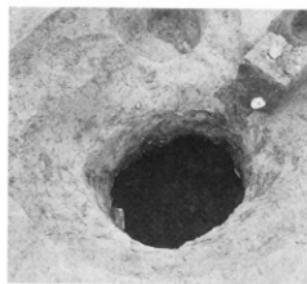
SE27



SE28



SE29



SE30

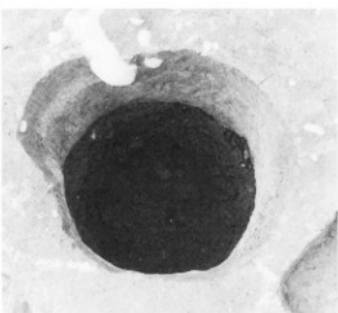


SE35

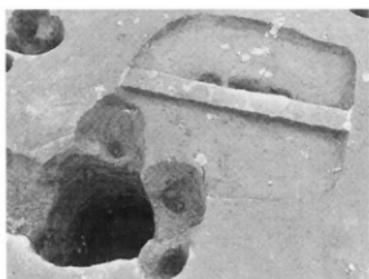
SE34



SE36



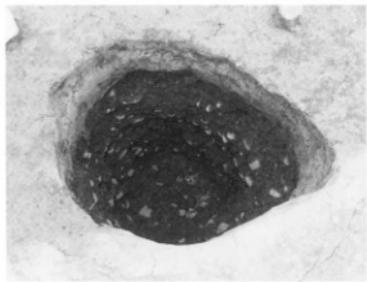
SE39



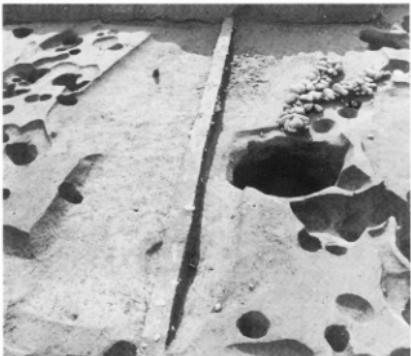
SE38 · SK44



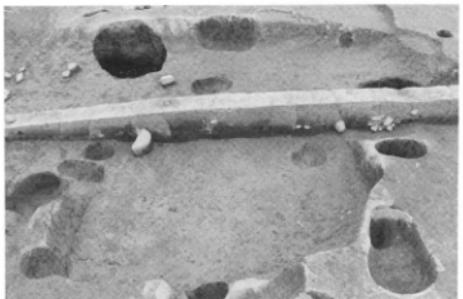
SK45 · SE39



SE40



SX27~29 (北より)



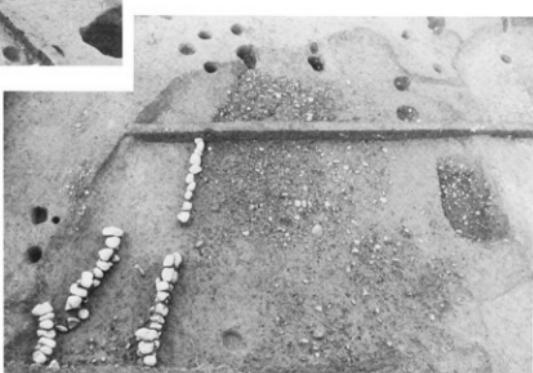
SX33・SK47 (下)



SX33~42・SK49 (左下)



SX34~46 (東より)

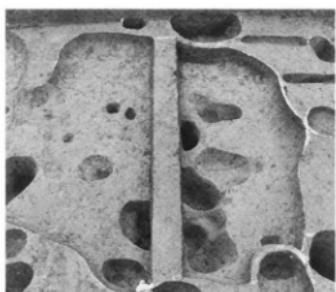




SK32



SK33・34



SK35



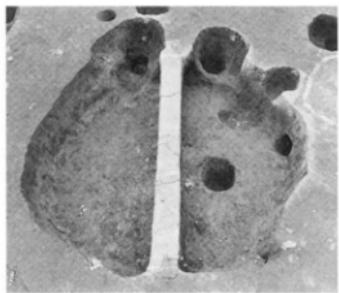
SK40



SK41



SK43



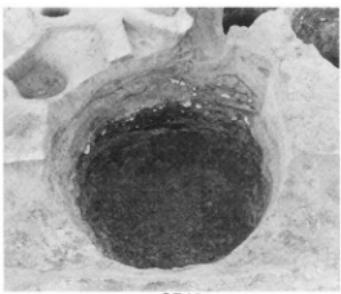
SK45



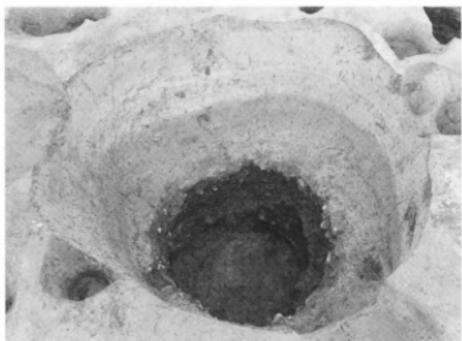
S3区 SB48～51（西より）



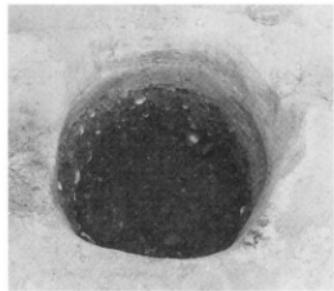
SE42・41



SE43



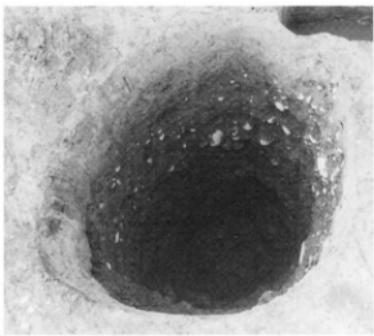
SE44



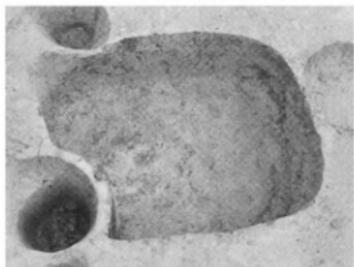
SE45



SX47~51 (西より)



SE48



SK50



SI01



耕作区（北より）、SB52・53



SE49



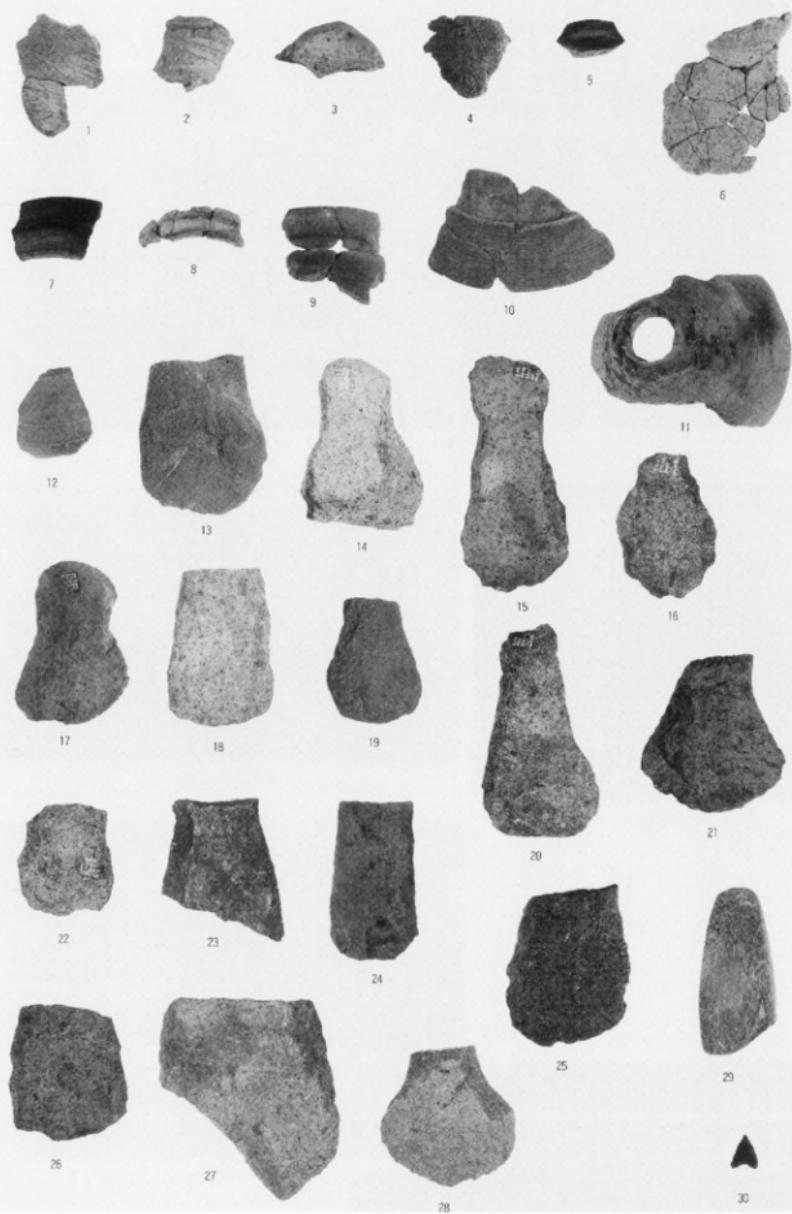
耕作区南（東より）

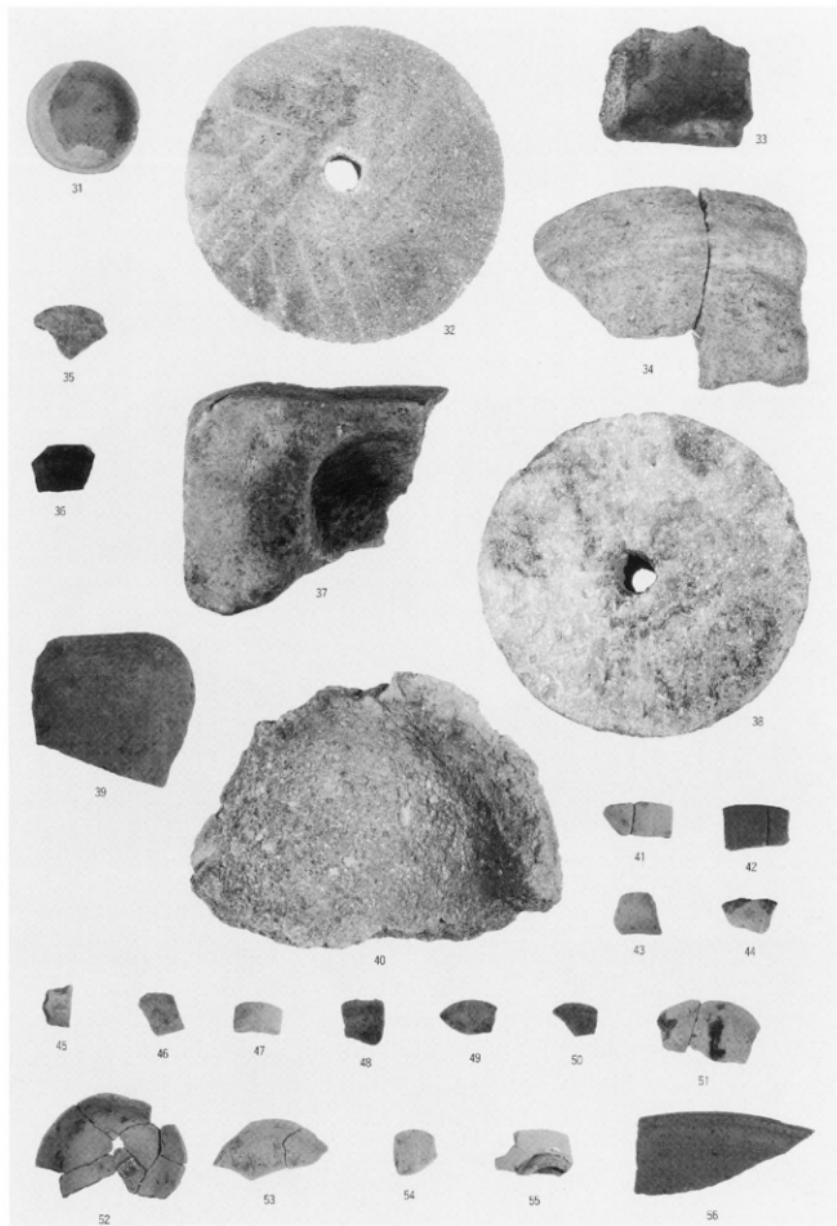


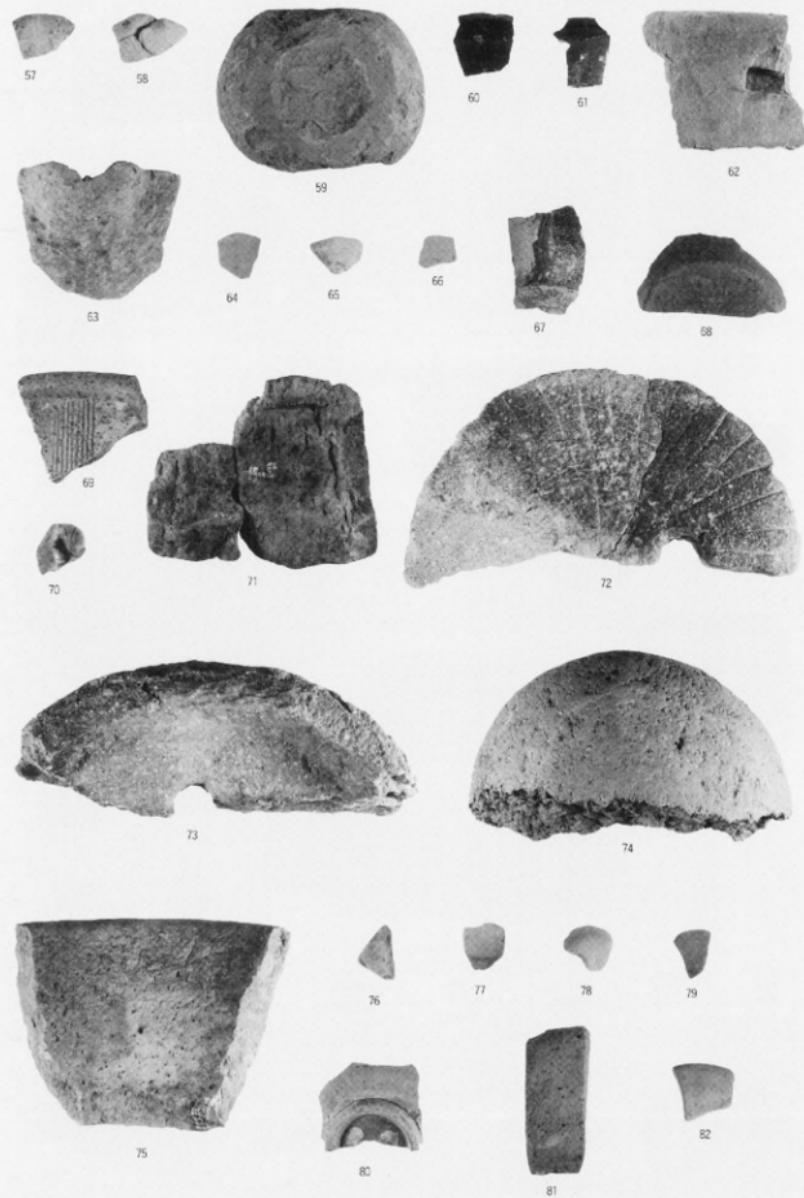
SX53～56（北東より）

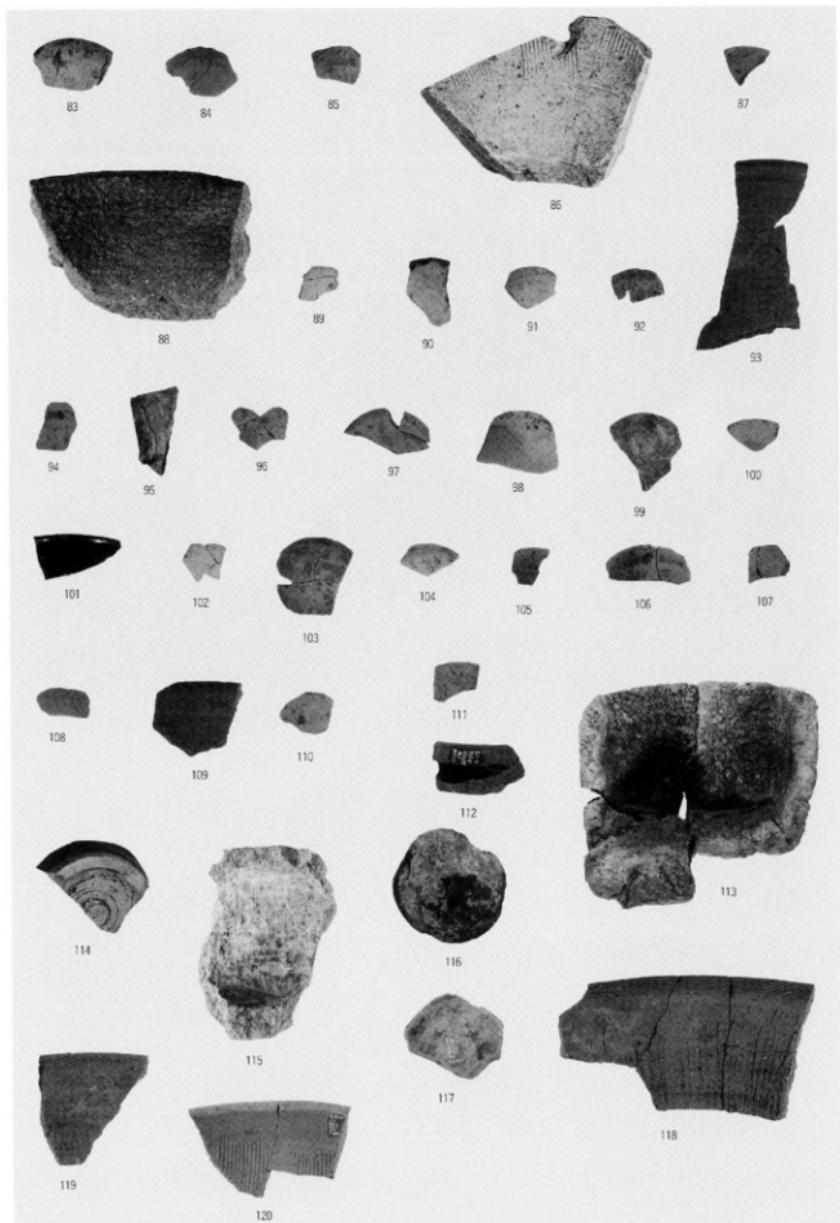


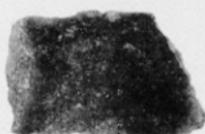
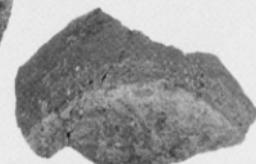
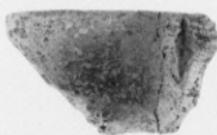
SD08・22・SS01（東より）









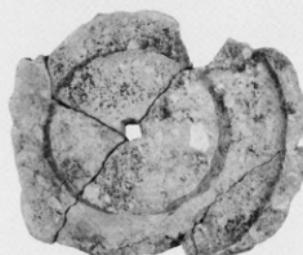




138



139



140



141



142



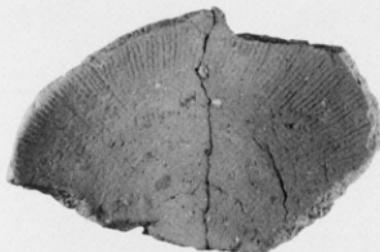
143



146



144



145



147



148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158



159

160

162

163

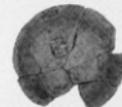
165

164

166

167

168



169



170



174



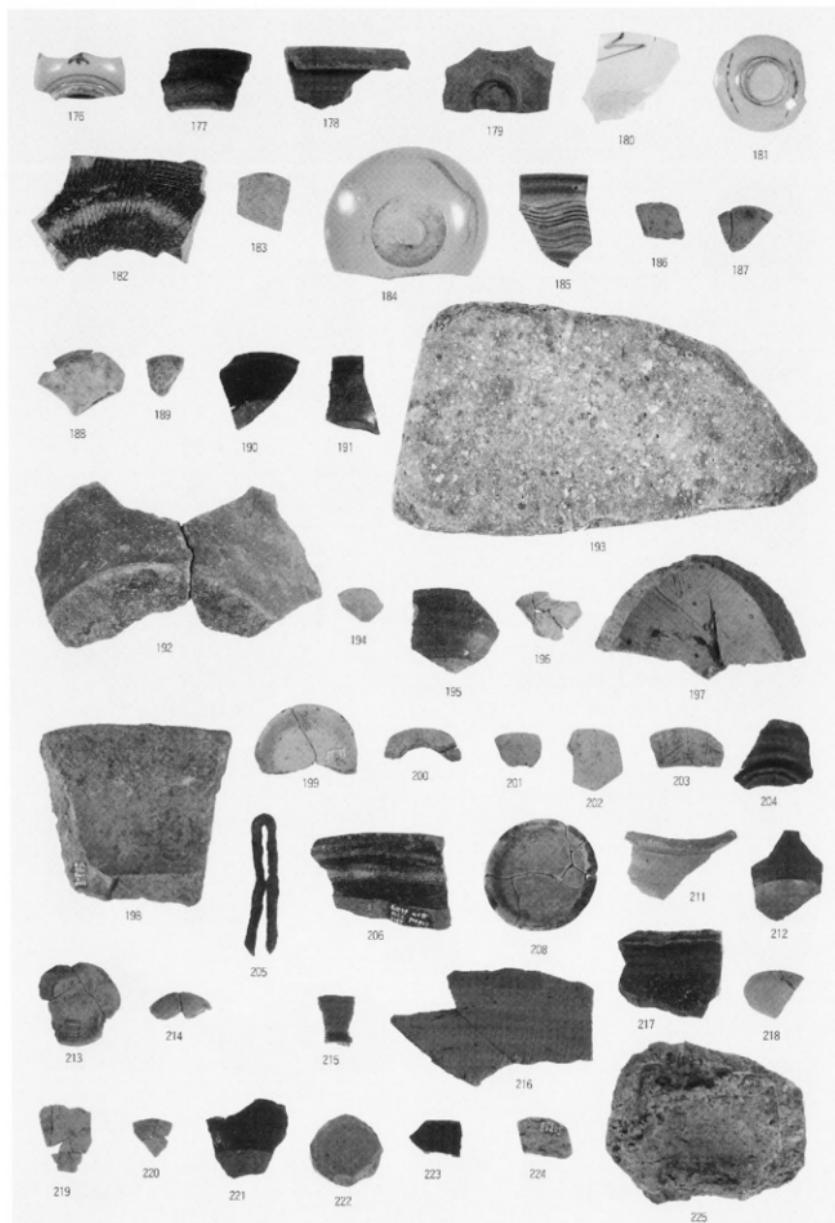
172



173



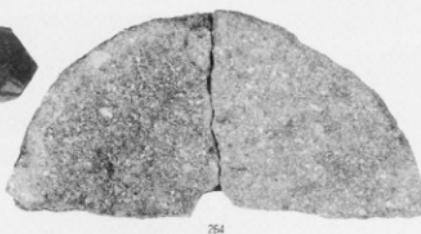
175







263



264



265



266



267



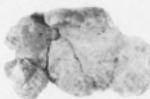
268



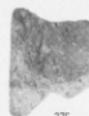
269



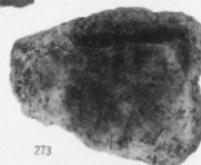
270



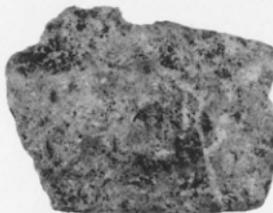
271



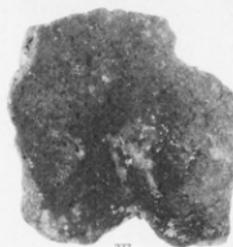
272



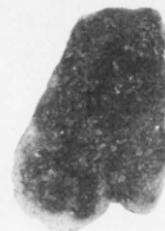
273



274



275



276



277



278



279

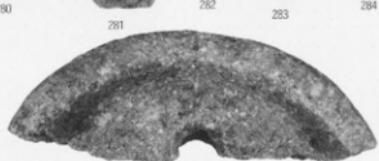
280

281

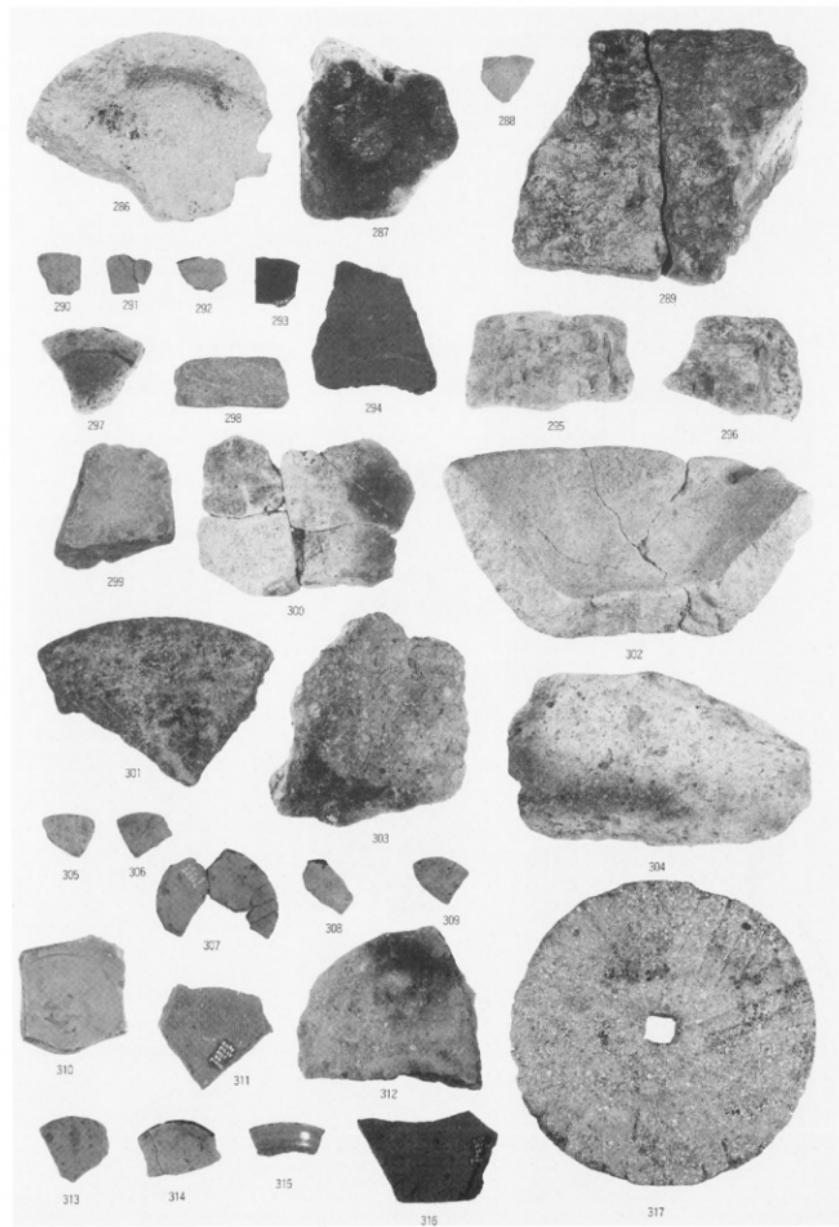
282

283

284



285

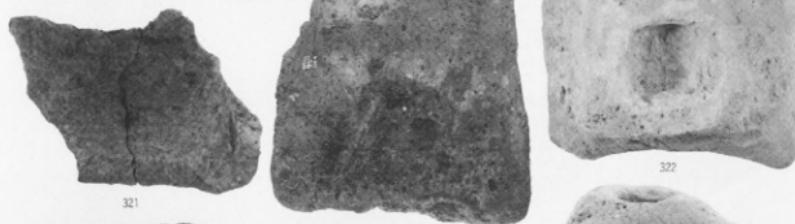




318

319

320



321

323

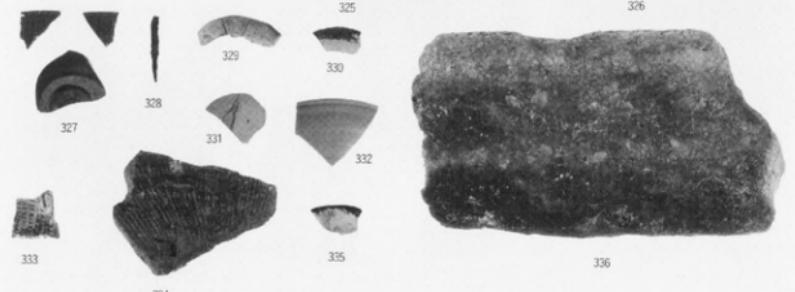
322



324

325

326



327

328

329

330

331

332



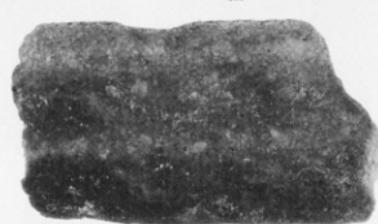
333

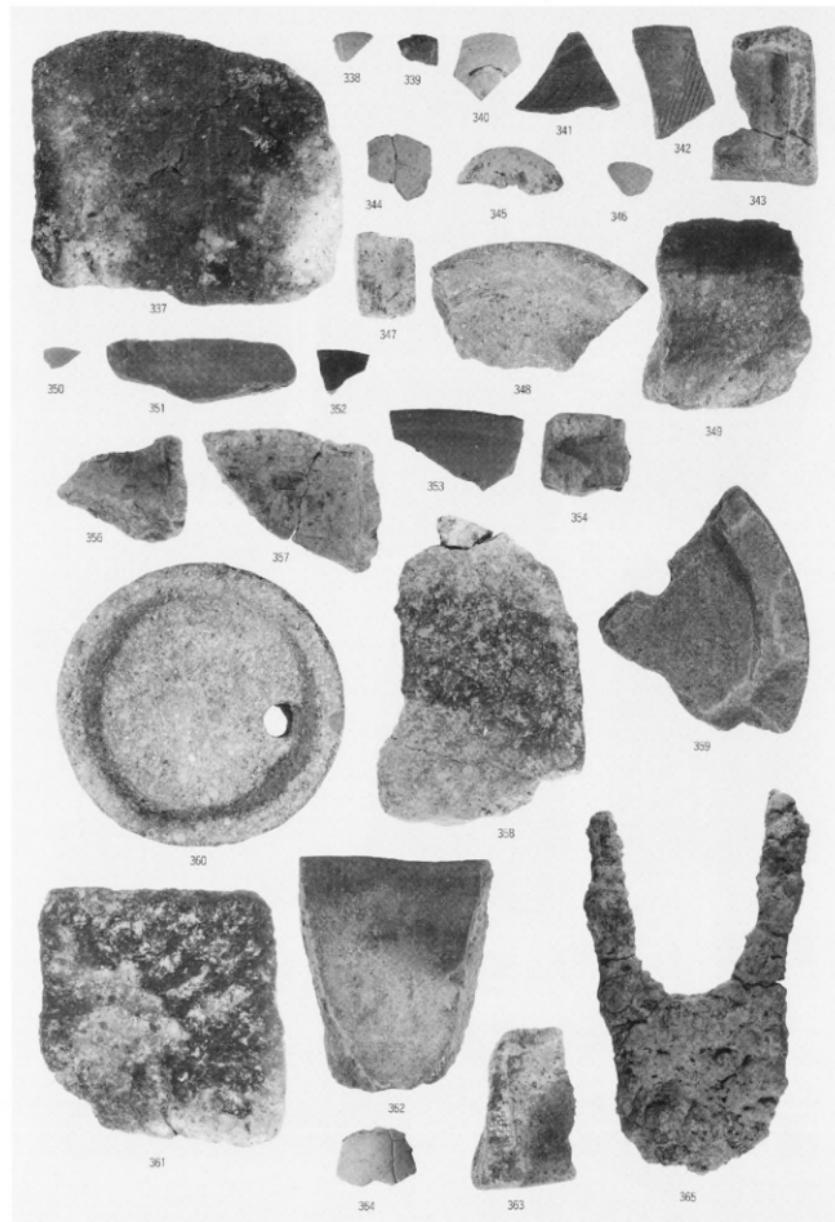


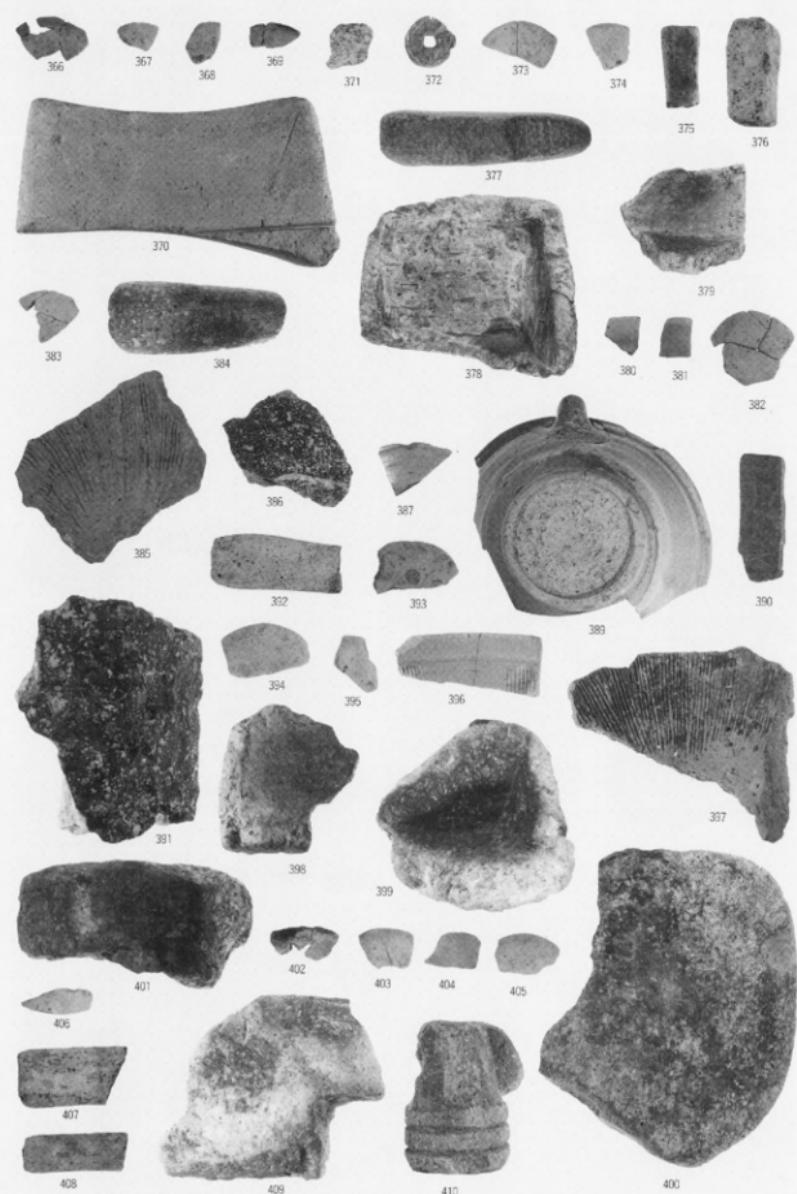
334

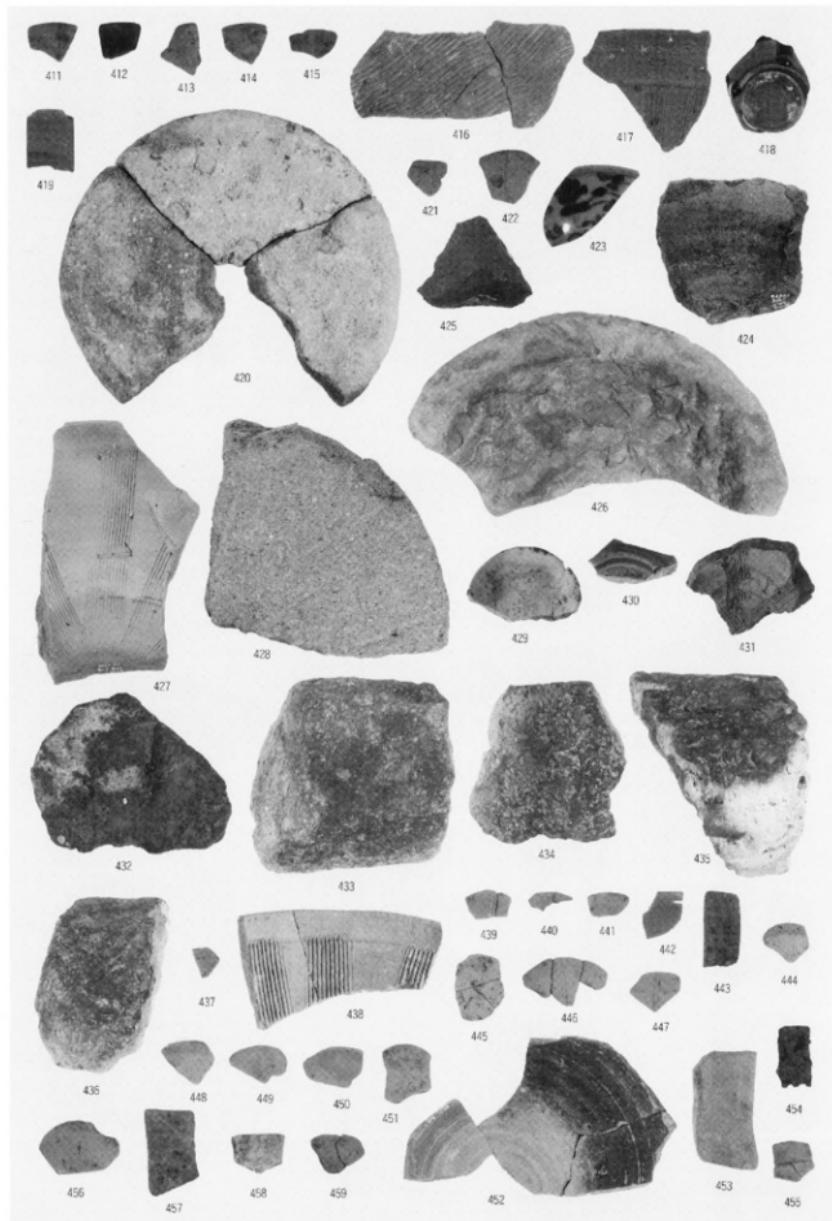
335

336











報 告 書 抄 錄

フリガナ	ナガイケ							
書 名	長池キタノハシ遺跡							
副 書 名	御経塚第二土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ							
巻 次								
シ リ ーズ 名								
編 著 者 名	吉田 淳							
編 集 機 関	石川県野々市町教育委員会							
所 在 地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4-1 TEL 076-246-2344							
発 行 年 月 日	2000年3月31日(平成12年)							
フリガナ 所 収 遺 跡 名	フリガナ 所在地	コ 一 ド	北緯	東經	調査期間	調査 面積	調査原因	
ナガイケ 長池キタノハシ	イシカワエンシカワクン 石川県石川郡 ノライマチナガイマチ 野々市町長池町	17344	16025	36度 32分 22秒	136度 35分 55秒	1990年5月17日～12月13日 1991年10月29日～12月16日	4000m ² 420m ²	土地区画整 理事業に係 る緊急発掘 調査
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主な遺物	特記事項		
長池キタノハシ	その他	縄 文			土器、打製石斧	集落地と耕作地が 区分され、集住化 する中世後期の農 村集落遺跡。		
	集 落	弥 生	竪穴建物3		土器			
	集 落	中 世	掘立柱建物53 井戸47 竪穴状遺構56 棚列5 土坑51 溝25 道1		土師器、青磁、白磁、陶器 石臼、行火、石鉢、砥石 圍炉裏縁石			
		その他の時代	近世～近代	土坑6 溝3	陶磁器、銭貨			

長池キタノハシ遺跡

発 行 2000年3月31日（平成12年）

編集発行 野々市町教育委員会

〒921-8815

石川県石川郡野々市町木町5丁目4-1

印 刷 株式会社 笠間製本印刷所

